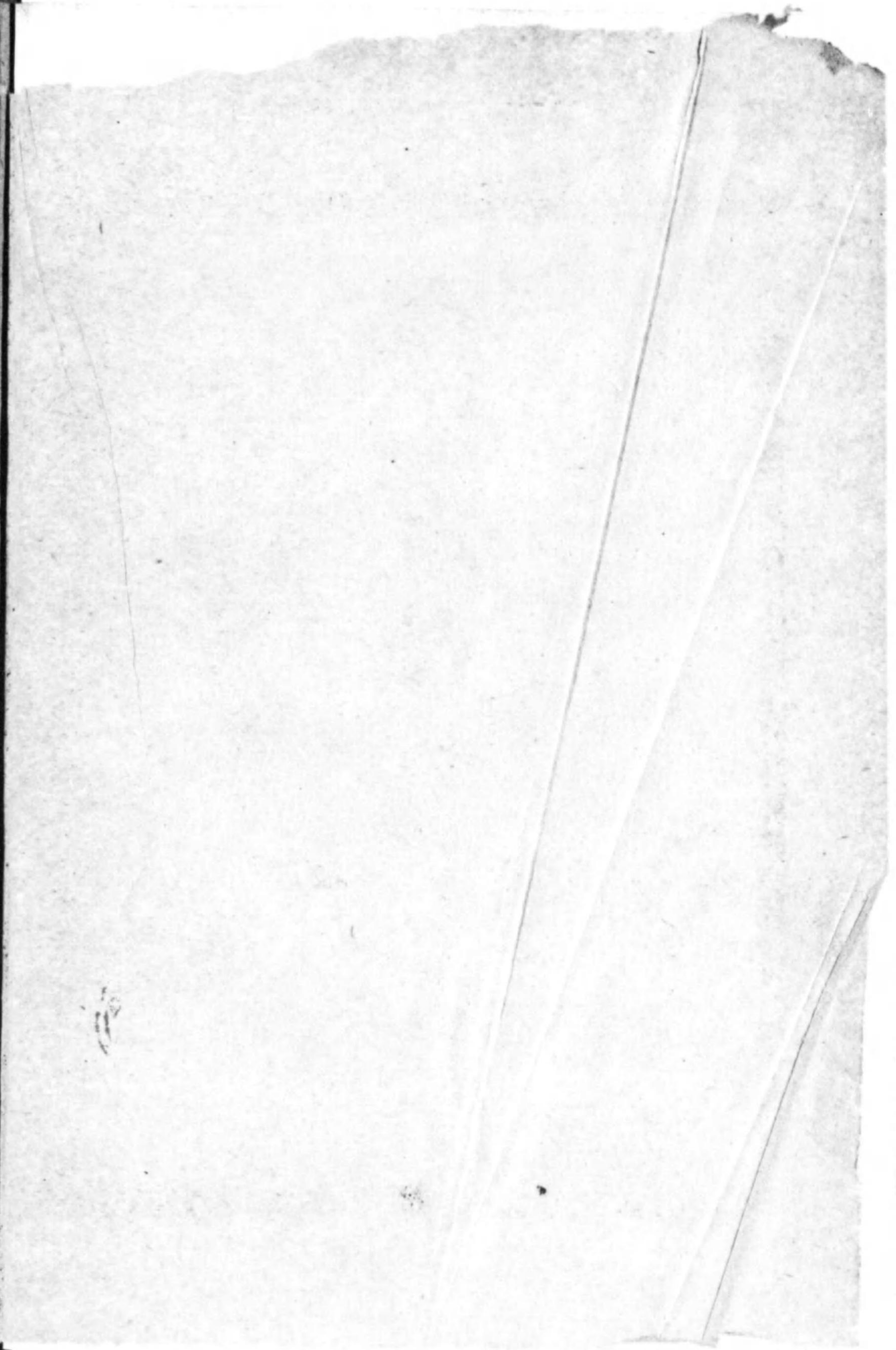


服部誠一著

臺灣地誌

全



凡例

- 一 本書ハ、中學科ヲ標準トシテ之ヲ編纂シ、以テ教科用ニ適合セシムルニ最メ傍ヲ教員ノ參考書ニ供シ且併セテ普通人トシテ、臺灣地理ヲ知ラントスル者ノ指南タラシムルヲ以テ其目的トセリ、
- 一 本書ハ、閱讀ニ便ナラシムルガ爲メ、歐洲地理家ノ付下シタル地名、港名及ヒ山名等ハ、假字ヲ用井ズ、總テ漢字ヲ以テ填充セリ、
- 一 臺灣島ハ、施治ノ日猶淺キヲ以テ、内地地名ノ如キハ、清人ノ付シタルモノト、歐人ノ付シタルモノトノ二アリ、本書ハ其二者ニ就キ、人耳ニ慣レタルモノハ、勉メテ之ヲ採リ、從來清人ノ付名アラザルモノハ、姑ク歐人ノ付名ニ從ヒリ、

一 本書ニ掲ゲタル山脈等ハ、専ラ歐人ノ付名シタルモノニ據レ、
 リ、從來支那人ノ付名シタルモノナキニアラズト雖モ、僅ニ大山
 脈ノ起源ヲ誌スニ過ギズ、今若シ之ニ依ラバ、他ノ數多ノ支山脈
 ナ誌スニ當リ、却テ讀者ノ惑ヒヲ惹クノ恐レアリ、故ニ臺灣全島
 ノ山脈ハ、從テ歐人ノ付名スルモノニ從ヒ、之ヲ一定シテ讀者ノ
 記憶ニ便ナラシメタリ、

一 山岳、河流、沼湖等ノ名稱モ、亦從來ノ名稱ヲ用マルニ最メタリ、
 然レドモ其位置等漠然トシテ、知り易カラザルモノアリ、故ニ是
 等モ亦歐人ノ付名ニ據レルモノ甚ダ多シ、而シテ行政區劃ノ關
 係ニ因リ、某縣管内ニ屬スルモノニ至テハ、支那人所編ノ臺灣地
 誌ニ掲グルモノヲ採リ、其最モ名アルモノハ、勉メテ之ヲ載誌セ
 リ、

一 港灣、都市等ノ位置ハ、正確ナル臺灣地圖ニ基キ、其經緯度ヲ測
 リテ之ヲ示セリ、

一 臺灣島ノ行政區劃ニ關スル境界ハ、曾テ井然タラズ、殊ニ新置
 縣ニ至テハ、殆ド之ヲ知悉スルニ由シナク、蕃地ニ接スル縣界ノ
 如キハ最モ然リトス、故ニ本書ニ掲グル行政區劃ノ境界ハ、舊來
 ノ設置ニシテ、最モ分明ナル縣界ニ由テ、其大要ヲ示シ、境界分明
 ナラザルノ新縣ハ、之ヲ舊來ノ縣治界内ニ包裹セシメ、單ニ其位
 置ヲ示スニ止ラシメタリ、

一 行政區劃ハ姑ク從來ノ區劃ニ仍レルヲ以テ、他日更ニ行政區
 劃ヲ定メ、我新治ヲ施スノ日ヲ待テ、大ニ訂正ヲ加フベキヲ期ス、
 一 臺灣東部ノ蕃地ハ、其副員面積等未ダ詳カナラザルヲ以テ、今
 各書ヲ參觀シ、以テ其一班ヲ掲グルニ過ギズ、亦是レ他日ノ實測

ナ待テ、増補スル所アルベシ、

一 本書ニ掲グル兵備ハ、支那設置ノ兵營及ビ兵數ヲ掲ゲタルモノニシテ、猶之ニ仍ルヲ期スルニアラズ、唯ダ以テ其守備スベキ要所ヲ知ラシムルノ意ニ出ルニ過ギズ、故ニ他日我守兵ヲ配置スルノ日ハ、亦訂正スル所アルベシ、

一 本書ニ掲グル行政官制ノ如キモ、亦臺灣從來ノ制度如何ヲ示シ、以テ讀者ノ參考ニ供スルニ過ギズ、亦是レ我新官制ヲ設ケテ之ヲ實施スルノ日ヲ待テ、更ニ其新官制ニ基キテ訂正ヲ加フベシ、

一 本書ノ要ハ、帝國臣民ヲシテ速ニ我新領地理ノ一斑ヲ知ラシムルニ在リ、此新領地ハ帝國戰勝ノ結果トシテ清國ヨリ讓與セラル、所ニ係リ、今ヨリ益ス國威ヲ宣揚シ、國權ヲ擴張スルニハ、

須ヲク先ヅ此新領地ヲ進化セシムルニ努メザルベカラズ、隨テ我臣民モ亦一般ニ之ニ注目シ、之ヲ牢記スルヲ必要トス、是レ本書ハ我新治ヲ施スノ日ニ値フヲ待タズ、之レガ編纂ヲ速成ナラシメタル所以ナリ、

一 本書ノ編纂ハ、教科用トシテ編纂スル一般ノ地理書ニ摸範ヲ取ルト雖モ、臺灣ノ地理ニ至テハ、未ダ人跡ノ到ラザル所甚ダ多キヲ以テ、多少隔靴爬痒ノ感ヲ免レザルモノナキニアラザルベシ、例ヘバ地方ノ面積、蕃地ノ人口、平原ノ廣袤、道路ノ里程ノ如キ是レナリ、是等ハ姑ク新舊平均ノ概算ヲ掲ゲ、他日ヲ待テ更ニ其實數ヲ示スベシ、

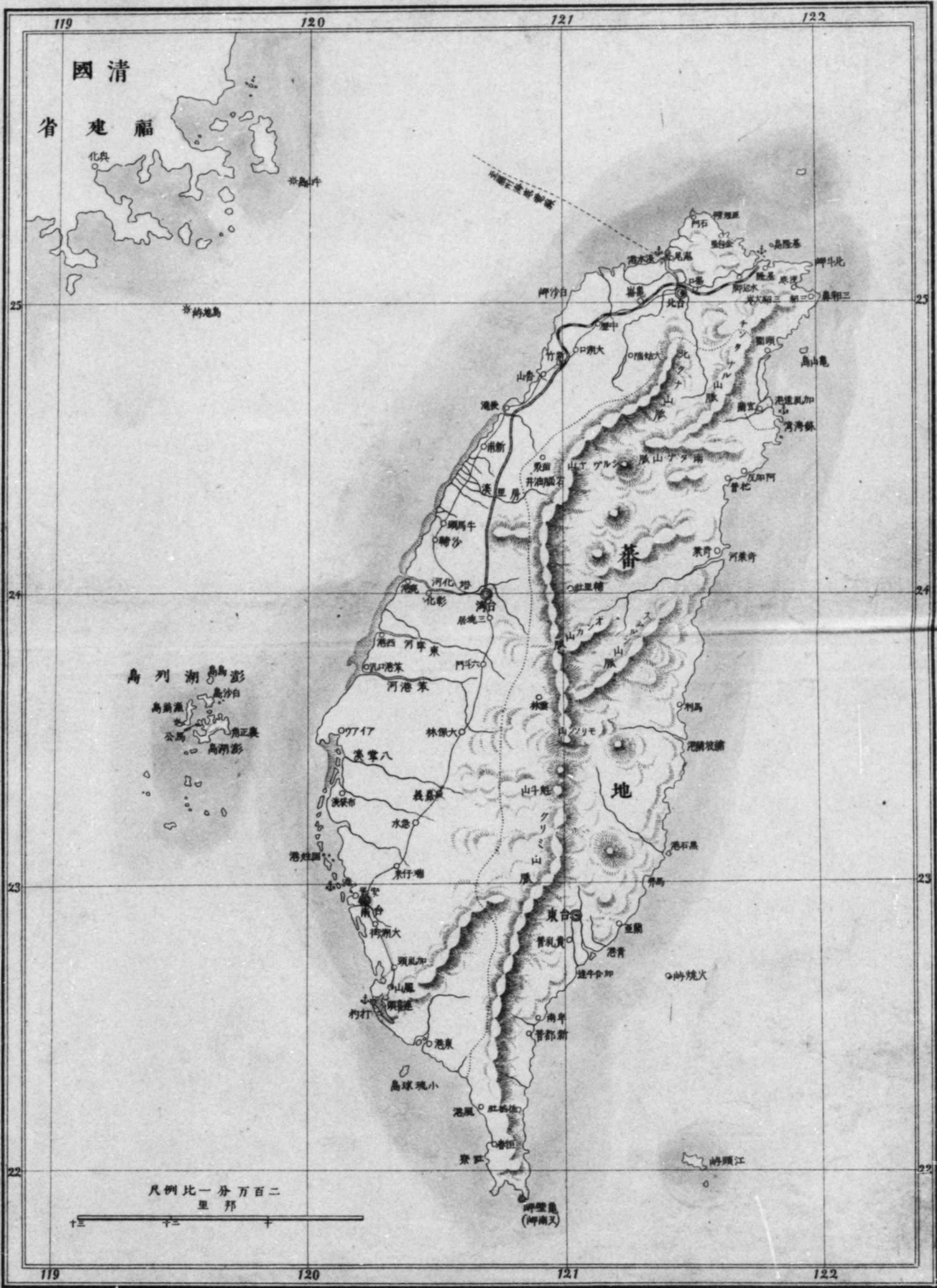
一 本書ハ臺灣ノ沿革ヲ誌スニ、事實ノ明確ナルモノハ之ヲ漏サマルニ努メ、地理書トシテハ寧ロ煩冗ノ嫌ヒアルベシト雖モ、曾

テ日本ト臺灣トノ關係如何ヲ知ラシムルニハ、之ヲ舉ルヲ必要
トス、且ツ我邦未ダ臺灣史ト稱スベキモノアラザルヲ以テ、地理
ト俱ニ其沿革ノ綱領ヲ知ラシムルハ亦甚ダ肝要ナリ、是レ敢テ
煩冗ヲ避ケズ、事跡ノ以テ考證スベキモノハ、沿革誌ノ下ニ之ヲ
附誌シタル所以ナリ、

一 本書ハ引用書ニ乏シク、廣ク内外ノ書ヲ參觀スルニ、採テ以テ
材料ト爲スベキモノハ寥寥タリ、今姑ク其信ズベキモノニ就テ
之ヲ撰擇シ、以テ本書ヲ編纂セリ、故ニ其誌ス所ハ以テ臺灣全島
ノ概況ヲ、知ラシムルニ過ギザレバ、他日ノ實測ヲ待テ、大ニ改定
増補スル所アルベキナリ、

明治二十有八年六月

編者著



國清

省建福

北興

澎湖

釣魚島

澎湖列島
澎湖
白沙
公島
正島
湖山

凡例比一分万百二
里邦





帝國新領臺灣地誌

第一編

臺灣島總論

臺灣島總論

位置

〔位置〕 臺灣島ハ大平洋ノ北西ニ位シ、亞細亞東南部ノ一大島ニシテ、北緯二十一度五十七分(崑波岬)ヨリ、二十六度(富基岬)ニ至リ、東經百十九度五十分(谿鼻岸)ヨリ、百二十二度(土亞某岬)ニ達シ、北緯二十四度ト東經百二十一度五分ノ交叉點ヲ以テ其中心トス、

廣袤

〔廣袤〕 臺灣島ハ東海ト支那海トノ間ニ横臥シテ、魚形ヲ爲シ、南北ニ延長シテ東西ニ短縮シ、北端ヲ首トシテ南端ヲ尾トシ、延長二百四十哩ニシテ、幅員七十哩乃至八十哩

幅員

境界

周邊ハ四百五十哩ニシテ、面積ハ一萬四千九百七十八方哩トス、

〔境界〕 東ハ渺然タル大平洋ニ臨ンデ、琉球ノ都島ト鄰接シ、南ハ支那海ヲ隔テ、呂宋ト對向シ、北ハ東海ノ濱ニ面シ、西ハ約ソ二百哩ノ海峽ヲ隔テ、清國ノ廈門及ビ福州ニ近邇ス、

屬島

澎湖列島

〔屬島〕 屬島ノ最大ナルモノヲ澎湖列島トス、臺灣島ノ西ニ位シテ二十一箇ノ島嶼ヨリ成立シ、澎湖本島、漁翁島、白沙島、三角島、丹頂島、枋島、小枋島、倉島、單島、羊坪島、高島、戎克島、筆錠島、連島、群島、鳥島、有島等其名アルモノニシテ、澎湖本島ヲ以テ最大トシ、漁翁島、白沙島之ニ次ギ、三島相抱ヘテ一大灣ヲ爲シ、以テ本列島ヲ形成ス、

列島ノ形勢

列島ノ廣袤

列島ノ人口

列島ノ物産

紅頭嶼

澎湖島ハ島廳ヲ置キ、布政使ノ駐在スル處ニシテ、其市ヲ媽宮ト曰フ、周圍ニ城壁ヲ繞ラシテ、住民亦少カラズ、市ノ前岸ニ二灣アリ、一ヲ喙哥灣ト曰ヒ、一ヲ圓頂灣ト曰フ、喙哥灣ノ西岬角ニ砲臺アリ、馬公城ト云フ、本島ハ南北ノ延長七哩ニシテ、全島ノ周圍百三十五米突アリ、住民ハ概シテ漁獵ヲ業トス、漁翁島ハ一名西島ト稱シ、澎湖本島ヲ距ル西三十米突ニ在リ、人口五千二百餘、概シテ漁獵ヲ專業トスルモ、農業ヲ營ム者モ亦少カラズ、此島ニモ二箇ノ砲臺アリ、白沙島ハ澎湖本島ノ西北ニ位シテ一灣アリ、大倉灣ト曰フ、住民亦漁業ヲ專ラトス、此三島ノ物産ハ甘藷、落花生、黍、小米、魚類等ヲ主眼トス、其他屬島ノ大ナルモノヲ紅頭嶼トス、臺灣ノ東南ニ在リ、小紅頭嶼之ニ屬ス、又打狗

諸屬島ノ名稱

ノ西南ニ在ルモノヲ、小琉球島ト曰ヒ、黑石灣ノ東ニ在ル
モノヲ、火燒島ト曰フ、又臺灣大灣口ノ北ニ位スル一列島
ヲ、七鯤身、鹿耳門、安平鎮、海翁窟、南鯤身ト曰ヒ、雞籠港ノ東
北ニ在ルモノ、一ヲ雞籠島ト曰ヒ、一ヲ西樓島ト曰フ、

海岸線

〔海岸〕 臺灣島ハ東ハ大洋ニ臨ミ、南ハ支那海ヲ繞ラシ、
北ハ東海ニ濱シ、西ハ海峽ニ沿ヒ地形甚ダ延長ナルモ、海
岸線ハ斜メニ帶ヲ拖クガ如ク、屈曲縈紆タル處多カラズ
シテ、岬角ト稱スルモノ甚ダ少ク、隨テ良港灣ニ乏シ、

岬角

〔岬角〕 岬角ハ南端ニ崑波岬アリ、此岬角ヲ南灣トス、東岸
ニハ龜壁岬、羅巴岬、加斯岬、羅浮岬、加阿岬、撒奈爾岬、士和岬、
亂撒爾岬、阿羣岬、伯亞岬等アルモ、以テ澳灣ヲ爲スモノ少
ナシ、北端ニハ蠟臺岬ト富基岬ノ尖角ヲ爲シテ、東海ニ突

岬角ノ名稱

港灣

出スルアリ、西北ニハ刺巴岬アリ、此岬角ニ一澳アリ、撒利
多澳ト曰フ、又淡水港ノ北岸ヲ撒刺岬ト稱ス、此岬角ニ燈
臺ノ設置アリ、船舶ノ淡水港ニ入ルモノハ、此燈臺ヲ以テ
水路ノ目標トス、淡水港ノ西部ニ巴古和岬、新岬、刺伯岬、士
亞某岬、思太岬等アリ、西南ニ向テ阿萬里岬、斯某斯岬、普智
尼岬、阿巴岬、馬士岬、萬士岬等アリ、是等ノ岬モ以テ澳灣ヲ
爲スモノ多カラズ、

淡水雞籠其他諸港ノ位置

〔港灣〕 本島ノ海岸線ハ北西岸ヲ除クノ外、淺灘又ハ沙質
ニ屬シテ、港灣ヲ爲スモ、以テ船舶ヲ碇泊セシムベキモノ
甚ダ少シ、其稍ヤ著名ナルモノヲ舉レバ、北ニ淡水、雞籠ノ
二港アリ、南ニ臺灣、打狗ノ二港アリ、臺灣ハ全島最大ノ港
灣ニシテ、即テ首府ノ在ル處トス、淡水ノ西南ニ、阿禮亞、蟻

殼、雙寮ノ三港アリ、雙寮ノ西ニ後瓏、鹿仔、猴樹、冬等ノ諸港アリ、打狗ノ南ニ風、娜嬌ノ二港アリ、雞籠ノ南ニ葉、觀、青ノ三港アリ、蕃地ニ屬スル海岸ニハ加禮遠、蘇、粵、繡、坡、蘭等ノ數港アリ、繡、坡、蘭ノ南ニ拔搖、瀆、朥、東ノ二港アリ、其他數多ノ小港灣アルモ、纜カニ小船ヲ容ル、ノミ、以テ港灣トシテ舉ルニ足ラズ、

海峽

〔海峽〕海峽ハ清國廈門及ビ福州トノ間ニ於ケル、唯一ノ海峽アルノミトス、其對岸ノ距離ハ二百哩ニ過ギズ、

山脈

〔山脈〕臺灣山脈ハ遠ク大陸福建ノ五虎門ニ起リテ蜿蜒海ヲ渡リ、東シテ大洋中ニ入ルモノ之ヲ本脈トス、支那ハ其本脈ヲ以テ關同、白、吠ノ二山ニ出ルモノトス、實ニ是レ臺灣山脈ノ起ル所ニシテ、波濤ニ隱伏シ海ヲ穿テ洋ヲ渡

本島山脈ノ本幹

山脈ノ名稱
他那山脈

リテ、臺灣ノ雞籠山ニ至リ、始終一脈ヲ爲シテ扶輿磅礴、或ハ山谷ト爲リ、或ハ平野ト爲ルモ、一帶ノ山脈ハ、北部ヨリ南部ニ連リテ、脊骨形ヲ爲シ、本島ノ中央線ヲ一貫シテ海ニ達ス、諸山屹峙シ群峯錯秀、疊然眉ヲ攢ルモ、大約東溟ニ背シテ西海ニ面ス、而シテ本島ノ大山脈ハ、北端ヨリ駛走シテ、南端ニ連亘スルモ、支脈ヲ爲スモノ、亦少カラズ、今之ヲ區分シテ他那山脈、珍、太、拿、爾山脈、細、印山脈、馬、頓山脈、馬、西、山脈、禮、亞山脈、葉、爾山脈、馬、以、亞山脈、哥、利、米山脈等トズ、
他那山脈 他那山脈ハ本島ノ北端ニ位スル、雞籠縣ノ大雞籠山ヲ起幹トシテ、西南ニ駛走シ無慮二百哩許ニ延長シテ打狗海岸ニ至ルマデ一直線脈ヲ爲シ、本島ノ中央線ハ、此山脈ヲ以テ東西ノ中心界トス、其形宛モ長龍ノ蜿蜒

耶烏峯
刺耶烏峯

細印山脈

タルニ異ナラズ、他ノ山脈ハ皆他那山脈ノ支脈分派スル
 モノニ係レリ、此大山脈ハ雞籠縣ノ西南部ニ至テ、一支脈
 ナ分ツ、之ヲ珍太拿爾山脈トス、珍太拿爾山脈ハ、又分レテ
 二脈ト爲リ、共ニ東北ニ逆駛シテ、一ハ北方ニ向ヒ、一ハ東
 方ニ走リテ、古印湖畔ニ至リ、此ヨリ迂回シテ磅礪數箇ノ
 支脈ヲ分テ、淡水縣ノ東北部ヲ充タシ、群山亂峯ノ廻環屹
 峙タルヲ觀ル、珍太拿爾山脈ノ分ル、處ニ、二箇ノ高峯アリ、
 一ヲ耶烏峯ト曰ヒ、一ヲ刺耶烏峯ト曰フ、共ニ嶽然トシ
 テ雲霄ニ聳エ、

細印山脈 細印山脈ハ淡水縣ノ西部加撒獨以河ノ源ヲ
 發スル附近ヨリ支分シ、東西ニ駛走シテ又二脈ト爲リ、一
 ハ斜メニ西東ニ走リ、一ハ東ニ直走シ、刺耶湖ノ東北ヲ抱

禮亞山脈

ヘテ延長シ、此ヨリ本脈ハ蕃地ノ平原ニ沿フテ東走シ、又
 馬頓、馬西、挨某、馬亞、挨非、刺密ノ六山脈ヲ分派ス、此六山脈
 ハ食匙形ヲ爲シテ東西ニ傾斜シ、其第六タル刺密山脈ハ
 東海岸ニ達シ、繡坡蘭港ニ至テ海ニ入ル、細印山脈ハ他那
 山脈ヨリ分派シテ、約ソ三十餘哩ニ延長スルモ、其勢緩慢
 ニシテ疊嶂ノ起伏スルヲ觀ルノミ、高峯ノ聳立スルモノ
 ナシ、然レモ此山脈ノ間ハ、蕃族ノ淵叢ニ屬シ、未ダ人跡ノ
 到ラザル所アルヲ以テ、又未ダ詳カナラズ、

禮亞山脈 他那山脈ハ其中腹ニ當レル處ニ至テ、又一脈
 ナ分派ス、此山脈モ亦東北ニ斜走シテ、斯模爾山脈ニ連亘
 ス、他那山脈ハ北部ヨリ南部ニ達スルマデニ、數多ノ支脈
 ナ分派スルモ、其支脈ハ皆東西ニ駛走シ、一トシテ南ニ傾

熟地ト蕃地ノ
經界線

向スルモノナシ、宛モ是レ熟地ト蕃地トノ間ニ、天然ノ經界ヲ爲スモノ、如シ、惟フニ臺灣府治未ダ他那山脈ヲ超エテ、東部ニ及ボスニ至ラザリシモノハ、蓋シ其治化ニ努メザルニ職由スト雖モ、抑モ亦山脈ノ東部ニ磅礴シ、蕃族ヲシテ據リ易カラシムルモノ、蓋シ與リテ力アリトスベシ、禮亞山脈ノ分ル、處ニ、著名ナル二箇ノ高峯アリ、他那山脈ノ南部ニ位スルモノヲ、分水峯ト曰ヒ、其東部ニ在ルモノヲ、分水山ト曰フ、禮亞山脈ハ分水山ヨリ分レテ二脈ト爲リ、其一ハ一大林地ヲ迂廻シテ、東方ヨリ南方ニ走リ、其一ハ分岐スル處ヨリ、南方ニ駛セテ恩加山脈ト爲ル、此二山脈ハ南走シテ、斯模爾山脈ニ連亘ス、而シテ三線ノ山脈ハ、匣形ヲ爲シテ、大林地ヲ包裹ス、此林地ハ成島以來ノ

禮亞山脈中ノ
高山

葉爾山脈

他那山脈中ノ
高山

樹木蔚蔚トシテ繁茂シ、其巨大ナルモノニ至テハ、其年數測ルベカラズト云フ、此山脈ノ連亘スル處ハ、土蕃ノ本巢ニ屬シ、山間ニ部落ヲ爲シテ、箇々相據ルト雖モ、人跡未ダ到ラザル處甚ダ多シ、
葉爾山脈 葉爾山脈ハ刺摩阿河ノ源ヲ發スル處ヨリ、分派スル支脈ノ一トス、他那山脈ハ分水山ヨリ、刺摩阿河源ヲ爲スノ間ヲ以テ、其中腹トシ、高山屹峙シ、群峯錯秀ス、其最モ名アル者ヲ舉レバ、草山、内鳥山、香仔湖山、大鳥山、孤峯、三凸峯、八峯等トス、是等ノ諸山ハ、他那山脈ノ南部ニ位シテ、臺灣府ノ北東ニ在リ、又葉爾山脈ノ分ル、處ニ一大高山アリ、大龜佛山ト曰フ、他那山脈ノ脊部ニ跨リテ、東南ニ蜿蜒ス、葉爾山脈ハ此ヨリ支分シテ、四脈ト爲リ、宛カモ大

斯模爾山脈
恩加山脈
加阿以爾山脈

馬以亞山脈

字形ノ如シ、其分レテ北部ニ逆駛スルモノハ、魁斗山ト爲
リ、其西部ニ走ルモノハ、哥利米山脈ト爲リ、其斜メニ北東
ニ向フモノハ、斯模爾山脈ト爲リテ恩加山脈ニ連亘ス、其
彎形ヲ爲シテ西ニ奔ルモノハ、馬以亞、加阿以爾ノ二山脈
ト爲ル、而シテ斯模爾山脈ハ東ニ斜走シテ海ニ入り、其最
モ延長ナルモノトス、
馬以亞山脈 馬以亞山脈ハ彎形ヲ爲シテ南方ニ駛走シ、
其海岸ニ接スル處ヲ稱シテ加阿以爾山脈ト曰フ、馬以亞
山脈ハ又一支脈ヲ分派シ、北方ニ駛走シテ巴和亞某湖ニ
近接シ、巴和亞某湖ハ葉爾山脈ト馬以亞山脈トノ間ニ抱
擁セラレテ、刺伯河ノ源ヲ爲スモノナリ、巴和亞某湖ノ東
南、斯模爾山脈ト馬以亞山脈トノ間ハ三角形ヲ爲シ、荒漠

哥利米山脈

撒山脈

他那山脈東西
部ノ高山

タル大平原ヲ爲シテ太平洋ニ臨ミ、南海岸ニ至テ僅カニ
疊巒ノ起伏スルモノアルニ過ギズ、
哥利米山脈 哥利米山脈ハ南方ニ直走シテ蘭伯山脈ト
爲リ、拔搖港西ニ至テ海ニ達ス、此山脈ハ頗ル延長ナルモ
ノニシテ、本島ノ尾端ヲ充タスモノハ、此山脈ノ磅礴スル
所ニ係ル、又哥利米山脈ハ曲折シテ一支脈ヲ分派ス、之ヲ
名ケテ撒山脈ト曰フ、加阿以爾山脈ノ南ニ在リ、
以上列擧スルモノハ、皆他那山脈ノ支脈ニシテ、其他小山
脈ヲ爲スモノ、淡水縣ノ西東ヨリ臺灣府ノ東部ニ至テ甚
ダ多シトス、他那本脈モ亦此ニ至テ蜿蜒ヲ逞フシテ四方
ニ瀾蔓シ、高峰嶽岑ノ蒼穹ニ聳ユルモノ甚ダ多シ、其最モ
名アルモノヲ、南馬山、內優山トス、共ニ他那山脈ノ東西部

高山ノ名稱及
ヒ高度

ニ在リ、

〔高山〕臺灣島ハ大山脈、中央線ヲ貫通シ、北邊ヨリ南端ニ連亘スルヲ以テ、高山峻嶺ノ聳立スルモノ甚ダ多ク、其無名山ニ至テハ、枚舉ニ遑マアラザルモ、今其著名ナルモノニシテ、高度ノ明カナルモノヲ舉レバ左ノ如シ、

(山名)

(海面上高度)

- | | |
|-------|-----------|
| 摩爾哥孫山 | 一萬二千八百五十呎 |
| 西耳烏亞山 | 一萬一千三百呎 |
| 分水山 | 一萬零九百七十呎 |
| 分水峯 | 一萬零五百呎 |
| 草山 | 一萬零四百五十呎 |
| 大島山 | 一萬零四百呎 |

- | | |
|------|----------|
| 內島山 | 一萬零二百八十呎 |
| 孤峯 | 八千九百二十呎 |
| 三凸峯 | 八千二百呎 |
| 八峯 | |
| 天馬峯 | 三千二百六十呎 |
| 蠓鏡峯 | 三千二百二十呎 |
| 本山峯 | 二千七百呎 |
| 飛鳶峯 | 二千呎 |
| 猴曝日峯 | 二千呎 |
| 接雲峯 | 一千八百呎 |
| 山猪路峯 | 一千一百呎 |
| 樟仔壁峯 | 一千零三十呎 |

尾峯 一千零三十呎
 老雞山 八千一百呎
 馬鞍山 八千呎
 香洋山 七千六百呎
 嵌頂山 七千呎
 香仔湖山 五千二百呎
 魁斗山 五千零六十呎
 大雞籠山 四千七百十五呎

江河 本島ハ水源ニ乏ク、隨テ河流ヲ爲スモノ甚ダ少シ、此レ本島ノ幅員陝隘ナルト、山脈ノ南北ニ駛走スルトニ因ル、其稍ヤ名ヲ知ラレタルモノヲ舉レバ、雞籠縣ノ南東ニ那利河アリ、遠ク水源ヲ他那山脈ト沼地トニ發シテ東

本島大河ノ名稱及ヒ注流方位

流シ、其末流ハ南北ニ分流シテ海ニ入ル、此河口ハ葉觀ノ二港トス、那利河ノ南ニ刺奴亞刺河、巴摸亞河、坦河等アリ、皆源ヲ沼地ニ發シ、東ニ流レテ海ニ入ル、巴和湖ト古印湖ヨリ、水源ヲ發スルモノハ太和伯河ト名ケ、東部ノ原野ヲ串通シテ、加禮遠港ニ流入ス、此河水ハ源ヲ大湖ニ發スルヲ以テ乾涸スルコトナシ、故ニ此河流ヲ疏通シテ、其地方ニ灌溉セシメバ、荒漠タル草原ヲ拓シテ、沃野タラシムルハ、蓋シ難キニアラザルベシ、

淡水河 本島ノ北南ニ當テ名アルモノヲ淡水河トス、淡水河ハ源ヲ他那山脈ニ發シ、南流シテ淡水港ニ入ルモノ是レナリ、淡水河ノ北方ニ土摸河、波亞爾ノ二河アルモ、小流タルニ過ギズ、又其ノ南方ニ塞爾河アリ、其河口ヲ蟻殼港トス、其

北南部ノ江河

南ニ巴西德河アリ、斜メニ南流シテ雙寮港ニ入り、亦是レ源ヲ他那山脈ニ發ス、後瓏港ニ流入スルモノハ、加撒的以河ト稱シ、源ヲ細印山脈ノ分ル、處ニ發シ、觀音山麓ノ大森林間ヲ串通シテ、後瓏港ニ注ギ、其水ハ本島大河中ノ一ニ算入セラル、モノトス、加撒的以河ニ亞テ稍ヤ大流ヲ爲スモノハ典河トス、典河ハ雄武乃山ノ南方ニ源ヲ發シテ、澳斯阿爾斯河ヲ合シ、曲屈西流シテ大甲溪ニ注入ス、本島ノ中部ニ至テ名アルモノハ、源ヲ哥爾米湖ニ發スルニ流トス、其一ハ西北ニ流レ屈曲縈紆シテ、恩太岬角ニ至リ小澳ヲ爲シテ海ニ入ル、其一ハ彰化縣ノ南方ヲ經過シ西南ニ流レテ鹿仔港ニ入ル、之ヲ笨港河ト曰フ、又嘉義縣ニ一大河流アリ、源ヲ八峯ニ發シテ西流シ、屈曲シテ北ニ向

ヒ、又西南ニ流レテ海ニ入ル、

紫頭港ニ注入スル一河流アリ、刺摩阿河ト曰フ、源ヲ大龜佛山ノ西ニ發ス、鳳山縣ニ至テ又一河流アリ、拿伊磐河ト曰フ、又本島ノ南部ニ至リ源ヲ太伊以湖ニ發シテ、淡水溪ト爲ルモノト、源ヲ拿伊湖ト巴耶湖トニ發シ、馬士岬角ニ注グモノトノ二流アリ、此ヨリ南端ニ至テ娜嬌河アリ、屈曲南流シテ娜嬌灣ニ注入ス、而シテ是等ノ河流ハ水甚ダ淺ク、舟楫ノ便ヲ得ルモノ少シ、本島ノ東面ニ至テハ、河流ヲ爲スモノ少カラズト雖モ、東面ハ概シテ蕃地ニ屬シ、未ダ實測ヲ經ザルノ地多キヲ以テ詳カナラズ、今其名ヲ知ラレタルモノヲ舉レバ、源ヲ巴和亞摸湖ニ發スルモノヲ以テ最モ大ナリトス、此河ハ支流シテ平原ニ入ルモノヲ

加士河ト名ケ、西東ニ流レテ海ニ入ルモノヲ、刺伯河ト名ク、刺伯河ハ平原ヲ串通スルニ迫ンテ數派ニ分流シ、西東ニ流ル、モノハ、加阿岬角ニ注ギ、東北ニ流ル、モノハ、青濤灣ニ入ル、刺伯河ニ次グモノハ、坦伊以河トス、此河ハ源ヲ他那山脈ノ東面ニ發シテ平原ヲ串通シ、分レテ二流ト爲ル、其一ハ即チ坦伊以河トシ、東北ニ流レテ海ニ入ル、其一ハ耶米爾河ト稱シ、亦東北ニ流レテ蘇澳灣ニ入ル、其他普迷河、伊亞尼河等アリ、此三河ハ北方ニ斜流シテ、加禮遠港ニ注入ス、又東南部ニ一河アリ、烏伊拿河ト曰フ、屈曲南流シテ拔搖港ニ入ル、

沼湖
大湖ノ名稱及
位地

〔沼湖〕本島ハ火山脈少カラザルヲ以テ、沼湖ヲ爲スモノ亦少シトセズ、其最モ大ナルモノハ、巴和亞摸湖ト曰フ、葉

爾山脈ト馬以亞山脈トノ間ニ狹リ、其周圍ハ未ダ實測ヲ經ザルモ、臥牛形ヲ爲シ無慮二十餘哩ニ下ラズ、北緯二十三度三十分ト、東經百二十一度ノ交叉點ニ在リ、之ニ次グモノハ、古印湖ニシテ駱駝形ヲ爲シ、雞籠縣ノ西部、北緯二十五度二分ト、東經百二十度三十五分ノ間ニ在リ、又古印湖ノ南北ニ一湖アリ、其大サハ古印湖ノ五分ノ一ニ過ギズ、此兩湖ハ一條ノ河流ニ由テ水脈ヲ通ズ、古印湖ニ次グモノハ、刺耶湖ト刺摸湖ノ二トス、此二湖ハ北緯二十四度十分ト、東經百二十一度三分ノ間ニ在リ、兩ツナガラ情圓形ヲ爲シ、刺耶湖ハ刺摸湖ノ北南ニ位ス、此兩湖モ亦一條ノ流レニ由テ水脈ヲ通ズ、然レモ此兩湖ハ水甚ダ深カラズシテ泥質ニ屬シ、沼ヲ以テ呼ブモノアリ、其他湖ヲ以テ

稱スル者ハ、格爾米湖、太鳥阿爾湖、刺拿湖、太伊以湖、巴耶湖、拿伊湖、幾塞湖等ナリ、格爾米湖ハ北緯二十三度五十分、東經百二十一度二十五分ノ間ニ位シ、彰化縣ノ東北ニ在リ、太鳥阿爾湖ハ嘉義縣ニ屬シ、刺拿湖ハ紫頭港ノ西ニ位シ、北緯二十三度、東經百二十一度三十分ノ間ニ在リテ、其大サハ古印湖ニ次グモノトス、巴耶、拿伊、幾塞ノ三湖ハ、鼎足形ヲ爲シテ、本島最南部ノ中央ニ在リ、其位置ハ北緯二十二度二十分、東經百二十一度十五分ノ間トス、又沼地ニ屬スルモノハ、雞籠縣ノ西部ニ於ケル、平原中ニ在ルモノヲ以テ、最モ大ナリトス、

平原

〔平原〕平原ト高地トハ、本島ノ脊部ニ連亘スル山脈ヲ以テ、自ラ經界ヲ爲シ、乃チ山脈ノ南側面ハ海岸ニ沿フテ、漸

大平原ノ位置

ク平地ヲ爲シ、臺南府ノ北部、彰化縣ヨリ淡水縣ニ至ルノ間ヲ以テ、最モ廣濶ナリトス、又雞籠縣ノ西南部ハ、他那山脈ヲ挾ンデ、廣大ナル平原ヲ爲シ、其幅員約ソ二十餘哩ニ下ラズ、然レモ本島南部ノ平原ハ、之ヲ東部ニ比スレバ、却テ狹小ナリトス、其東部ニ於ケル、太和、伯河以西ヨリ、馬頓山脈以北ノ間ニハ、廣濶ナル大平原アリ、其幅員ハ未ダ實測ヲ經ザルモ、約ソ二三十哩ニ下ラザルベシ、一望濶然トシテ、海岸ニ達ス、此レ平原ノ最モ大ナルモノニシテ、地味亦沃土ナリ、然レモ此平原ハ蕃地ニ屬スルヲ以テ、古來未ダ曾テ鋤鋤ヲ入レタルモノアラズ、空シク雜草ノ繁生シ、荆棘ノ滋蔓スル所ト爲ル、又斯摸爾山脈ト馬以亞山脈トノ間ニ大曠原アリ、亦是レ蕃地ニ屬スルヲ以テ、未ダ曾テ稼穡ヲ試

森林

大森ノ位置

ミズ、其他本島ノ最南部、他那山脈ノ盡ル處ニ至テ平原アリ、
 【森林】本島ノ開拓ハ年猶淺キヲ以テ、山脈ノ連亘スル部
 分ハ、概シテ大樹巨木ヲ以テ充タシ、隨テ森林ヲ爲スモノ
 頗ル多ク、其最モ大ナルモノハ、他那山脈ノ南面、北緯二十
 二度五十分ト、東經百二十一度三十分ノ間ニ在リ、此森林
 ハ老木蒼蔚トシテ天日ヲ掩ヒ、其周圍凡ソ幾何ナルヲ知
 ラズ、之ニ次グモノハ、北緯二十二度三十分ト、東經百二十
 一度十分ノ間ニ在リ、是等ノ森林ハ古來斧斤ヲ入ル、甚
 ダ罕レニシテ、樟樹ノ如キハ巨大ナルモノアリ、他那山脈
 ノ中腹タル、北緯二十四度ト、東經百二十一度二十分ノ間
 ニ大森林アリ、彰化縣ノ東北ニ位シ、北ハ分水峯下ヨリ起
 リテ、南ハ香仔湖山麓ニ延長ス、其他森林ノ大ナルモノハ

窪地

温泉

以亞山脈ト、斯摸爾山脈トノ間ニ在ルモノトシ、北緯二十
 三度五十五分ト、東經百二十度三十五分ノ間ニ在リ、此地
 ハ土蕃ノ巢窟ニ屬スルヲ以テ、文明人ノ足未ダ及バズ、
 【窪地】窪地ハ平原ノ多キニ隨テ亦少カラズ、其大ナルモ
 ノハ雞籠縣西部ノ平原中ニ在リ、此地ハ北緯二十五度十
 五分ト、東經二十度二十分ノ間ニ位シ、珍太拿爾山脈ノ北
 東ニ在リ、其他蕃地平原ノ中ニ在ルモノト、猪朥東港ノ西
 ニ在ルモノトヲ以テ大ナリトス、
 【温泉】本島ノ山脈ハ火山質ヲ有スルモノ多キヲ以テ、温
 泉ノ湧出ニ乏シカラズ、淡水河ノ支流及ビ雞籠河ノ畔上
 ニ數多ノ温泉アリ、即チ是レ他那山脈ノ包含スル、火脈ニ
 由テ湧出スルモノトス、

地勢

〔地勢〕本島ノ地勢ハ脊骨狀ノ一大山脈アリテ、中心ヲ貫キ以テ其軸線ヲ爲シ、重峯疊巒、屹峙連綿トシテ北部ヨリ南部ニ亘リ、左右ハ斜面ヲ爲シ山脈漸ク盡クル處ニ至テ平原ヲ爲ス、之ヲ要スルニ本島ノ地勢ハ、中線ハ高度ノ山地ニシテ左右ノ側面ハ平原ナリ、而シテ本島ノ山脈ハ概テ北部ヨリ南部ニ直走シテ、延長ノ支脈ヲ爲スモノナシ、故ニ平原ハ山地ヨリ多シトス、然レモ本島ノ體面ハ宛カモ魚形ヲ爲シ、首タル北部ハ稍ヤ廣ク、腹タル中部ハ最モ廣ク、尾タル西部ニ至リテ漸ク狹シ、

地味

〔地味〕地味ハ一般ニ肥沃ニシテ植物ノ發生ニ適シ、稼穡ヲ施スニ至テ豐饒ナラザル所ナシ、古來未ダ開墾ヲ試ミザルノ地ハ、草木繁殖シテ赭土ニ屬スルモノナシ、亦以テ

地層

地味ノ肥沃ナルヲ知ルベシ、海岸附近ノ平原ニ至テハ最モ沃土ニ屬ス、然レモ北部ノ平原ハ蓋シ桑海ノ變ニ因テ成リ、大湖ノ乾涸スルモノニ係ル、故ニ此地方ハ井ヲ穿ツニ、二百呎ニ至ラザレバ、湧泉セズシテ、粘土砂礫及ヒ殻灰等ノ諸層アリ、以テ昔時ノ湖地タルヲ證スルニ足ル、又火山ノ動作ニ因テ、多少地味ヲ變化セシメタルモノアリ、乃テ本島ハ炭坑ニ富ミ硫黃ヲ産シ、且ツ溫泉ノ湧出多シ、此レ火山ノ致ス所ニシテ、南部ノ地方ニ至テハ、蠣殻ヲ含著セル石灰堆積シテ、二千呎ノ高度ニ隆起スルモノ少カラズ、此レ火山破裂ノ遺跡タルヤ疑ヒテ容レズ、

地質

氣候

〔氣候〕本島ノ氣候ハ熱度頗ル高シト雖モ、健康ヲ害スルニ至ラズ、最高溫度ハ百十度ヲ越エズシテ、最低溫度ハ四

温度高低ノ季節

十五度ニ止リ、周年寒冷ヲ覺エズ、天氣ハ概シテ朗晴ナリ、最高温度ニ昇ルハ、夏季六七月ノ間ニ過ギズシテ、其前後ハ温和ニ屬ス、秋末ヨリ冬初ノ間ハ稍ヤ炎熱ヲ覺フルモ、七十度ヲ越ユルハ、常ニ少レニシテ殊ニ快適ノ氣候タリ、東北ノ風起ルニ遇ヒバ沙塵ヲ飛バシ、梅雨ノ候到ルニ際シテ瘴氣ヲ生ジ、多少清爽ヲ失フコトアルモ、之ガ爲メ人畜ヲ害スルニ至ラズ、一千八百八十八年ニ於ケル、本島中部ノ、温度ノ高低ヲ示セバ、左ノ如シ、

二月

最低温度

華氏四十五度

六月

最高温度

華氏百十度

七月

八月

温度實驗表

最低温度

華氏六十度

九月

十月

八月

九月

十月

最高温度

華氏七十一度

降雨量

本島ノ廣袤ハ南北ニ長ク、東西ニ狭キヲ以テ、其温度ハ南北端ニ於テ、多少ノ差ヲ生ズルコトナシトセズ、然レモ支那大陸ニ比スレバ、一般ニ熱度ノ高キハ、曾テ大陸ニアラザル、植物ノ繁殖スルヲ以テ知ルベシ、乃チ本島ニハ檳榔樹ノ如キ、熱帶地ノ樹木甚ダ多シ、蓋シ是等ノ植物ハ馬來群島ヨリ、黒潮ニ由テ移植セラレタルモノニ係ルト云フ、降雨量ハ一定セズシテ、降雨期ト稱スベキノ時節ナシ、今

降雨量實驗表

兩三年間ニ於ケル、雨量ノ差ヲ示セバ、左ノ如シ、

千八百八十七年六月	零吋三八
千八百八十八年六月	十七吋四九
千八百九十一年九月	十七吋二九

此ノ如ク一定セズシテ、一年間ノ降雨量ハ、平均七十五吋九ニ過ギズトス、

道路

〔道路〕本島ノ道路ハ臺灣府ノ在ル處ヲ以テ中央點トナシ、北ハ淡水ヲ經テ雞籠ニ至リ、西ハ打狗地方ニ通ズルモノヲ以テ公道ト爲ス、然レドモ其道路ハ甚ダ不完全ナルノミナラズ、僅ニ海岸ニ沿フテ一條路ヲ通ズルニ過ギズ、故ニ旅行者ハ谿流ヲ徒涉シ、田畝ヲ迂回シ、或ハ茫漠タル草原ヲ穿行シ、或ハ險隘ナル山路ヲ上下セザルヲ得ズ、其

航路

不便モ亦甚シク、貨物ノ運搬ニ至テハ一層困難ヲ感シ、水牛車等ヲ以テ運送具ニ供スルモ、道路殆ンド一定セズシテ之ヲ行ル能ハズ、時ニ臨ンデ平坦線ヲ擇ヒ、軋然徐行セシムルニ過ギズ、舟楫ニ至テモ、亦河流ニ乏キヲ以テ、運搬ノ便ヲ通ズルモノ甚ダ少シ、道路ノ開通及ビ修繕ハ、本島ニ欠クベカラザルノ要務トス、

航路里程

〔航路〕航路ハ周圍ニ海ヲ環ラスヲ以テ、殆ンド通ゼザル所ナシト雖モ、東部ノ近海ハ水淺フシテ沙灘多ク、大船巨舶ヲ近カシムルコトヲ得ズ、西部ノ近海ニ至テハ、港灣ヲ爲スモノ甚ダ多ク、隨テ航行ノ便アリ、本島ト支那大陸ノ諸港、及ビ我長崎港トノ間ニ於ケル、航路ノ哩數ヲ舉レバ、紫頭港ヨリ長崎ニ至ルノ航路約ソ八百七十哩、香港ニ至

ルノ航路ハ三百哩ニシテ、厦門ハ百八十哩、上海ハ六百五十哩トス、

物産

〔物産〕本島ハ氣候温暖、土地肥沃ナルヲ以テ、物産ハ豐饒ナリ、殊ニ植物ハ能ク繁殖シ、其主タルモノハ稻米、甘藷、芝麻、甘蔗、菓物、茯苓、瓜類、茶、胡麻、蔬菜、莢豆、棉花、竹木等ニシテ、米ノ産出ハ最モ多ク、輸出品ノ大宗タリ、鑛物ニハ石炭、沙金、硫黃等アリ、動物ニハ魚介、雞豚、牛馬、麋鹿、野禽等アリ、殊ニ鹿皮ノ産額多シトス、製造物ハ砂糖、樟腦、棉布、革皮、麝香等ヲ以テ主タルモノトス、而シテ本島物産ノ大宗タル、米及ビ甘蔗ハ、一年二回ノ收穫アルヲ以テ、多額ノ産出アルモ、砂糖ニ至テハ未ダ再製所ノ設ケアラズ、粗製ノ赤糖ヲ出スニ過ギズ、今ヨリ斬新ノ器械ニ依テ精製ヲ圖ルアラ

物産ノ種類

人種

バ、貿易上ニ收益ヲ増殖スベキハ、敢テ疑ヒテ容レザルベシ、

土人ノ起原

〔人種〕臺灣本來ノ人種ハ、未ダ詳カナラザルモ、馬來人種ノ性格ヲ有シ、其相貌ノ本邦人ニ類似スル所多キヲ以テ視レバ、蓋シ馬來群島ノ漂流人來テ、其種ヲ播殖セシメタルモノ、如シ、所謂平原土蕃及ビ山地土蕃ノ祖先タルモノ是レナリ、淡水河畔ニ住スル土蕃ノ如キハ、軀軀偉大ナラズシテ、性質溫和ニ屬シ、言語及ビ習慣等ニ至テモ、亦馬來人種ニ類似セリ、今ヲ距ル二十年前マデハ、馬來群島ノ土人ニシテ、本島ノ北岸ニ漂著シ、遂ニ其地方ニ土著シタル者少カラズ、亦以テ本島人種ハ、馬來人種ノ一種タルヲ知ルベシ、本島西北ノ海岸ニ住スルモノハ、概シテ支那本

部ヨリ移レルモノニ係リ、其特性トシテ男子ハ耕耨ヲ業トシ、女子ハ繡箔ヲ善クシ、孜々トシテ生業ニ勉勵ス、今ヤ本島天然ノ富源ヲ開キ、稍ヤ物産ノ繁殖ヲ致サシメタルモノ、移住支那人與リテ最モ力アリトス、

土蕃
生蕃

【土蕃】土蕃ニハ生蕃ト熟蕃ノ二種アリ、生蕃ハ東部ノ山地又ハ平原ニ各自部落ヲ爲シテ栖息ス、各部落ニハ酋長ヲ置キ、其數二百餘社アルモ、名ヲ知ラル、モノハ百數十社ニ過ギズ、是等ノ蕃族ハ純然タル蠻族ニシテ、文字ナク、宗教ナク、骨格強硬ニシテ容貌魁偉、性頗ル獍猛ニシテ好シテ鬪爭ヲ挑ミ、飽クマデ他ニ抵抗シ、曾テ支那ノ治化ニ服セズ、常ニ山野ニ獵シ、海邊ニ漁シ、漂流人ノ財物ヲ奪ヒ、又ハ其生命ヲ害スルガ如キハ、以テ其常ナリトス、曾テ我

土蕃生活ノ狀

熟蕃

琉球人ヲ殺害シ、遂ニ征討ノ事アラシメタルハ、即チ此生蕃ニ係レリ、熟蕃ハ支那ノ馴治ニ感化セラレ、稍ヤ蠻風ヲ脱シテ、少シク文字ヲ解スルモノアリ、此蕃族ハ南部及ビ西部ニ住シテ自ラ生蕃ト社會ヲ異ニス、拔搖社、卑南社、加雷灣社、南竹社、河東社、牛馬社、牡丹社、竹山社、金包社ノ如キ即チ其八九ナリ、生蕃ト熟蕃ハ此ノ如ク區別アリト雖モ、生蕃モ亦教ユベカラザルノ種族ニアラズ、猶多少ノ智覺力ヲ有シテ、弱肉強食ノ理ヲ知レリ、我師ノ之ヲ征スルヤ、其力以テ能ク敵スベキニアラザルヲ知り、爾來我ヲ怖ルル鬼神ノ如ク、苟クモ本邦人タルコトヲ知レバ、膝ヲ屈シテ敬意ヲ表シ、漂流人ト雖モ復々暴害ヲ加ヘザルニ至レリ、故ニ生蕃モ亦循々之ニ治化ヲ施スアラバ、亦能ク從順

人口

ナラシムルコトヲ得ベシ、
 【人口】本島ノ人口ハ未ダ精細ノ調査ヲ經ザレバ詳カナ
 ラズトスルモ、其概算ニ依レバ、本島ハ二百五十萬ニシテ、
 澎湖島及ビ漁翁島ニ一萬三千二百アリ、尙實際ニ就テ之
 ナ調査セバ、多少ノ増加アルベシ、而シテ蕃社ノ人口ハ之
 ナ概算スレバ、左ノ如シ、

土蕃社名及ビ人口

社名	人口	社名	人口
拔搖	一五〇〇	加畱灣	三四〇〇
田中央	三〇〇	馬鞍山	三〇〇
牛馬	二二〇〇	壯丹	一六〇〇
大秀房	三五〇	東城	一〇〇〇

竹山	八五〇	河東	一五〇〇
新街	三〇〇	虱母	一五〇
金包	一七〇〇	社寮	四四〇
龍泉水	三〇〇	草潭	二〇〇
大平項	三〇〇	樹林	一五〇
虎頭山	一六〇	麥子園	一〇〇
沙尾窟	六〇〇	網砂	一五〇
統領捕	三〇〇	加冬湖	二〇〇
大祿々	二〇〇	唐琅林	一四〇
三川	一三〇	四川	一五〇
頭川	二五〇	水泉	一九〇
唐港嘴	二〇〇	排子路	一六〇

保力

六〇〇

埔境

一七〇

林頭尾

一八〇

猫子坑

一四〇

此三十六社ハ會長ヲ置カズ獨立ス、

生蕃部

社名

人口

社名

人口

狸社

一二〇

上硤

一五〇

下硤

一〇〇

此三社ハ狸社會長ニ屬ス、

高士猾

五〇〇

周勝東

一〇〇

萬里馬

二二〇

蚊蟀

二二〇

八姑角

一八〇

俛角仔

八〇

四重溪及加知來

一五〇

此七社ハ周勝東社ノ會長ニ屬ス、

小麻里

三〇〇

阿眉大社

三八〇

八堯

一三〇

四林隔

一二〇

竹社

七〇

老佛

五〇

此六社ハ小麻里社ノ會長ニ屬ス、

阿林新庄

一五〇

猴洞

一五〇

此二社ハ小麻里社ノ會長ニ屬ス、

龍蘭

一七〇

卒黃

六〇

此二社ハ龍蘭社會長ニ屬ス、

向林

三五〇

蚊卒埔

二四〇

阿宅間

一五〇

過河

一二〇

此四社ハ周勝東社ノ會長ニ屬ス、

風俗

以上列舉スル蕃社ハ、人耳ニ上ルモノ、ミニシテ、其他數十口ヲ有スルモノ甚ダ多シ、故ニ其人口ニ至テモ、亦未ダ其全數ヲ詳カニセズ、

〔風俗〕本島ニ移住スル支那人ハ、概シテ支那本部ノモノニ係リ、風俗淳朴ニシテ、明末ノ遺風ヲ存ス、土人ハ化外ノ蠻族ニ屬シ、頑愚粗暴、人道ノ何タルヲ知ラス、鬪爭ヲ好ミ、掠奪ヲ縱マニシ、今猶人ヲ啖フノ風アリ、故ニ山地ニ住スルモノハ、被髮シテ木皮ヲ衣、好シテ文身シ、殊ニ淡水縣ノ山地ニ住スルモノハ、一種奇異ノ風アリ、男子ハ額ニ黥シ、下唇ト腮下トニ藍色線ヲ施シ、婦女ハ唇端耳邊及ヒ兩頰ニ藍色ノ細線ヲ黥シ、以テ男女ヲ區別ス、又土蕃ハ妻ヲ娶ルニ媒妁ニ依ラス、我妻ラントスルモノヲ奪フヲ以テ其常トス

土蕃ノ風俗

宗教

〔宗教〕支那ヨリ移住セルモノハ、大抵儒教ヲ信ス、又希レニハ佛教若クハ基督教ヲ信スルモノアリ、土人ニ至テハ無宗教トス

生業

〔生業〕本島人ハ支那本部人ノ生業ニ倣ヒ、地方ニ住スルモノハ、専ラ農業ヲ營ミ、農民ノ數、人口ノ大半ヲ占ルハ、多量ノ米穀ト砂糖ヲ産出スルヲ以テ知ルヘシ、然レモ本島ハ海産物ニ富ムヲ以テ、海岸ニ住スルモノハ、捕漁ヲ業トスルモノ亦少カラス、工商ノ二業ニ至テハ、猶幼稚ニ屬シ、都市及ヒ港場ニ住スルモノ之ヲ營ムニ過キス、而シテ土人ハ生蕃ト熟蕃ヲ問ハス、一般ニ獵ヲ業トス、山ニ於テスルモノハ、粗造ノ弓箭若クハ、火繩銃ヲ以テ獵シ、海ニ於テスルモノハ、蟹製ノ網具ヲ以テ漁ス

行政區劃

府ノ管轄及隸屬ノ廳縣名稱

【區劃】本島ハ清國ノ行政區劃ニ於テ、之ヲ一省トシ、四區ニ大別シテ、臺灣、臺南、臺北、及ヒ臺東トシ、三府、一州、三廳、十一縣ヲ置テ之ヲ分轄統治セシム

一臺灣府 中央一帶ノ地ヲ管治シ 左ノ四縣一廳之ニ屬ス

臺灣縣 彰化縣

雲林縣 苗栗縣

捕里社廳

一臺南府 南部一帶ノ地ヲ管治シ 左ノ四縣一廳之ニ屬ス

安平縣 嘉義縣

鳳山縣 恒春縣

澎湖廳

一臺北府 北部一帶ノ地ヲ管治シ 左ノ一廳三縣之ニ屬ス

淡水縣 新竹縣

雞籠廳 宜蘭縣

一臺東直隸州 東部一帶ノ地ヲ管治シ 生番之ニ屬ス

又海事ノ管理ヲ區劃スル左ノ如シ

一臺灣縣 中央地方ヨリ南部地方ノ海事ヲ管理ス

一淡水縣 中央地方ヨリ北部ノ海事ヲ管理ス

一雞籠廳 極北地方ノ海事ヲ管理ス

一澎湖廳 澎湖列島及ヒ附近島嶼ノ海事ヲ管理ス

臺東直隸州

臺東直隸州ハ、東部未開ノ蕃地ヲ管治セシムル爲メ、特ニ設置スルモノニ係ルモ、徒々其管轄區劃ヲ定ムルニ過キスシテ、未タ其治蹟ヲ舉ルニ至ラス
以上區劃ノ外、蕃地ニ數多ノ小區劃アルモ、土人部落ノ經

行政沿革

行政

界タルニ過キス

本島ハ此ノ如ク、府、州、廳、縣ノ區劃ヲ定ムト雖モ、開拓年猶淺キヲ以テ、其區劃ハ井然タルモノニアラス、殊ニ縣ノ管區ニ至テハ、實測ヲ經テ其經界ヲ定メタルニアラス、單ニ方位ヲ以テ假定シタルモノアリ、故ニ我新領ニ歸シ、新治ヲ施スニ際シテハ、更ニ府縣ノ位地ヲ定メ、管轄ノ區劃ヲ改メサルヘカラス、今姑ク從來ノ區劃ニ仍テ、其大要ヲ示スニ過キス

【行政】本島ハ之ヲ一省トシテ、更ニ其治ヲ施カシメタルトキヨリ、舊來ノ島治ヲ改革シテ、支那内地ノ省制ト同一タラシメ、全島ノ行政區ヲ分テ、府、州、廳、縣ノ四トシ、府ノ下ニ廳ト縣トヲ隸屬セシメ、州ハ獨立シテ專ラ蕃地ノ統治ヲ司ラシム、本島昔日ハ唯一ノ臺灣縣ヲ置キ、以テ全島ヲ

行政官ノ名稱

行政長官ノ駐在地

管治セシメタルニ過キス、後臺灣府ヲ置クニ及ンテ、之ヲ中央府トシ、以テ全島ヲ統治セシムルニ至レリ、其後再ヒ島制ヲ改定シ、臺灣、臺北、臺南ノ三府ヲ置テ、全島ヲ分治セシメ、巡撫以下ノ官吏ハ、大抵三府ノ地ニ駐在ス

本島ノ長官ハ、巡撫、布政使、按察使ノ三官トシ、其衙名ハ左ノ如シ

巡撫部院

按察使衙門

布政司衙門

巡撫部ハ、中央政府ニ對シテ、直接ニ責任ヲ負ヒ、臺南府ヲ以テ巡撫ノ駐在地トシ、文武官ヲ統督シテ、全島ノ政權ヲ司掌ス、其下ニ撫標中軍參將、總兵官等アリ

布政司衙門ハ、臺南、臺北ノ二府ニ置キ、長官ハ蕃民ヲ輔綏

地方官

シ、海曲ヲ稽查シ、鹽務ヲ督理シ、兼テ全島ノ司法、驛傳ノ事務ヲ管ス

地方官ト稱スルモノハ、府ニ於テハ左ノ官ヲ置ク

知府 教授

訓導 經歷

廳ニ於テハ左ノ官ヲ置ク

總官 通判

同知

縣ニ於テハ左ノ官ヲ置ク

知縣 經歷

庫大使 司獄

巡檢 典史

縣 丞 教授

教諭 訓導

州ニ於テハ左ノ官ヲ置ク

州知 州同

吏同

各開港場ニハ、特ニ稅務司ヲ置テ、關稅ノ事務ヲ掌ラシムルコト、内地ノ各港ニ同シ

此ノ如ク島治ノ制ヲ設ルモ、其治ハ專制ニシテ、立憲國ノ善治ト、日ヲ同フシテ論スヘキニアラス、今此ニ現時ノ行政一斑ヲ示シ、以テ參考ニ供スルニ過キサレハ、他日府縣ノ廢置ヲ行フト同時ニ、更ニ行政事務ヲモ革釐セサルヘカラサルハ、論ヲ待タス

教育

【教育】教育ハ、島治未ダ整頓セサルヲ以テ、今猶幼稚ノ地位ヲ免レヌ、然レトモ學校ノ現數ハ少カラヌ、臺南府ニハ二十有三ノ學校アリテ、大學院ノ設ケアリ、臺北府モ亦漸次ニ學校ヲ増設ス、又諸縣ニ在リテハ、安平ニ十七校、鳳山ニ十七校、嘉義ニ十餘校アリ、其他淡水、雞籠等ニモ學校ノ設置アラサルナシ、而シテ是等都市ノ學校ニハ、教授教諭ヲ置テ、專ラ教育ノ任ニ當ラシムルモ、其學制未ダ整頓ノ緒ニ就カス、教科用書ニ至テハ、支那古代ノ經書及ヒ國史等ヲ講讀セシムルニ過キスシテ、文明ノ教育ハ、未ダ島内ニ導入セラル、ニ至ラス

兵制

【兵制】本島ハ東海ト支那海トノ間ニ孤懸シ、本陸ヲ距ル近キニ非サルヲ以テ、若シ一朝事アルモ、俄ニ内地ノ軍隊

臺島兵備ノ要

ヲ派遣シテ、應援セシムルコト能ハス、故ニ我新治ヲ施クニ及ンテハ、南門ノ鎖鑰トシテ、常ニ全島ノ防禦ニ充ルニ足ルヘキノ軍隊ヲ駐屯セシメ、以テ不虞ニ備ヘサルヘカラス、惟フニ我兵制ヲ本島ニ實施スルノ日ハ、遠キニアラサルヘキヲ以テ、此ニ本島現在ノ兵制ヲ舉ルノ必要ナキカ如シト雖モ、其一斑ヲ舉ケ、以テ參考ニ供スルハ、亦無用ニアラストス

臺島ニ於ケル清國ノ兵備

支那ハ本島ヲ以テ東南ノ保障トシ、豫メ不虞ニ備フルノ設ケアリ、然レトモ當時ハ本島ノ兵力甚ダ微弱ニシテ、臺南府城ニ一ノ臺灣鎮ヲ置キ、總兵官ヲシテ之ヲ統領セシメ、其兵數ハ約ソ十七營ニシテ、之ヲ本營トシ、各處ノ要地ニハ、此本營ヨリ若干ノ兵ヲ分屯セシメタルニ過キス、光

守兵ノ駐在地
及ヒ營數

緒十年、佛國ト覺テ啓クヤ、澎湖島ハ忽テ佛軍ノ占領スル所ト爲リ、尋テ臺灣ヲ封鎖セラレ、内地ノ交通ヲ遮斷セラレテ、本島ノ鎮兵ハ孤立シ、爲ス所ヲ知ラサルニ至レリ、是ニ於テ清國ハ、本島兵備ノ忽ニスヘカラサルヲ曉リ、俄ニ本島ノ守備ニ注意シ、福建省ノ管轄ヲ脱シテ、本島ニ一省ヲ設置シタルハ、即チ此時ニ在リトス、是レヨリ漸次守備兵ヲ増加シ、軍隊ノ編制モ亦改定セリ、其軍隊ハ蓋シ安南地方ヨリ移屯セシメタル黑旗兵ヲ以テ、其主タルモノトスルカ如シ

海軍ハ、南洋水師ノ管轄ニ屬シ、猿樹港ト鹿仔港トノ間ニ水師營ヲ設ケ、若干ノ水兵ヲ駐屯セシム

今警備兵ノ駐屯地及ヒ營數兵數ハ、左ノ如シ

屯在地	兵種及營數	兵數
臺灣府	歩兵 六 騎兵 一 砲兵 一 隊	三〇〇〇 二〇〇〇 五〇〇〇
打狗港	歩兵 三 砲兵 一 營	一、五〇〇 四〇〇
臺南府	歩兵 六 砲兵 一 營	一、〇〇〇 五〇〇〇 三〇〇〇
恒春縣	歩兵 四 營	一、〇〇〇
卑南	歩兵 二 營	六〇〇
澎湖島	歩兵 四 砲兵 一 營	二、〇〇〇 五〇〇〇 五〇〇〇
臺北府	歩兵 三 營	四六八

砲臺

【砲臺】砲臺ハ、光緒十年後ノ築造ニ係リ、堅牢完全ナルモノアラスト雖モ、其數七箇餘アリ、其最モ大ナルモノハ、臺南府管内ノ砲臺ニシテ、紫頭港ノ北岸ト西岸トノ兩處ニ在リ、其他淡水、雞籠ノ海岸ニ在ルモノヲ以テ、稍ヤ堅牢ナ

嘉義縣	彰化縣	宜蘭縣	雞籠港	淡水港
步兵七營	步兵一營	步兵二營 水兵一營	砲兵二營 步兵一隊	步兵八營
一、〇〇〇	五〇〇	三〇〇 八〇〇	一、五〇〇 四三〇	一、二四八

鐵道

鐵道前途ノ計畫

電線

ルモノトス、其他澎湖島ニ二三ノ砲臺アリ、蓋シ是レ我ト干戈ヲ交ユルニ際シテ、遽カニ築造シタルモノニ係リ、據テ以テ守ルニ足ラス

【鐵道】鐵道ハ、臺北府ノ管内ニ、一線路ノ設ケアルニ過キスシテ、雞籠港ト淡水港トノ間ニ、一日三回ノ往復ヲ實行ス、此線路ハ漸次ニ延長シテ、本島ノ首府タル臺南府城ニ達セシムルノ計畫ヲ爲シ、淡水港ヨリ新竹縣ニ至ルノ線路ハ、已ニ其工事ニ着手セリ、蓋シ此線路ヲ延長スルハ、開島策上、最モ急要トスルヲ以テ、我新治ヲ施クノ日ハ、此工事ヲ繼續シテ、速ニ臺南府ニ達スルニ至ラシムヘシ

【電線】電線ハ、千八百八十七年、淡水港ヨリ福州府、蓮江縣芭蕉山ノ間ニ海底線ヲ架シタルヲ以テ始トス、此海底線

燈臺

ハ凡ソ一百一十一海里アリ、千八百八十年ニ至リ、淡水ヨリ
臺南府城ニ陸線ヲ架シ、尋テ之ヲ延長シテ、安平ヲ經テ打
狗ニ達セシメ、電信局ハ雞籠、淡水、臺北、臺南、安平及ヒ打狗
ノ六箇所ニ在リ、其他安平港ヨリ澎湖島ニ達スル一條ノ
海底線アリ

【燈臺】 本島ハ周圍ニ海ヲ環ラシ、四方ニ航路ヲ通スルヲ
以テ、燈臺ヲ設置シ、以テ航海者ノ便ニ供スルハ、甚タ必要
ナリ、現今ハ其計畫未タ洽カラスシテ、僅ニ左ノ二箇ノ燈
臺アルニ過キス

阿禮摸爾岬

臺灣灣口ノ北岸頭

撒刺岬

淡水港ノ北岸頭

都市

【都市】 本島ハ臺南府ヲ以テ首府トシ、本島ノ南西部ニ位

貿易

シ、島内第一ノ都市タリ、之ニ次クモノハ淡水、雞籠及ヒ打狗
ノ三市トス、又臺灣府管内ニ彰化、臺南府管内ニ鳳山、嘉義、恒
春等アリ、臺北府管内ニ孟甲、滬尾頭アリ、其他市ヲ成スモノ
數箇アリト雖モ、概シテ寥々タルモノニシテ、舉ルニ足ラス
【貿易】 本島外國ト貿易ヲ開始シタルハ、今ヲ距ル一千百
六十年、宋ノ紹興三十年以前ニ在リ、然レトモ本島ハ船舶
ノ碇泊ヲ安全ナラシムルノ良港ニ乏シク、且ツ風波常ニ
多キヲ以テ、現今ニ至ルモ未タ其繁盛ヲ致ス能ハス、而シ
テ外商トノ互市場トシテ貿易ヲ許サル、ハ、安平港、打狗
港、淡水港及ヒ雞籠港ノ四港ニシテ、千八百九十一年即チ
光緒十七年ノ調査ニ依レハ、四港ノ輸出入品及ヒ量額ハ
左ノ如シ

貿易ノ開始

互市場

輸出入

臺灣港ヨリ輸出スル品類

稻米 砂糖 芝蔴

茯苓 樟腦 海産物

同港ニ輸入スル品類

棉布 阿片 絨類

銅器 魚膠 乾蝦

裝飾物

同港ノ輸出入額

輸出

二五一、六七六、三圓位ニ止ム

外國輸入 一九九、二六八、三

内地輸入 三二、二六九、三

總計 四八二、二一四、〇

雞籠港ノ商況

雞籠港ヨリ輸出スル品類ノ主眼タルモノハ、唯タ石炭ノ一種アルニ過キサシモ、澳門、泉州及ヒ福州等ノ間ニ於ケル内地貿易ハ頗ル盛ンナリ、然レモ其輸出入額ハ淡水港ノ計算ニ合スルヲ以テ未ダ詳カナラス

淡水港ノ商況

淡水港ヨリ輸出スル品類ノ主眼タルモノハ、樟腦及ヒ茶ノ二種ニシテ、茶ノ輸出ハ年ヲ逐フテ増加シ千八百七十二年即チ同治十一年ニハ、其額僅ニ一萬九千五百十三擔タルニ過キサリシモ、千八百八十年即チ光緒十四年ニ至テハ、十三萬五千七百四十一擔トナリ、舊額ニ十倍セリ、樟腦ノ輸出モ亦茶ニ次クノ多額ヲ致シタルモ、樟樹ヲ濫伐シタルニ因リ、年々ニ其元料ヲ減スルニ隨ヒ、樟腦ノ輸出モ亦漸クニ減セリ、千八百九十一年即チ光緒十七年ノ輸

淡水港ノ輸出入

出入額ハ左ノ如シ

輸出	四七七、六一〇、三 <small>圓位ニ止ル</small>
外國輸入	二六一、四五六、七
内地輸入	七七、二三六、六
總計	八一六、三〇三、七

打狗港ノ商況
打狗港ヨリ輸出スル品類ノ主眼タルモノハ、砂糖ノ一種アルノミ、他ニ輸出品トシテ知ラル、モノナシ、年々砂糖市ヲ開クノ時期ニハ、多額ノ輸出アルハ明カナルモ、其量額未ダ詳カナラス

租稅
〔租稅〕本島ノ租稅ハ、米穀ヲ以テ其主眼トシ、稅率ヲ三等ニ區別シテ、上則、中則、下則トス、上則ハ田毎甲ニ粟八石八斗ヲ徵シ、園毎甲ニ粟五石ヲ徵ス、中則ハ田七石四斗、園四

稅率

歲入

石トシ、下則ハ田五石五斗、園二石四斗トス、本島ノ面積ハ一萬四千九百七十八方哩ニシテ、一孤島タルニ過キサレモ、全島ヲ舉ケテ沃土ニ屬シ、米及ヒ甘蔗ハ、一年二回ノ收穫アリ、是ヲ以テ田園ノ開墾未ダ五分ノ一ニ過キサレモ、其收入ニ至テハ、支那大陸ノ及フ所ニアラス、近年ノ歲入調査ニ依レハ、税金ハ三百八十萬零八千六百六十兩ニシテ、徵米ハ二十一萬零四百十石トス、今此徵米ヲ換價シ一石四兩ト假定スルトキハ、四十六萬五千零三十兩トナリ、總計四百二十七萬三千六百九十兩ニ上ルヘシ、而シテ是等ノ租稅ハ、地租其他ノ雜稅額ニシテ、海關稅ハ此算外ニ在リ、此歲入ニ由テ視ルモ、本島ノ土地豐饒タルハ、支那内地ノ各省ニ勝ルヲ知ルヘシ、試ミニ之ヲ盛京省ニ比較ス

歳入比較

レハ、該省ノ歳入ハ、税金二百六十三萬五千百九十兩ニシテ、徵米ハ五十二萬五千八百七十石ナリ、其徵米ハ本島ヨリ多キモ、税金ニ至テ百二十萬兩餘ノ大差アリ、而シテ海關稅ニ至テハ、盛京省ノ遠ク及フ所ニアラス、土地ノ面積ヲ比較スレハ、本島ハ盛京百分ノ一ニモ如カスシテ、其歳入ハ却テ彼ヨリ超過ス、今ヨリ本島未開ノ沃土ヲシテ田園タラシムルニ至ラハ、其歳入ノ増加ハ期スヘキナリ

海關稅

〔海關稅〕本島ハ良港ニ乏シキト風波多キトヲ以テ、其貿易ハ未タ隆盛ナラストスルモ、雞籠、安平、打狗及ヒ淡水ノ四港ヨリ徵收スル海關稅ハ左ノ如シ

關稅收入

雞籠關稅收入額	五九六、〇八三、八一三
安平關稅收入額	四二五、五六四、三〇〇

打狗關稅收入額 三五九、三〇二、八八四

淡水關稅收入額 五九〇、九四四、六〇〇

總計 一、九二一、八九五、〇〇〇 兩位以下ヲ除ス

此四港ノ關稅收入ヲ以テ、支那大陸ニ於ケル諸港ノ關稅收入ニ比スレハ、猶未タ天津ノ如キ大港ニ及ハストスルモ、牛莊、芝罘等ノ上ニ出ツ、此レ土地豐饒ノ致ス所ニシテ、益々物産ヲ繁殖セシメ、隨テ貿易ノ隆盛ヲ圖ルアラハ、一海關稅ノミノ收入ヲ以テスルモ、本島ノ一大富源タルハ、敢テ疑ヒテ容レサルヘシ

沿革

〔沿革〕臺灣島ハ古昔東蕃トシテ、荒服ノ地ニ屬シ、未タ支那ト交通セス、其ノ版圖外ニ孤立セリ、明末宣德ノ時代ニ及ンテ、大監王三保ナルモノ、航シテ西洋ニ到ラントシ、廳

支那大陸人始
メテ臺島ニ到
ル

風ニ遭フテ此島ニ泊セリ、此レ支那大陸人ノ足ヲ本島ニ著クルノ始メトス、嘉靖四十二年、流寇林道乾ナルモノアリ、邊海ヲ擾亂ス、都督俞大猷之ヲ征シ、追フテ澎湖島ニ及フ、道乾遁レテ臺灣ニ入レリ、大猷港路ヲ偵知スルモ、迂回シテ敢テ進邇セス、偏師ヲ澎湖ニ駐留セシメ、以テ之ニ備フ、既ニシテ道乾隙ヲ窺フテ遁レ去リ、澎湖ノ守兵是ニ至テ撒ス、大啓元年、海徵ノ人顏思齊、兵ヲ集メテ東洋ノ一甲螺流冠ノ首ト爲リ、日本ノ甲螺ヲ誘呼シテ、共ニ此島ニ據領ヲ謂フ、其勢頗ル熾ンニシテ、泉州ノ人鄭芝龍之ニ附從ス、思齊死スルニ及ンテ、鄭芝龍ヲ推シテ首領ト爲シ、海上ニ雄飛セリ、後芝龍明廷ニ歸順シ、臺島ヲ棄テ、閩中ニ移レリ、芝龍去テヨリ以後之ヲ久フシ、和蘭ノ一船颶風ニ遭フテ

甲螺顏氏臺島
ニ據ル

鄭芝龍起ル

蘭人ノ漂著

蘭人始メテ臺
島ニ城ク

鄭成功臺島ニ
據ル

本島ニ漂著シ、地ヲ借リテ之ニ住セント欲ス、土蕃可カス、乃テ之ヲ紹キ、僅ニ一牛皮ノ地ヲ得レハ以テ足レリトシ、之カ爲メ多金ヲ投スルモ惜マストス、土蕃財ヲ得テ之ヲ許スヤ、蘭人牛皮ヲ剪ル縷ノ如ク、周圍圍匝已ニ數十丈、因テ始メテ臺灣城ヲ築テ之ニ據ル、之ヲ安平鎮城ト稱ス、既ニシテ復メ赤嵌城ヲ築キ、與モニ相望ンテ市ヲ城外ニ設ケ、障泉ノ商賈漸ク集ル、順治六年、甲螺郭懷一ナルモノ、謀テ蘭人ヲ逐ント欲シ、事覺ハレテ殺サル、會マ鄭芝龍ノ子成功義兵ヲ舉ケテ、明朝ノ回復ヲ謀リテ成ラス、江南ヨリ敗レテ其勢日ニ蹙シ、孤軍以テ廈門ニ在リ、適マ甲螺何斌ナルモノ、債ヲ負フテ廈門ニ逃レ、成功ヲ誘フテ臺地ヲ取ントシ、舟シテ鹿耳門ニ至ル、水忽テ漲ル數丈、時ニ大ニ霧

蘭人臺島ヲ去ル

フル、成功等乃々駢進闖入ス、事不虞ニ出テ、蘭人防ク能ハス、鄭ノ舟猝ニ至リ、戰備ヲ裝シテ蘭人ニ告ク、此地ハ先人ノ遺物ナリ、今我ニ還スヘント、蘭人敵スヘカラサルヲ知り、乃々其衆ヲ率テ遁レ去ル、成功遂ニ入テ之ニ據リ、臺灣ヲ改テ安平鎮ト爲シ、赤嵌ヲ承天府ト爲シ、此地ヲ總稱シテ東都ト名ケ二縣ヲ設置シテ、天興萬年ト曰フ、成功死シテ其子經嗣キ、東都ヲ改メテ東寧ト爲シ、二縣ヲ二州ト爲シテ、安撫司ヲ設ケ、臺南臺北及ヒ澎湖各一司ヲ置テ、市廛ヲ興シ、耕種ヲ教ユ、實ニ是レ本島ノ中興ナリ、經死シテ其子克塽嗣ク

康熙二十一年、福建總督啓聖ナルモノ、間諜ヲ用井、陰ニ其黨ヲ散放シテ、深ク虛實ヲ探リ、克塽ノ裨將傅爲霖ニ約シ

臺島ノ舊制

成功ノ孫克塽清ニ降ル

清廷始テ治テ臺島ニ施ク

備考

テ、内應ヲ爲サシム、成ルニ乘シテ事洩レ、爲霜ハ害ニ遇フ、是ニ於テ清廷策ヲ定メテ、本島ヲ平定セント欲ス、翌二十二年、靖海將軍候施琅、舟師ヲ統率シテ進征ス、六月銅山ニ由リ、直ニ澎湖ニ抵リ、一戰ニシテ澎湖平ク、克塽震懾シ、地ヲ納レテ清ニ歸誠ス、二十三年一府ヲ設置シテ臺灣ト曰フ、福建布政使司ニ屬セシメ、三縣ヲ置テ之ニ附ス、郭ヲ爲スモノヲ臺灣ト曰ヒ、外二縣ヲ鳳山、諸羅ト曰フ、雍正元年諸羅ノ虎尾溪以北ヲ割テ、一縣ヲ増設シ、名ケテ彰化ト曰フ、此レ本島カ清ノ版圖ニ歸シタル始ナリ

【備考】 臺島ノ沿革上ニ、至大ノ關係ヲ有スルモノハ、鄭氏ノ占據ナリ、本島ノ開闢ニ著明ノ實績ヲ留メタルモノモ亦鄭氏ナリ、故ニ今鄭氏ノ經歷ヲ摘載シテ參考ニ

鄭芝龍ノ經歷

備フ

抑モ鄭成功ナルモノハ、鄭芝龍ト呼フモノ、子ナリ、芝龍ハ支那泉州南安縣ノ人ニシテ、兄弟四人アリ、芝龍ハ其長子タリ、二子ヲ芝虎ト呼ヒ、三子ヲ鴻達ト呼ヒ、四子ヲ芝豹ト呼フ、芝龍ハ長タルモ庶子タルノ故ヲ以テ家ヲ嗣カシメス、且ツ私ニ其心ニ企圖スル所アリ、故ヲ以テ明ノ天啓年間、遁レテ外國船ニ投シ、將ニ支那大陸ヲ去ラントス、其父聞テ大ニ怒リ、之ヲ追フテ將ニ害セントス、船已ニ纜ヲ解テ及ハス、芝龍纜カニ身ヲ以テ脱シ、我邦ニ遁ル、コトヲ得タリ、時ニ年十有八、芝龍性頗ル敏慧ニシテ器オアリ、我肥前平戸ニ留リ、翌年再ヒ外國船ニ搭シテ本國ニ歸ラントス、船途ニシテ海賊ノ爲メ

芝龍漸ク驕足
ヲ伸フ

ニ掠奪セラレ、芝龍策ノ出ル所ヲ知ラス、遂ニ心ヲ決シテ賊中ニ投ス、其魁ヲ顏思齊ト曰フ、日本甲螺ト自稱シテ、日本及ヒ支那海ニ出沒シ、掠奪ヲ縱マニシテ其勢頗ル張ル、思齊我邊民ヲ誘引シ、臺島ヲ占領シテ之ニ據ル、海賊多ク附キ、寨ヲ設ケテ之ヲ守レリ、既ニシテ一寨ノ首領死ス、芝龍乃チ思齊ニ請フテ之ニ代リ、其寨ニ長タリ、芝龍是レヨリ近海ニ出沒シテ掠奪ヲ業トシ、暹羅船四隻ヲ獲テ、多量ノ財物ヲ掠メ、倚テ以テ暴富ヲ致シ、其勢他ノ寨長ヲ凌駕ス、思齊死スルニ及ンテ、衆賊芝龍ヲ推シ、以テ其頭領トス、芝龍志ヲ得テ各地ト貿易ヲ開キ、益ス資産ニ富ミ、再ヒ我平戸ニ來リテ、田川某ノ女ヲ娶ル、平戸藩主地ヲ與ヘテ之ニ居ラシム

成功ノ生年

芝龍既ニシテ一子ヲ生ム、之ヲ成功ト我寛永元年二月三日平戸ニ生ルス、芝龍ノ名聲明廷ニ聞ユ、明主之ヲ招キテ兵事ニ從ハシム、芝龍屢ハ功ヲ樹テ、都督ト爲リ、人ヲ我平戸ニ遣ハシテ、成功母子ヲ迎フ、成功一弟アリ七左衛門ト呼フ、成功母子ハ支那ニ渡航シ、七左衛門ハ長崎ニ移テ、田川氏ト稱ス、成功年已ニ十有五、南京ノ大學ニ入り、勤學數年、成績大ニ顯ハレ、奇男子ヲ以テ稱セララル、二十二歳ニシテ父ト共ニ明主ニ見ユ、明主視テ以テ雄才アリト爲シ、特ニ優遇セラレ、姓ヲ與ヘテ朱ト稱シ、名ヲ成功ト呼ハシメ、成功初メ名ハ森中軍都督ニ任シテ寶劔ヲ賜フ、尋テ忠孝伯ニ封セララル、我院本ニ和唐内ト稱シ、國當時清ノ世世爺ト呼フ者是レナリ、祖出テ、將ニ支那ヲ一統セントシ、明主福州ニ蒙塵シテ崩ス、時ニ芝龍軍ヲ督シテ泉州ニ在リ、泉州陷ルニ及

成功ノ器才

シ、母田川氏城樓ヨリ水ニ投シテ死ス、芝龍日ニ寤蹙シ、將ニ清ニ降ントシ、成功ヲ呼テ之ヲ問フ、成功説クニ順逆ヲ以テシ、且清氏ノ測ルヘカラサルヲ告ケ、泣テ之ヲ諫ムレトモ聽カレス、芝龍竟ニ降リテ北行ス、成功今ヤ母ハ非命ニ斃レ、父ハ降虜ト爲リ、意氣慷慨、泣潛然トシテ下ル、遂ニ奮然蹶起、謀テ義兵ヲ舉ント欲シ、孔子ノ廟ニ詣リ、儒服ヲ燒キ、天ヲ仰テ且ツ告ク、余ハ微ナリト雖モ、明ノ孤臣タリ、苟クモ忠ヲ知ル者、豈ニ坐シテ社稷ノ亡滅ヲ見ルニ忍ヒンヤ、一身國ニ殉シ、以テ君父ノ仇ヲ報ヘサルヘカラス、今將ニ起テ干戈ヲ執ントス、敢テ謹テ儒服ヲ解ク、冀クハ先師我義舉ヲ鑒セヨト、遂ニ同志ヲ合セ、艤舳二隻ヲ艤シテ南溟ニ航シ、檄ヲ四方

成功義兵ヲ舉ク

成功ノ檄文

ニ同志ヲ合セ、艤舳二隻ヲ艤シテ南溟ニ航シ、檄ヲ四方

ニ移ス、其大意ニ曰ク、中國ノ夷狄ヲ視ル、猶峩冠ノ殘履
ヲ視ルカ如シ、故ニ冠ヲ履ニ資セハ則テ惋忿セサル莫
シ、夏ヲ夷ニ淪フレハ則テ孰レカ戚媿セサランヤ、我明
三百年ノ天下ヲシテ、一旦胥淪、夷狄ト爲ラシム、豈盡ク
忠義ノ士ナカランヤ、惟フニ二祖、列宗、豐功偉業、澤民生
ヲ潤シ、土ヲ踐ミ毛ヲ食ミ、世々君德ヲ承ク、即テ亡國ノ
禍アリ、道ヲ失フノ主アルニアラス、而シテ煤山龍馭、社
稷ヲ死守ス、狡虜徒ヲニ詐力ヲ以テ我天下ヲ奪フ、窃據
ノ後、虐ヲ爲ス益、深シ、亟姪ノ醜ハ、上骨肉ニ及ヒ、殺戮ノ
慘ハ、下狗彘ニ逮フ、官方ニ貪婪、役賦繁重、胡元ノ政ヲ歷
視スルニ、未タ敗壞ノ今日ノ如ク甚シキモノアラズ、我
先王家ヲ忘レ國ノ爲メニシ、至ル所其名曾ヲ殲シ、其巨

帥ヲ擒ニスル、勝ケテ計フ可ラス、即テ予嗣位ノ初メ、亦
嘗テ之ヲ烏沙ニ敗リ、其僞侯ヲ斬リ、續クニ糧運繼カサ
ルヲ以テス、固ク退テ東寧ニ屯シ、生聚教誨スル、一十餘
年、庶幾クハ勾踐ノ圖、先王ノ志ヲ墮スナシ、今ヤ虜亂日
ニ甚タシ、行事方ニ乖キ、積忍已ニ稔ス、天其魄ヲ奪ヒ、以
テ吳王義ヲ瀆南ニ倡ヘ、耿王正ヲ閩中ニ反スヲ致ス、人
ハ恢復ノ心ヲ望ミ、家ハ執箠ノ遂ルヲ思フ、此レ正ニ夷
虜數窮ノ會、龔ンテ天誅ヲ行フノ日ナリ、予組鍊百萬、樓
船數千、穀ヲ積ム山ノ如シ、願フ所ハ同志ノ士ト、敢テ故
王ノ恩ヲ念ヒ、上ハ國家ノ仇ヲ雪キ、下ハ民生ノ禍ヲ救
ヒ、桓文ノ偉業ヲ建テ、青史ノ芳名ヲ垂レン、大師ノ過ル
所、秋毫モ犯スナシ、嘉ク士民ト同ク恢復ノ功ヲ建テ、永

ク昇平ノ樂ミヲ快クセント、檄到ルヤ、士民風靡シ、兵ヲ集ル數千、明ノ永曆四年、先ツ鼓浪嶼ニ據ル、鼓浪嶼ハ葦水ヲ隔テ、其近海ニ在リ、此嶼安南ニ屬ス。此年、八月、其弟鴻逵ト協力シ、海ヲ渡テ泉州ヲ攻メ、清ノ提督趙國佐ト、桃花山ニ戰テ之ヲ破リ、進テ泉州城ニ迫ル、副將王進ノ來テ趙國佐ヲ援フニ遇ヒ、戰ヘ利アラスシテ退キ、再ヒ鼓浪嶼ニ據ル、既ニシテ又兵ヲ進メ、同安ヲ攻メ、泉州ヲ侵シ、且ツ裨將ヲシテ漳浦ノ地ヲ略セシメ、兵勢復タ振フ、明主之ヲ賞シテ、延平公ニ封ス、後廈門ヲ攻メテ之ヲ陷レ、其守將ヲ逐フテ之ニ據ル、海賊風ヲ望ンテ來リ投スルモノ甚タ多シ、清祖大ニ憂ヒ、屢ハ使ヲ遣ハシテ成功ニ説キ、以テ降ラシメントス、成功固ク義ヲ執テ動カス、清祖芝龍ヲ獄ニ

成功ノ義戰

下シ、書ヲ寄セテ成功ヲ招カシム、成功書ニ接シテ激昂シ、敢テ之ヲ顧ミス、是レヨリ各處ニ轉戰シテ、連勝ヲ收メ、將ニ大舉シテ金陵ヲ襲ハントス、諸將ヲ麾キ、舟師ヲ率井、進ンテ浙江ニ抵ル、會マ颶風ニ遇フテ兵八千ヲ失ヒ、幼子亦溺ル、退ヘテ滬洲ニ泊シテ、艤艦ヲ修理シ、再ヒ兵ヲ率井テ崇明島ニ抵ル、楊子江口ニ在リ。諸將取テ以テ據ラントス、成功聽カス、其志金陵ヲ攻ルニ在リ、乃チ揚言ス、瓜鎮ハ金陵ノ門戸タリ、我先ツ之ヲ破ルヘシ、闐然入テ寇ス、其兵十五萬ト稱ス、江ニ溯リテ巫山ニ泊シ、奠シテ明祖及ヒ先帝ヲ祭り、哀告誠ヲ致ス、諸將泣下ル、雨ノ如シ、清軍豫メ成功ノ來襲ニ備ヘ、鎮江ヨリ瓜州ニ至ルマテ、江面十里、長壩ヲ築キ、江流ヲ截リ、岸上ニ柵ヲ設ケテ、

登陸ヲ遮斷シ、石砲ヲ江心ニ列シテ、防禦ニ努ム、操江蔣國忠、總兵管效忠、副總高謙等、多兵ヲ以テ鎮江ヲ守ル、成功舟師ヲ率井テ、楊江ニ溯リ、鎮江ヲ取り、瓜州ニ迫リ、清軍敗駟ス、清將急テ南京ニ告テ援ヲ請フ、援軍已ニ至ルヤ、成功奇策ヲ運ラシテ、巧ミニ之ヲ避ケ、佯テ震懾ノ狀ヲ爲ス、清兵日夜ニ之ヲ追フテ及ハス、左奔右馳、兵已ニ疲勞シ、軍氣隨テ沮メリ、成功以爲ク、機已ニ熟セリト、乃テ進ンテ之ニ當リ、又大ニ之ヲ破ル、其兵ヲ用ルヤ、神出鬼沒、端倪スヘカラス、或ハ八卦ノ陣ヲ布キ、或ハ長蛇ノ列ヲ張り、軍略機ニ投シテ誤ラス、此レ其能ク清軍ヲ破ル所以ナリ、清軍已ニ敗レテ復タ敵セズ、清將蔣國忠ハ丹陽ニ走り、高謙ハ降ヲ乞フニ至レリ

成功蘭人ヲ逐
フテ臺島ヲ奪

成功ノ兵ヲ舉ルヤ、義ニ起リ忠ニ動キ、其志ハ明朝ヲ恢復セントスルニ在リ、故ニ旣ニ瓜州ヲ陷ル、モ、未タ以テ鑿カス、更ニ進ンテ金陵ヲ攻メントス、部將甘輝ナルモノ、諫ルニ長驅ノ得策ニアラサルヲ以テス、成功聽カス、遂ニ進ンテ南京ニ迫レリ、會マ清兵ノ爲メニ挾撃セラレ、大ニ敗レテ鎮口ニ退キ、再ヒ清兵ト戰テ之ヲ破リ、廈門ニ據ルヲ得タリ、然レドモ兵勢復タ振ハス、此時臺島ハ、蘭人ノ占領スル所ト爲リ、歸一王ナルモノ、之カ首領ト爲リ、臺灣、赤嵌ノ二城ヲ築テ之ニ據ル、偶マ日本甲螺ノ來テ臺島ノ事ヲ告ルニ遇フ、曰ク土地肥沃ニシテ、自ラ天富ヲ有シ、周圍ニ海ヲ環ラシテ、要害亦具ハルト、成功以爲ラク、此レ取テ以テ永ク據ルヘキノ地ナリト、

成功ノ嗣子

遂ニ又舟師ヲ率非テ臺島ニ渡リ、蘭人ヲ逐フテ之ヲ奪領ス、成功年三十九ニシテ死ス、我寛文二年五月其孫克塽ニ及シテ、始メテ清ニ歸順ス

成功ノ子經モ亦明ノ亡滅ヲ慨嘆シ、父ノ遺志ヲ繼テ、恢復ヲ圖ラントシ、厦門ニ據テ屢ハ清軍ヲ邀撃ス、當時支那大陸ハ、舉ケテ清ノ一統スル所ト爲ルモ、鄭經孤立、未ダ屈セス、猶依然トシテ明ノ正朔ヲ奉シ、死ニ抵ルマテ義ヲ執テ動カス、享年三十四ニシテ死ス、我天和元年四月其子克塽、年十二ニシテ嗣キ、諸將ニ擁護セラレテ、臺島ニ主タリ、靖海將軍候施琅、來リ攻ルニ及シテ清ニ降ル、清帝詔シテ克塽ヲ京師ニ招キ、封シテ以テ漢軍公ト爲ス、成功起テヨリ、克塽ニ至ルマテ、臺島ニ據ル三世、其間三十

長崎義俠者ノ經歷

八年ニシテ、臺灣始テ清ノ版圖ニ歸ス、今ヲ距ルニ二百年前ニ在リ

蘭人臺島ヲ占領スルニ當リ、我長崎ニ一ノ義俠者ヲ出セリ、當時我長崎人ニシテ、支那福建トノ間ニ往來シ、貿易ヲ行フモノ少カラス、長崎港吏、末次平藏ナルモノ、貨物ヲ其部下ノ商船ニ搭載シ、福建ニ航シテ貿易シ、歸途臺島ニ寄泊シテ、風候ヲ待ツニ際シ、蘭人兵ヲ派シテ之ヲ襲ヘ、悉ク財物ヲ奪ハシム、商船固ヨリ抗スル能ハス、怨ヲ懷ヘテ崎陽ニ歸ル、末次ノ從者、濱田彌兵衛ナルモノ、聞テ大ニ憤激シ、大船一隻ヲ假リ、臺島ニ往テ、其仇ヲ復セント請フ、末次之ヲ允シ、其策ヲ試ミシム、彌兵衛其二弟ト、農夫百人ヲ從ヘテ、臺島ニ赴ケリ、蘭人日船到ル

義俠者策ヲ以
テ臺島主ヲ捕
フ

ト聞キ、以爲ラク此レ復仇ニ在リト、水師ヲ派シ、彌兵衛
ノ船ニ就テ、其來意ヲ問ハシム、彌兵衛告ルニ、其志開墾
ニ在ルヲ以テシ、故ヲニ淳朴ヲ粧マテ、他意ナキヲ示ス、
蘭兵猶未タ疑ヒテ解カス、彌兵衛ノ船ヲ護シテ、阜頭ニ
至リ、未タ登陸ヲ許サス、彌兵衛等、首領ニ謁シテ開墾ノ
事ヲ告ント請フ、首領之ヲ許シ、延ヘテ其面前ニ到ラシ
ム、彌兵衛等、膝行漸ク進ミ、低聲以テ願意ヲ告ケ、其色憊
々トシテ、畏怖屈縮スルモノ、如シ、是ニ於テ首領以爲
ラク、此レ他志ナシト、傲然トシテ彌兵衛等ヲ瞰下シ、坐
ヲ進メテ情ヲ告ケシム、彌兵衛等、漸ク首領ニ咫尺スル
ヤ、俄然起テ首領ヲ捕フ、其弟小左衛門、匙首ヲ拔テ首領
ニ迫リ、將ニ傍ヲヨリ之ヲ刺サント擬ス、衆怖レテ四散

蘭人ニ復仇ス

シ、首領ノ傍ヲ復タ一人ヲ止メス、彌兵衛虚ニ乗シテ首
領ヲ縛シ、且ツ罵リ且ツ告ク、此行固ヨリ復仇ニ在リト、
首領震懾シテ命ヲ乞フ、彌兵衛叱シテ揚言ス、汝ノ死生、
一ニ我手ニ在リ、而ルモ余ハ君子國ノ人ナリ、敢テ殺テ
好ムニアラス、汝速ニ護兵ヲ撤シ、且財ヲ出シテ以テ贖
ハ、其罪ヲ宥スヘシ、首領唯々トシテ之ニ從フ、彌兵衛
飽クマテ財ヲ收メ、首領ヲ引テ船ニ上リ、將ニ護シテ日
本ニ歸ントス、首領涕泣シテ憐ヲ乞ヒ、一子ヲシテ已レ
ニ代テ我ニ質タラシメ、明年自ラ崎陽ニ抵テ、其罪ヲ謝
セント請フ、彌兵衛之ヲ允シ、乃テ質ヲ携ヘテ歸リ、其主
末次ニ復命ス、末次嘉賞措カス、之ヲ幕府ニ以聞ス、幕府
亦物ヲ與ヘテ、其義勇ヲ賞ス、首領約ヲ履ンテ、翌年崎陽

ニ來リ、誠意ヲ致シテ其罪ヲ謝シ、且ツ質ヲ還ヘサシメ
トテ請フ、末次之ヲ宥ルシテ、其質ヲ還ヘシ、之ヲ誠メテ
復タ我ニ寇スルコトナカラシム、是レヨリ蘭人等、我ヲ
畏レテ復タ害ヲ加ヘス、島民亦我武ニ服ス、此レ本邦臺
島ニ事アルノ始メトス

臺島英球ノ亂

康熙三十五年、臺東田尾ニ亂ヲ謀ルモノアリ、英球ト呼ビ、
明氏ノ後ト稱ス、朱祐龍ナルモノ之ヲ助ク、事竟ニ成ラス
シテ斃ル、六十年臺南ノ人翁飛虎、亂ヲ起シテ臺灣府ヲ陷
レ、朱一貴ナルモノヲ推シテ主トシ、殆ント全島ヲ席卷ス、
幾クモナフシテ清軍ノ征スル所ト爲リ、一貴捕ヘラレテ
事平ケリ、乾隆三十一年、又亂ヲ臺北ニ起ス者アリ、其魁ヲ
林爽文ト呼フ、彰化、淡水、諸羅等ヲ略シテ、其勢頗ル熾シ

翁飛虎ノ亂

臺島征討

リ清軍之ヲ討シ、三年ニシテ戡定ス、爾來民服シ、治稍ヤ緒
ニ就ク、偶マ土蕃我琉球ノ漂民ヲ害ス、事明治四年我之ヲ
清ニ告ケ、以テ其罪ヲ問ハシメントス、清措テ顧ミス、是ニ
於テ我師自ラ之ヲ征シ、土蕃ヲ屠リ、膺戀ヲ加フ、事明治七
年ニ在リ
而シテ永ク兵ヲ臺東ニ駐メ、以テ土蕃ニ備フル所アラシ
トス、清廷聞テ喜ハス、來テ和ヲ我ニ求ム、我其軍費ヲ償ハ
シメ、以テ守兵ヲ撤ス、是レヨリ土蕃我ニ懾服シテ、復タ我
邦人ヲ害セス、

始テ外國ト通
商貿易ス

佛軍臺島ノ攻
撃

咸豐八年、英米佛三國清ト條約ヲ結ンテ、本島ノ貿易ヲ開
キ、安平、打狗、淡水、雞籠ノ四港ヲ以テ互市場トス、後光緒九
年、清國安南ノ事ヲ以テ佛國ト釁アリ、佛國水師ヲ派シ、清
兵ト福州ニ戰テ大ニ之ヲ破リ、遂ニ臺島ヲ略スルアラシ

トス、清廷之ヲ聞キテ大ニ驚キ、提督劉銘傳ヲシテ其部下
 タル黑旗軍ヲ率井、本島ニ渡テ全島ノ兵ヲ指揮セシメ、大
 ニ兵備ヲ戒メ、專ラ防禦ノ策ヲ施サシム、劉銘傳ハ安南事
 件ニ關シテ、屢ハ佛軍ト戰ヘ、其名頗ル揚ル、故ニ今選ハレ
 テ、臺灣全島ノ指揮者ト爲ル、佛ノ水師提督哥爾伯、其艦隊
 ナ分テ二ト爲シ、淡水、雞籠ノ二港ヲ攻撃ス、清兵應戰、互ニ
 勝敗アリ、然レドモ清國艦隊ハ、既ニ佛ノ爲メニ擊破セラ
 レ、復タ來テ陸兵ニ應援スル者ナシ、陸兵苦戰、軍氣振ハス、
 佛軍竟ニ雞籠ヲ略シテ之ニ據リ、臺島ノ海岸ヲ封鎖シテ、
 大陸ノ交通ヲ遮斷ス、今ヤ援兵到ラズシテ、淡水ノ守リ亦
 殆ント危ク、澎湖ノ如キ、亦既ニ佛軍ノ占領スル所ト爲リ、
 臺兵孤立、策ノ出ル所ヲ知ラス、既ニシテ兩國和ヲ講シ、約

臺島兵備ノ更張

ヲ結ヒ、佛軍封鎖ヲ解キ、本島纔ニ以テ佛軍ノ蹂躪ヲ免ル
 ルコトヲ得タリ、抑モ本島ヲシテ危殆ニ陥ラシメタルモ
 ノハ、平素本島ヲ度外ニ措キ、其守備忽ニシタルノ致ス
 所ナリ、清國大ニ此ニ曉ル所アリ、劉銘傳ヲシテ更ニ兵備
 ニ注意セシメタルノミナラス、本島ヲ以テ福建省ノ管轄
 ニ屬セシムルハ、策ノ得タルモノニアラストシ、遂ニ其管
 轄ヲ離レテ、燭立ノ一省タラシメ、全島ヲ分テ二府八縣ト
 シ、巡撫ヲ置テ之ヲ統轄セシメ、又兵員ヲ増加シテ、其守備
 ナ嚴ナラシメタリ、是レヨリ行政亦漸ク緒ニ就キ、今ハ全
 島分テ、二府二廳十二縣一州ト爲スニ至レリ、
 劉名傳ノ本島ニ巡撫タルヤ、土蕃ヲ征シテ感化セシムル
 アラントス、特ニ廣東艦隊ヲ派シ、東海岸ノ蕃地ニ向テ、數

土蕃征討

回征討ヲ試ミシメタリト雖モ、土蕃ハ要塞ヲ設ケテ之ヲ固守シ、竟ニ其功ヲ奏スルコト能ハスシテ已メリ、是ヲ以テ東部一帯ノ地ハ、今猶土蕃ノ巢窟ニ屬シ、依然トシテ風化セス、今ヤ本島ハ、日清交戦ノ結果ニ因リ、講和條約ヲ以テ、本邦ノ新版圖ニ歸シ、至大ノ變遷ヲ見ルニ至レリ、本島ノ治績、應ニ是レヨリ新タナルヘシ、

臺島我版圖ニ歸ス

第二編

一、臺南誌

臺南誌

位置

〔位置〕 臺南ハ臺南府ノ管轄區域ニシテ、本島西面ノ中央部ヲ經界トシ、南部一帯ノ地ヲ總稱スルノ名ナリ、往時ノ臺灣府、即チ今ノ安平縣ヲ以テ其中心トシ、北緯二十二度三十分ヨリ、二十四度ニ亘リ、東經百二十一度十分ヨリ、百二十二度ノ間ニ在リ、

廣袤經界

〔廣袤〕 臺南ハ北南ニ延長シテ、西東ニ短縮シ、北ハ臺灣府ニ境シ、南ハ臺東州ノ極南部ニ接シ、西ハ海峽ニ濱シ、東ハ大山脈ヲ隔テ、蕃地ニ隣シ、其地形ハ北境ヨリ傾斜シ、中心ニ至テ大灣ヲ抱キ、南部ニ至テ亦傾斜シ、宛カモ凹字ヲ

仆スカ如ク、西南ノ最モ廣キ處ハ、四十哩許ニ達シ、其最モ狭キ處ハ、十五哩許ニ過キス、其南北ハ甚タ長ク、一百三十哩ニ下ラス、

人口

〔人口〕 臺南ノ人口ハ未タ詳カナラサルモ、一臺南府ニシテ十三萬餘ノ人口ヲ有シ、之ヲ以テ推算セハ、無慮一百二十萬ニ下ラサルベシ、

行政區劃

〔區劃〕 臺南ハ安平、鳳山、嘉義、恒春ノ四縣ヲ以テ分轄ス、島嶼ニハ澎湖ノ一廳ヲ置テ、列島ヲ管治ス、而シテ安平、鳳山、嘉義ノ三縣ヲ除クノ外、其管轄區域未タ詳カナラス、今姑ク其概略ヲ舉ケテ、以テ他日ノ實測ヲ待ツ、
里程ハ支那里程ニ仍ル

臺灣縣ノ廣袤所管

東、羅漢門、庄內門地名ニ至ル五十五里

鳳山縣ノ廣袤所管

鳳山縣

西、澎湖水程四更外ニ至ル三十里
南、文賢里、二贊行溪(鳳山縣界)ニ至ル七十里
北、新港溪(嘉義縣界)ニ至ル二十里
東西ノ廣サ九十五里、南北ノ袤四十里
管内ニ有スル坊、里、保、庄ハ四坊、二十里、一保、二庄
附屬ノ土蕃ハ孰蕃四社

東、傀儡山ニ至ル五十里
西、打狗港ニ至ル十里
南、沙馬磯頭ニ至ル三百七十里
北、二層行溪(安平縣界)ニ至ル七十里
東西ノ廣サ六十里、南北ノ袤四百四十里

嘉義縣ノ廣袤
所管

首府ヲ距ル九十里

管内ニ有スル里庄ハ八里七庄

附屬ノ土蕃ハ熟蕃八社、卑南、南、南、南、西ニ在ルモノ十社、卑南、南、南ニ在ルモノ三十五社、卑南、南、北ニ在ルモノ凡ソ六十五社、以上ハ生蕃ニ屬ス

嘉義縣

東、大龜佛山ニ至ル二十里

西、大海ニ至ル三十里

南、新港溪安平縣界ニ至ル八十里

北、虎尾溪彰化縣界ニ至ル五十里

東西ノ廣サ五十里、南北ノ袤百三十里

首府ヲ距ル一百里

恒春縣

恒春縣

管内ノ里、保、庄ハ四里、七保、十七庄

附屬ノ土蕃ハ倚山熟蕃四社、平地熟蕃八社、傀儡山東ノ生蕃二十二社

北ハ鳳山縣界ニ至リ、南ハ南灣ヲ抱ヘテ海ヲ環ラシ、東ハ蕃地ニ接シテ、西ハ海峽ニ濱シ、本島最南部ノ地ヲ管ス、此縣ハ近年ノ新設ニ係リ、其廣袤及ビ所管ノ保、里、庄等未タ詳カナラズ

海岸

〔海岸〕 臺南ハ背面ニ一帶ノ山脈蜿蜒トシテ連亘シ、宛カモ屏風ヲ建テ、障壁ヲ爲スカ如ク、南北ハ概テ平原ニ屬シテ、彎々タル海岸ヲ有ス、其中央ニ大灣ヲ爲スモノハ、即チ臺灣々トス、此大灣ノ邊岸ハ、斜角ヲ爲スモノ甚タ多ク

其内ニ又數箇ノ小港灣アリ、灣ノ窮ル處ヲ總稱シテ、紫頭港トシ、其西岸ニ安平港アリ、安平港ヨリ阿萬里岬ニ至ルノ間ニ、密爾某爾、巴拉爾、智蕃等ノ小澳アリ、紫頭港以北ノ邊岸、即チ安平港ヨリ阿禮摸爾燈臺ニ至ル、半灣ノ間ニハ又港ヲ爲スモノニアリ、其安平縣ニ屬スルモノヲ新港ト曰ヒ、嘉義縣ニ屬スルモノヲ冬港ト曰フ、義印、刺沙、加冬、呂伊等ノ小澳、其間ニ在リ、灣口ニ散點スル安平鎮、鹿耳門等ノ島嶼ニモ、亦小灣ヲ爲スモノアリ、阿禮摸爾燈臺ヨリ土亞摸岬ヲ經テ、臺灣府域ニ至ルノ邊岸ハ、大角形ヲ爲シテ、其尖頭ハ海峽ニ突出シ、之ヲ土亞摸岬トス、臺灣々ノ南端、阿萬里岬ヨリ、打狗ヲ中心トシテ、淡水溪口ニ至ルノ邊岸ハ、亦小屈折ヲ爲シテ、數箇ノ小澳灣アリ、阿

摸斯岬ヲ爲ス處ヲ、阿摸斯澳ト曰ヒ、佛智尼岬ニ當レル處ヲ、佛智尼澳ト曰ヒ、撒西蕃河口ヲ撒土爾灣ト曰フ、打狗港ハ密摸爾_{地名}ト巴利ノ間ニ位シ、本島最南部ノ良港トス、他_名那山脈ノ盡ル處ノ邊岸ニ在リ、打狗港以南ノ沿岸ハ、概シテ斷岸ニ屬シ、絶壁屹然トシ、屏立スルモ、小港灣亦少ガラ_ス、其名アルモノヲ風港、娜嬌港、現頭灣及ヒ南灣等トス、風港ハ萬士岬ノ突出スル處ニ位シテ、小琉球島ト對向ス、娜嬌港ハ娜嬌河口ニ位シ、刺以山脈ヲ背ニシテ、南灣ノ北ニ在リ、南灣ハ本島ノ最南端ニ位シテ、其角ヲ崑波岬ト曰フ、此邊岸ハ斷岸屹立スルモ、獨リ此灣ハ纔ニ以テ船舶ヲ碇泊セシムルニ足リ、打狗港ニ次テ其名アリ、淡水溪口ヨリ崑波岬ヲ廻リテ、東岸ノ猪朥東港ニ至ルノ間ハ、總

各縣所管ノ港

テ斷岸ニ屬スルヲ以テ、其風景頗ル佳ナリ、而シテ打狗港以北ハ、鳳山縣ノ管轄ニ屬シ、淡水溪口以南ハ恒春縣ニ屬ス、今更ニ各縣ニ屬スル港灣ヲ列舉スレハ、左ノ如シ、

安平縣ニハ、紫頭港、新港併ニ安平鎮、七鯤身ニ於ケル港灣及ヒ澎湖三十灣アリ、鳳山縣ニハ、萬丹港、打狗港等アリ、嘉義縣ニハ、度港、含西港、卓加港、竿寮港、直加弄港、西港、仔港、倒風港、鹿豆港、鐵線橋港、蚊港、盆水港、井水港、冬港、猴樹港、龜仔港等アリ、恒春縣ニハ、風港、娜嬌港、紅寮港、南灣、猪朥東港、拔搖港等アリ、是等ノ港灣ハ、其名アルモ、以テ纔カニ小船ヲ碇泊セシムルニ過キサレモノ、其半ハニ過ク、之ヲ要スルニ、本島ノ近海ハ淺洲又ハ沙汀ニ屬スル部分甚タ多キノ

山脈

著名ノ高山及ヒ高度

山脈ノ駛走

ミナラス、暗礁ノ味伏亦少カラサルヲ以テ、港灣ヲ爲スモ、以テ舟路ヲ通スルコト能ハサルモノアリ、臺灣々以北ハ、最モ然リトス、

〔山脈〕臺南ハ他那山脈ノ中腹ヨリ尾端ニ於ケル、一帯ノ南面ニ位置シ、安平縣ノ東北部ハ、即チ他那山脈ノ蜿蜒タル中心ニ當リ、高峯秀嶺、眉ヲ攢メテ聳立ス、其最モ高山ト稱セラル、モノハ、一峯(八千九百二十呎)三凸峯(八千二百呎)八峯(三千二百六十呎)老雞山(八千百呎)馬鞍山(八千呎)香洋山(七千六呎)嵌頂山(七千呎)大龜佛山等トス、

今他那山脈ノ臺南ニ蜿蜒連亘スル形狀ヲ示セバ、東溟ニ背シテ南海ニ面シ、群邑ハ其中ニ包居シ、木岡山ヨリ南大岡山ニ至ルノ間ハ、層巒疊嶂要シ、大岡山ヨリ南、沙馬磯頭山

ニ至ルノ間ハ、包裹絡繹、懷抱鞏固シテ、鳳山縣地ヲ爲ス、大岡山ノ南ヲ風山縣界トス木岡山ヨリ北、奇冷岸山ニ至ルノ間ハ、諸峯錯秀シ、逕迤包羅ス、此地ヲ嘉義縣トス、奇冷岸山ヨリ又北シテ雞籠鼻頭山臺灣ノ山ハ此レヨリ源ヲ發ス、凡ソ日本ヨニ至ルノ間ハ、疊嶂廻環ス、此地ハ即チ臺灣府彰化縣ニ屬ス、蓋シ安平、鳳山、嘉義ノ縣界ハ遠峯迄岫、皆郡治ニ於テ相供向ス、其各縣管内ニ於ケル著名ノ高山ヲ、更ニ列舉スレハ左ノ如シ、

安平縣内ノ諸山
鳳山縣内ノ諸山

安平縣ニハ、木岡山、香仔湖山、柳仔林山、猪母耳山、湖仔內山、香洋山、角帶圍山等アリ、鳳山縣ニハ、牛屏山、龜山、打狗山、鳳山、旗後山、深底山、觀音山、七星山、大滾水山、小滾水山、尖山、小岡山、大岡山、赤山、傀儡山、娜嬌山、沙馬磯頭山、小琉球山、網翠

嘉義縣内ノ諸山

山、老佛山、朝帶離山、大柴高山、霄馬千山、大烏方山、卑南覓山等アリ、新置ノ恒春縣管内ニ在嘉義縣ニハ、大武巒山、玉山、牛稠山、大福興山、覆鼎金山、枋仔峯山、鹿猪山、打利山、鹿仔埔山、阿里山、大龜佛山、肚武骨山、香米基山、鼎蓋標山、梅仔坑山、奇冷峯山、尖山仔山、玉案山、火山、嵌頭山、囉婆山、筆架山、半月嶺、小龜佛山、赤山、等アリ、

河流

〔河流〕 臺南ハ大山脈ヲ背ニシテ南向スルモ、其山脈ハ北ヨリ南ニ延長シ、其幅員甚ダ廣カラサルヲ以テ水源ニ乏シク、隨テ河流ヲ爲スモノ甚ダ少シ、其稍ヤ大ナルモノハ、伯塞珍河、刺摸亞河、撒西蕃河等ナリ、伯塞珍河ハ哥爾米湖ヨリ北南二線ニ流レ、其北ニ向テ流ル、モノハ、恩太港ニ入リ、南ニ向テ流ル、モノハ、鹿仔港ニ入ル、刺摸亞河ハ大

臺南著名ノ河流

龜佛山南ニ源ヲ發シ、西流シテ紫頭港ニ注ギ、撒西蕃河ハ
他那山脈ノ尾端ニ當レル處ニ源ヲ發シ、亦南流シテ海ニ
入り、今尙各縣ノ管内ニ於ケル河流ニシテ、稍ヤ名アルモ
ノヲ列舉スレバ左ノ如シ、

安平鳳山兩縣
内ノ河流
嘉義縣内ノ河
流

安平縣ニ刺摸亞河アリ、鳳山縣ニ岡山溪、濁水溪、淡水溪、
大澤磯北溪、大澤磯西溪、力々溪、放練溪等アリ、
(恒春縣管内ニ屬スルモ、此中)嘉義縣ニ新港溪、洋仔溪、馬沙溝、歐汪溪、上下
急水溪、八掌溪、泉溪、石龜溪、阿拔泉溪、虎尾溪等アリ、是等
ノ河流ハ、水甚ダ淺フシテ、舟楫ヲ通スルモノハ甚ダ少
シ、

地勢

【地勢】臺灣ハ他那山脈ヲ障壁トシテ、東部ノ蕃地ト一帯
ニ境界ヲ接シ、南北ニ延長シテ、東西ハ狹隘ナリ、而シテ安

沼湖

平縣ヲ以テ稍ヤ中心トシ、南北ニ翼ヲ張り、其左翼ニ當レ
ル部分ハ、三角形ヲ爲シテ海ニ臨ミ、其角端ヨリ漸次ニ伸
長シテ、平原ヲ爲スモ、其東部ハ森林ト山脈トヲ以テ充タ
シ、東ニ進ムニ隨テ高地ヲ爲ス、其右翼ニ當レル部分ハ、我
富岳ヲ倒マニスルカ如キノ形狀ヲ爲シ平原ヲ以テ其大
部分ヲ充タシ、其幅員亦甚ダ廣シ、他那山脈モ亦此部分ニ
至テハ、大彎形ヲ爲シ平原ヲ抱ヘテ南ニ駛走ス、其平原中
ニハ、三四ノ小山脈アルモ、皆情圓形ヲ爲シテ、箇々斷切シ
テ、相連亘セス、纜カニ以テ平原中ノ小黑子ヲ爲スニ過キ
ス、之ヲ要スルニ臺南ノ地勢ハ、大箭頭形ヲ爲シテ、西南海
ニ面シ、北部ニ廣ク、南部ニ狹シ、

【沼湖】臺南ニハ沼湖ノ大ナルモノ甚ダ少シ、其稍ヤ名ア

臺南著名ノ沼湖

ルモノヲ舉レハ、嘉義縣ニ及宇和澳土湖アリ、薯形ヲ爲シテ、臺灣々ノ北岸ニ位置ス、冬港ニ注入スル河流ハ、源ヲ此湖ニ發ス、又鳳山縣ニ在ルモノヲ萬奈湖ト曰フ、其形瓢子ノ如シ、此レ臺南沼湖ノ最モ大ナルモノトス、

平原

〔平原〕臺南ハ南部ニ向フ部分、概テ平原ニ屬シ、其北部ハ廣大ナル曠原ニシテ、安平縣、嘉義縣等ノ管地タリ、然レモ海岸附近ノ地ヲ除クノ外、概シテ蕪々タル草原ニ屬ス、其南部モ亦他那山脈ヲ背ニシテ、海ニ面スル一帯ノ地ハ平原ニ屬シ、海岸ニ接近スルニ隨ヒ、漸ク低地ヲ爲シ、眼界ヲ遮ルモノハ、僅ニ低樹ノ處々ニ點在スルヲ見ルノミ、且ツ此地方ハ概シテ耕地ニ屬シ、地味肥沃ニシテ、平原中最モ

平原ノ位置

豐饒ナルモノトス、

森林

〔森林〕森林ハ他那山脈ニ接スル地ニ至テ甚ダ多ク、到處トシテ樹木ノ蒼蔚タルヲ見サルハナシ、而シテ其最モ大ナルモノハ、鳳山縣ノ中部ニ在ルモノトス、鳳山縣ニ在ルモノハ、海岸ヲ距ル數里ノ點ヨリ起リテ、他那山脈ノ斜面ヲ爲ス處ニ連リ、其幅員ハ無慮二十哩許ニ下ラサルヘシ、

大森林ノ位置

臺南所管ノ島嶼

〔屬島〕臺南府ノ屬島ハ、澎湖列島ヲ以テ其最モ大ナルモノトシ、之ニ次クモノハ安平鎮、鹿耳門、七鯤身、加老、漁翁窟、月眉等トス、其他紫頭港北ニ數嶼アリ、

氣候

〔氣候〕臺南ノ氣候ハ、之ヲ概言スレハ溫熱ニシテ、且之ヲ臺北ニ比スレバ、其度一層高シトス、而シテ本島ハ南北ニ延長スルヲ以テ、南部ニ到ルニ隨ヒ、自ラ溫度ノ増加アリ、

温度雨量ノ氣象概表

然レトモ氣候ハ一般ニ平順ニシテ、激變スルコト少ク、只
々山間ノ高地ト海邊ノ低地トハ、多少溫度ノ差違アレト
モ、周年寒ヲ覺エス、且其溫度ハ高シトスルモ、天氣ハ概チ
朗晴ニシテ、東北ノ風ハ頗ル膚ニ適シテ爽快ナリ、是ヲ以
テ健康ヲ害スルニ至ラス、雨量ハ常ニ少量ニシテ、乾燥ニ
屬シ、梅雨ノ季節ニ至テ、少シク濕氣ヲ感スルニ過キス、臺
南府近年ノ氣象概表ヲ示セハ、左ノシ如シ

最高溫度

最低溫度

氏華 一〇七、〇

氏華 五〇、〇

最多雨量

最少雨量

一七吋二九

零吋三八

物産

〔物産〕 臺南ハ肥沃ノ地ヲ以テ平原ヲ充タシ、山地ト雖モ

物産ノ主眼

植物部類

最高地ヲ除クノ外、耕耘スヘカラサル所ナク、一般ニ豐饒
ニシテ、本島ノ農業ハ、臺南ヲ以テ開始ノ地トス、故ニ田野
能ク開ケ、稼穡最モ盛ンナリ、凡ソ穀類ハ、一トシテ産セサ
ルモノナク、稻米ニ至テハ、最モ多額ノ産出アリ、安平、嘉義
及ヒ鳳山ノ地方ノ如キハ、年々海外ニ輸出スル數額甚々
多シトス、殊ニ多額ノ甘蔗ヲ産出シ、砂糖ノ輸出ハ、主眼ノ
物産ニシテ、臺南輸出品ノ大宗トス、然レモ其製造ハ猶粗
造ニ屬スルヲ以テ、未ダ精製品ヲ出スニ至ラズ、今ヨリ改
良策ヲ講ズルアラバ、東洋一般ノ需要ニ供充スルコトヲ
得ベシ、隨テ輸出上ニ幾層ノ利益ヲ加フルニ至ルベキハ、
敢テ疑ヒテ容レザルベシ、現時平原ヨリ産出スル植物ハ、
穀類、甘蔗ヲ以テ其ノ主眼トシ、之ニ次テ尙種々ノ植物ア

稻米ノ種類

リ、而シテ此地產出ノ米ハ、其質善良ニシテ數種アリ。早占赤白ノ二種アリ、粒小ニシテ熟ス、二三、埔占、赤皮厚月ニ種エテ、六七月ニ成ル、田中ニ之ヲ種ユ、埔占、赤皮厚シ、三四月ニ種エテ、八九月ニ成ル、田中ニ之ヲ種ユ、圓粒、米白フシテ軟カク、粒短フシニ成ル、園中ニ之ヲ種ユ、圓粒、米肥エ、種獲ハ埔占ト同シ、但米多クシテ、飯、尖仔、純白ナルモノ、五六月ニ種エテ、諸稻中極メ美ト爲セハ少シ、似、天來、內山早、清波早、紅脚早、以上田中ニ之、三杯、形尖、栗、似、天來、內山早、清波早、紅脚早、以上早大頭婆、粒ノ大ナル、諸米ニ倍シ、極メテ白シ、少許ヲ用テ他成、大伯姆、籬下ノ田ニ種ユ、水ノ高サ一尺ナレハ、長スルコト、七十日早、早春ニ種ユ、七十、安南早、白肚早、其肚甚、一枝早、呂宋占、種ハ呂宋ヨリ來リ、赤白ノ二色アリ、糯米、即チ赤殼秣、穀赤名ハ占仔秣、虎皮秣、穀赤フシテ文ア、竹枝秣、米青尖仔秣、生毛秣、穀ニ毛、鴨母湖、質ナル者、禾秣、鳳山ノ熟番之ヲ園、鵝卵秣、粒短フシテ穀薄ク、色白ナルモノ、性、蕃仔秣、粒甚メテ大、土蕃藏

麥ノ種類

黍ノ種類

豆ノ種類

蔬菜ノ種類

樹木ノ種類

シ、以テ酒、等是レナリ、麥ニハ大麥、小麥、蕎麥、蕃麥、狀ハ黍ノ石、榴子ノ如シ、一等アリ、黍ニハ芝蔴、芦黍、高粱、黃粟、鴨蹄黍、葉一錢、々數百粒、等アリ、黍ニハ芝蔴、芦黍、高粱、黃粟、鴨蹄黍、穗鴨蹄ニ似タリ、故ニ名ク、以等アリ、豆ニハ黃豆、白豆、黑豆、スルモノ、粒甚メ大ナラス、俱ニ米豆、皮白フシテ、米ニ和シ、綠豆、四五月ニ種エ、八九月ニ收ム、紅公豆、刀豆、土豆、一名ハ、扁豆、菜豆、名アリ、青紫ノ二種、加雪豆等アリ、蔬菜ニハ、薑、葱、韭、蒜、甘藷、茯苓、芥菜、田薯、白菜、苜菜、隔藍菜、厚菜菜、頗蔘、瓠菜、蕪菜、茼蒿、芹菜、絲瓜、金瓜、一名、王瓜、南瓜、苦瓜、冬瓜、匏、筍、紫菜、海粉、蘿蔔、涵瓜、西瓜等アリ、又煙草ヲ產出ス、樹木亦其種類甚メ多ク、松、柏、樟、楠、桐、厚栗、百日青、柳、赤鱗、烏栽、埔柳、山荔、烏柏、糖榔、撲仔樹、鹿仔草樹、椴、破故子、蕃豆、榕、楓、椿、棟、白樹、錢樹、水松、苦茶樹、柏、黃目樹、茄藤樹、林茶、桑、黎、水漆、

果樹ノ種類

九芎、加冬、綠珊瑚、桃榔、蕭朗、土沉香、婆羅樹、交標、餛頭果、桂、海棠、夾竹桃、唐棣、佛桑、夜合、千日紅、山梔等アリ、果ヲ結フモノニハ、龍眼、波羅密、鳳梨、椰子、檳榔、桃、梅、李、石榴、蕃石榴、柑子密、蕃柿、柚、柑、橘、等アリ、

竹ノ種類

竹類亦數種ヲ産ス、其大ナルモノハ、周圍二三尺ニ亘リ、土人ハ之ヲ以テ種々ノ器具ヲ製造ス、乃チ刺竹、長枝竹、鳳尾竹、麻竹、空蓬竹、椶竹、蘆竹、箬竹、石竹、金絲竹、珠籬竹、七絃竹、人面竹等アリ

花草ノ種類

草ハ花ヲ愛スルモノニハ、仙丹、蘭、紫荊、芙蓉、樹蘭、指甲、水錦花、長春、麗春、雞爪蘭、茉莉、金絲蝴蝶、蜀葵、玉樓春、荷、菊、玉芙蓉、頰桐、蕃蝴蝶、紫薇、金錢花、美人蕉、水仙、臘脂花、蕃瑞香、蕃花、噴雪、萱、月下香、雞冠花、老來嬌、曇花、向日葵、素馨、鳳仙、煎絨、繡珠

雜草ノ種類

石竹、萬壽菊、迎年菊、猷歲菊、蓮蕉、蓼花、斑支、刺毯、鐵樹花、貝多羅、倒垂蘭、含笑、七里香、交枝蓮等アリ、雜草ニハ、仙草、鼠麴、白麴草、乳草、仙人掌、萍、蘋、藻、含羞草、齒草、遍地錦、虎耳草、鳳尾草、茅、菅、刺莧、茜草、芒、蒲、金絲藤、菖草、風草、龍舌草、薑黃、七絃草等アリ、藥草ニハ、天門冬、麥門冬、土茯苓、伯菰、林茶菰、三柰、地骨

藥草ノ種類

皮、穿山龍、木通、薏苡、白扁豆、金銀花、水燭、地草、艾、益母草、木賊草、蒲公英、薄荷、稀簽草、菖蒲、澤蘭、班節、相思、白雞冠、紫葍、風藤、馬尾絲、白蒺藜、通草、羊甘草、正埔薑、雞骨黃、烏甜葉、宜梧草、撮鼻草、鴨嘴黃、千里光、馬鞍草、猪母菜、羊角草、珠子草、鹿肚草、鹹酸草、炮仔草、地掃草、鼠尾黃、龍樹草、山芙蓉、雞角刺、束血草、蚶殼草、蠅翅草、水鏡草、三脚虎草、茅根草、無根草、荊苳草、梨壁草、蒲鹽草、含鈴草、茶匙香、龍鱗草、四時春、馬蹄香、金劍草、蔚子、龍

動物部類

家畜ノ種類

野獸ノ種類

野禽ノ種類

蟲類

船花、魚簽草、苦麻草、柏仔草、萬年薯、龍芽草、竹仔草、天青菜、大楓草、山麻草、姑婆草、白埔薑、赤血草、白花草、雞柔草、風鬚草等、其他多種アリ、

動物ハ、獸類トシテ家畜ニハ、牛、馬、狗、豚、羊、猫、雞、鵝、鴨、蕃鴨、蕃豚等アリ、野獸ニハ、艾葉豹、熊、麋、鹿、麂、麝、兔、猴、山猪、獺、山羊、鼠、野猪等アリ、野禽ニハ、鳶、鴿、鶴、鴉、雉、烏、燕、鳩、鷺、畫眉、鸚鵡、布穀、鳧、鷓、海雞、母、鶻、鴛、鴦、翡翠、白鷺、長尾、三娘、烏鶯、伯勞、黃鶯、鷹、鷓、鴒、鴉、雀、白頭翁、海鵝、卑雀、白鳩、竹雞、鴿、鷓、鴒、兔、車、彩囊、五鳴雞、雷舞、鴉、鶴、倒掛等アリ

蟲類ニハ、蜂、蟻、蟬、蝴蝶、蝙蝠、蝦蟇、蟋蟀、蜘蛛、蜥蜴、蜻蜓、螢、蚤、蝨、斯、螳螂、蜈蚣、蠅、虎、蜈蚣、地、蜂、虎、水、蛭、蠅、蚊、蛤、螂、蠹、竈、雞、蟋、螂、毛、蟲、蚯蚓、蛭、蚰、蛙等アリ

水屬部類

製造部類

水屬ニハ、鯉、塗、鮪、烏魚、鰩、馬、鮫、鰻、鮎、鰱、鰻、扁魚、白帶魚、牛魚、魴、鮓、魚、鯽魚、貼沙、銀魚、鱈魚、虎魚、黃魚、虹魚、泥鰌、金魚、鬪魚、麻虱目、鮠魚、獅刀、烏頰、黑魚、鎖管、鯊、沙梭、海翁、魴、鯉、魚、青鱗、紅沙、金鍾仔、花身、鮑魚、鐵甲魚、遍身苦、金鯪、塗、虱、狗、母魚、獨魚、花鈴、鱧魚、鱈魚、鮓、鱈魚、章魚、蜆魚、沙蚤、鯪魚、飼子飯、鶯哥魚、龍尖、三牙魚、黃翅、黃爵、新婦啼、飛籍、金精、三牙、田、鴿、鰻魚、海、蠣、旗魚、泥龍、蜈魚、海和尚、海狗、海龍、海馬等アリ、介類ニハ、龜、龜、鱉、鯢、鯢、鯢、螺、蟹、牡蠣、蚌、蠟、花蛤、蛤、蚶、水龜、海豆、芽、珠、螺、蚌、白、螺、西、施、舌、海、蜆、蠔、蠔、龍蝦、海、蒜、寄居蟲、兔、蟹等アリ

製造品ハ、甚ダ多カラサルモ、砂糖ヲ以テ主眼トシ、毎歲產出スル總額ハ、一億二千萬斤ニ下ラズ、之ニ次クモノハ、樟腦トスルモ、其額ハ臺北ニ比スレハ多カラズ、其他麝香油、

礦物部類

藤器、紵布、棉布、麻布、卓戈紋土蕃ノ織ル者、毛被土蕃ノ織ル者、達戈紋土蕃ノ織ル者、蕃毯、茄藤皮、蟻灰、鹿皮、麋皮、鱉皮等トス。礦物ハ、琉黃ノ産出ヲ以テ最モ多額トス、貴金屬ニハ、砂金ノ産出アルモ、其額甚ダ多カラズ、臺南ハ元來礦山ニ乏シカラズ、金銀礦ヲ出スモノ亦少カラズトスルモ、未ダ力ヲ其採掘ニ盡シタルモノアラズ、天賦ノ富源ハ、空シク埋没ニ屬セリ、今ヨリ採掘ニ意ヲ注グアラバ多量ノ貴金屬ヲ産出スルニ至ラシムル、敢テ難キニアラザルベシ、

木石材類

木石材ハ、山地到ル處之ニ富ミ、巨大ノ木材ヲ産出ス、石材ニハ礫、礧石、打狗山石、岡山石等ノ産出アリ、

生業

〔生業〕臺南住民ノ生業ハ農業ヲ以テ其多數ヲ充タシ、氣候溫熱、周年植物ノ産出ヲ絶ダザルヲ以テ、常ニ耒耜ヲ把

貿易

テ、田圃ニ從事シ、兼テ多少ノ砂糖ヲ製造セザルモノナシ、婦女ハ布類ヲ織リ、縫箔ヲ巧ニシ、之ヲ以テ其業トスルモノ甚ダ多シ、市街ニ住スルモノハ、概シテ商業ヲ營ミ、海邊ニ居ルモノハ、漁業ヲ專ラトス、

輸出入物ノ種類

〔貿易〕貿易ハ、安平、打狗ノ二港ニ於テ之ヲ行ヒ、安平港ノ貿易ハ最モ盛ンニシテ、其輸出入額ハ、全島ノ諸港ニ冠タリ、其輸出品ハ、穀類、砂糖ヲ以テ其主眼トシ、樟腦、芝蔴、藥品、海産物等ニシテ、輸入品ハ、棉布、紗緞、綾羅、阿片、絲類、毛絨、紙料、銅器、磁器、鐵器、魚膠、白蠟、草席、毯氈、酒類、帽、靴等、其他各種ノ粧飾物ニシテ、支那大陸トノ貿易甚ダ盛ンナリ、英吉利、亞米利加、佛蘭西、澳地利、西班牙、獨逸等ノ諸國及ヒ南洋諸島トノ貿易モ、亦日ヲ逐フテ盛ンナリ、一千八百九十一年

輸出入額

ノ輸出ハ、二百五十一萬六千七百六十三圓四十八錢ニシテ、輸入ハ歐米諸國ヨリ輸入シタル額ハ、百九十九萬二千六百八十三圓ニシテ支那大陸ヨリ輸入シタル額ハ三十一萬二千六百九十三圓九十二錢ナリ、打狗港ノ貿易ハ、亦數種ノ輸出品アルモ、砂糖ヲ除クノ外ハ、甚ダ少量ニシテ、商船ノ輻輳ハ、砂糖輸出ノ爲メ、特ニ市場ヲ開ク時ノミニ屬セリ、平常ハ寂寥ニシテ、外商ノ居留スルモノ甚ダ少ク、久シク居留シタルモノモ、漸次安平ニ移轉スルニ至レリ、而シテ本港ヨリ輸入スル品類ハ、安平港ト大同小異ナルモ、其量額ハ甚ダ少シ、然レトモ本港ハ、南部ノ良港ニ屬スルヲ以テ、物産ノ繁殖ヲ圖リ、其輸出チ一ノ砂糖ニ止ラシメス、他ノ品類ヲモ盛ンニ輸出セバ、本港ヲシテ隆盛ノ互

都市

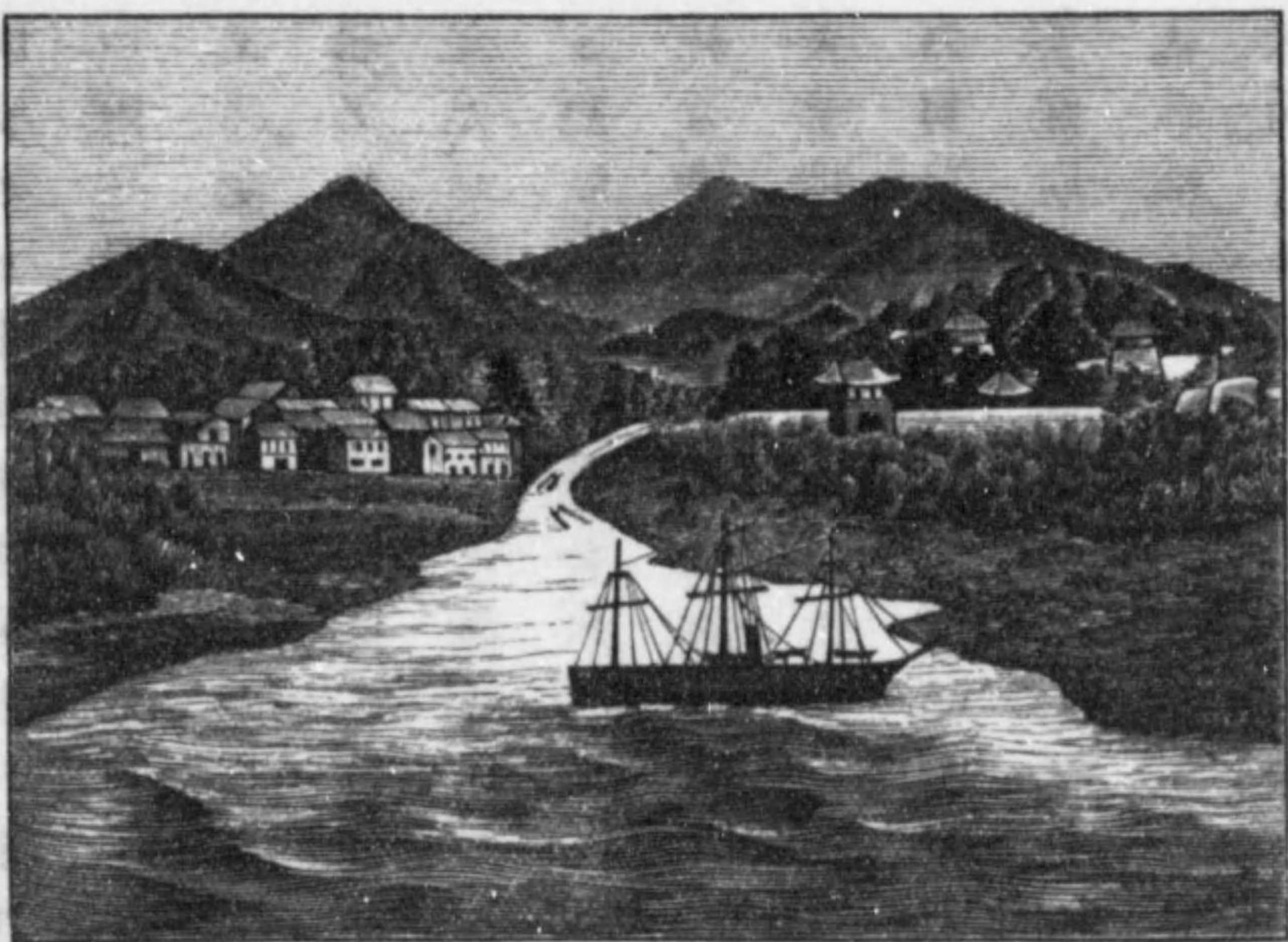
臺南城

臺南府城ノ位置人口

臺南府ノ所管

市場タルニ至ラシムルハ、亦敢テ難キニアラザルベシ、
 【都市】本島ノ開始ハ、臺南地方ヨリ開基シタルヲ以テ、史上ニ記載セラル、都市ハ、此地方ニ向テ多シトス、其最モ名アルモノハ、臺南、鳳山、打狗、嘉義、澎湖城等トス、
 臺南ハ臺灣島ノ南西ニ位シ、本島ノ首府ニシテ、北緯二十三度六分、東經一百二十度五分、即チ臺灣島ノ西南岸ニ在リ、本府ハ安平港舊安平鎮ニシテ、亦依此地在リヲ距ル二哩許ニシテ地勢平曠、府城ノ北東南ハ、豐饒ノ耕地ニ圍繞セラレ、人口凡ソ十三萬五千ヲ有シ、清曆雍正元年ノ創始ニ係レリ、此府ハ舊臺灣府ニシテ、清國福建省ノ管轄ニ屬セシコト久シ、後福建省ノ管轄ヲ離レ、獨立ノ一省ト爲ルニ迨ヒ、臺南府ト改稱ス、我明治二十年本府ハ安平、鳳山、嘉義、恒春等ノ諸

臺南府城ノ市街



縣及ヒ澎湖島ヲ管轄スル一集權府ニシテ、臺南府ノ官署ハ、乃チ府城中ニ在リ、市街ハ、長方形ニシテ、初メ、木柵ヲ創建シ、周回二千一百四十七丈ニシテ、西南北ニ四大門、東南北ニ三小門ヲ設ケ、木製ノ建築タリ、清曆乾隆元年、七門ヲ改築シテ石門ト爲シ、樓護女牆ヲ設ケテ、

蘭人築造ノ故堡

始メテ窩鋪ヲ開ク十有五、同五年土堡ヲ築キ、高サ一丈一尺、周圍三百三十丈、是レヨリ漸次市街ヲ改築シテ、一府城ヲ成スニ至レリ、市街ハ長サ約チ一里許ニシテ、幅半里、道路ハ狹隘ナルモ、敷クニ石ヲ以テシ、家屋ノ建築モ、亦美麗ニシテ清潔ナリ、市街ノ中央ニ、方形ノ一小堡アリ、此レ和蘭人此地ニ據ルトキニ築造スルモノニ係リ、蔚蔚タル樹木ノ間ニ屹立ス、既ニ二百年ノ星霜ヲ閱スルヲ以テ、半ハ破壊ニ屬スルモ、本島ノ故物トシテ之ヲ保存ス、府城ヨリ安平ニ至ルノ間ハ、道路平坦ニシテ、車馬ノ往來甚タ便ナリ、且ツ運河ノ開鑿アルヲ以テ、小舟ヲ行ルベシ、市街ノ外郭ハ、繞ラスニ墻壁ヲ以テシ、外郭ヲ距ル半里許ニシテ、砲臺アリ、市門ノ傍ヲニハ、二箇ノ兵營ヲ設ケ、以テ守兵ヲ駐

臺南府城内ノ景況

屯セシム、内郭ノ東南部、即チ海岸ニ接近スル處ニ、廣大ナル市場アリ、以テ本島商業ノ中心トス、城内ニハ、官署貢院アリ、貢院ハ闊大ナル建築ニシテ、以テ數千人ヲ容ル、ニ足ル、其他寺院及ヒ豪商ノ家宅等、概シテ皆城内ニ在リ、其間樹木ヲ栽エ、空地ヲ設ケ、風景頗ル美ナリ、府城ノ内外ニ數箇ノ古壘アリ、千六百三十年ノ築造ニ係リ、乃チ和蘭人此地ニ據ルトキニ築造シタルモノニシテ、安平ニ在ルモノ最モ巨大ナリ、此古壘ハ各々約ソ方六十碼平方ニシテ、鋒頭形ヲ爲シ、牆壁ハ小磚石ヲ以テ築造シ、牆上ニハ銃窓ヲ設ケ、頗ル堅牢ニ屬スルモ、歲月ヲ經ル既ニ久キヲ以テ、概チ破壊シ、今ハ一故趾ヲ存スルニ過キス、然レトモ是等ノ故趾ハ、以テ府城ノ風景ヲ添フルノ

古壘

市民ノ風俗

ミナラズ、本島ノ治歴史ニ屬ス、市民ノ風俗ハ、一般ニ溫和淳朴ニシテ、支那明末ノ遺風ヲ存ス、男子ハ商業又ハ農事ニ勉勵シ、婦女ハ織物若クハ縫箔ヲ常業トス、

安平港ノ貿易

貿易ハ、未ダ隆盛ナラザルモ、米穀、砂糖等ノ輸出甚タ多ク、年ヲ逐フテ輸出入ノ増加ヲ致スノ景況アリ、安平港ヨリ長崎ニ至ルノ航路ハ、凡ソ八百七十哩ニシテ、香港航路ハ、三百哩、厦門ハ百八十哩、上海ハ六百五十哩、其他ノ諸港ヘモ航路ヲ通ズルヲ以テ、内外ノ商船、常ニ港内ニ輻輳シ、帆檣林立ス、然レトモ安平港ハ深サ六尋餘ノ外港ニ屬シ、波浪ノ激揚常ニ甚シキノミナラズ、海底ハ沙質ニシテ、船舶ハ海岸ヲ距ル一里許外ニアラザレバ、碇泊スルコトヲ得

安平港ノ景況

臺南府城ノ守備

ス、其間ハ短艇ヲ以テ貨物ヲ運搬シ、西南風ノ起ルトキハ、爲メニ船舳激搖シテ、貨物ノ運搬ヲ妨ゲラル、蓋シ是レ本港ノ貿易、未ダ隆盛ヲ致スコト能ハザルノ一原因タリ、然レトモ本港ヨリ府城ニ至ルノ間ハ、運河ニ由テ貨物ヲ運搬スルノ便アリ、
守備ハ、府城ノ内外ニ營兵ヲ設ケ、凡ソ陸兵七營ト、水兵一營トヲ駐屯セシメ、以テ不虞ニ備フ、且ツ本府ニ司令本部ヲ置キ、以テ各要地ノ守兵ヲ總統セシム、
教育ハ、全島中本府ヲ以テ最モ旺盛トス、學校ハ府ニ二十有三、安平ニ二十七アリ、大學院ノ如キハ、數千ノ生徒ヲ薰陶ス、然レトモ學制未タ其緒ニ就カスシテ、自由教育ニ放任シ、教授教諭ヲ置テ、教育ノ任ニ當ラシムルモ、其以テ教科

臺南府内ノ教育

臺南府市ノ税額

鳳山城ノ創建

鳳山城

書トスルモノハ、經書歴史等ニ止マリ、專ラ古代學ヲ講習セシメ、未タ文明ノ教育ニ由ラス、且ツ學齡兒ヲ誘導シテ、就學セシムルニ努メサルカ故ニ、智識ノ發達、遲鈍ヲ免レズ、今ヨリ學制ヲ一定シ、文明ノ教育ヲ施スニ注意スルハ、甚タ必要ナリ、
租税ノ租税ハ即チ安平縣ノ管理ニ合算シ、現今ノ税額ハ、粟五萬九百九十一石、雜税銀二千三百三十六兩、倉穀一萬七千五百五十五石、養廉銀一千二百兩トス、
鳳山ハ南部ノ一都市ニシテ、臺南府ヲ距ル、支那程九十里ノ正南方ニ位シ、北緯二十二度五分、東經百二十一度二十五分ニ在リ、城郭ノ結構甚タ大ナラザルモ、市街ハ方形ヲ成シ、大廈巨屋亦少カラズ、本城ハ清曆康熙六十一年ノ

鳳山縣ノ税類

創建ニシテ、漸次ニ増築シ、周圍ニハ墻壁ヲ繞ラシテ、官署寺院及ビ豪民ノ家宅、皆其中ニ在リ、南部ノ人民ハ、此市ニ來テ需要品ノ購買ヲ爲シ、商業自ラ盛ナリ、城内ニ學校十七ヲ設ケテ、教育ヲ施シ、住民ノ風俗、亦淳厚ナリ、鳳山ノ縣治ニ屬スル地方ハ、農業ヲ專ラニシ、住民能ク勉ルヲ以テ、田野大ニ開ケ、物産隨テ豊カナリ、其徵稅額ハ、粟四萬三千七百四十八石、雜稅銀一千七百十兩、倉穀七千一百四十石、養廉銀八百兩トス、

打狗港

打狗 本島四港中ノ一ニシテ、南部ノ互市場タリ、本港ハ安平港ノ南ヲ距ル、二十四哩ニシテ、臺灣島南部ノ西海岸ニ位シ、北緯二十二度四十分、東經百二十一度三十五分ニ在リ、本港ハ今ヲ距ル、僅ニ三十年前ノ開始ニ係リ、船舶

打狗港ノ位置

ノ來往少カラザルモ、其通商ハ常ニ安平港ト消長シ、安平港漸ク盛ンナルニ隨ヒ、本港ハ自ラ衰色ヲ呈スルニ至レリ、且ツ本港ハ南部中ノ良港ニ屬スルモ、港口狹隘ニシテ、南岸ニハ高嶺屹立シ、北岸ハ斷岸屏列シ、其間ニハ一大暗礁アリテ、水面ニ突出シ、之カ爲メ潮流激シテ、舟路穩カナ



打狗港灣ノ景况

ラズ、礁ノ兩側ハ、海水深キモ、以テ大船ヲ容ル、ニ足ラズ、纜カニ小汽船ト短舟ヲ往來セシムルニ過ギズ、故ニ貨物ノ運搬ニ便ナラズ、暗礁ヲ過テ港内ニ入レバ、稍ヤ廣シト雖モ、岸邊ニ近クニ隨ヒ、水底漸ク淺ク、里餘ノ沙田ヲ爲シテ、舟行ヲ妨碍ス、蓋シ是レ本港貿易ノ隆盛ヲ致スコト能ハザルノ一原因タリ、然レドモ本港附近ハ、土地肥沃ニシテ、耕作ニ適シ、多額ノ甘蔗ヲ産出シテ、砂糖ノ製造甚ダ盛シナリ、故ニ砂糖ノ市場ヲ開クトキニ際シテハ、商船輻輳シ、一時熱鬧ヲ致スモ、其市ヲ閉レバ市場寂莫タリ、近年此地方ニ石炭及ビ石腦油ノ産地ヲ發見シタルモ、其採掘未ダ盛シナラズシテ、僅ニ少額ノ輸出ヲ試ムルモノアルニ過ギズ、

打狗港ノ貿易

打狗港ノ市街

打狗港ノ人口及ヒ生業

市街ハ、港南ノ低地ニ在リ、市内ハ未ダ整頓ニ就カズシテ、矮屋低舍ノ連ナルヲ看ルニ過ギズ、獨リ外商ノ居留地ニハ、建築ノ稍ヤ大ナルモノアルモ、近年其住居ヲ撤シテ、安平ニ移轉スルモノ多ク、轉々市場ノ寂寥ヲ致スニ至レリ、港北岸ノ山嶺ヨリ、低地ニ至ルノ間、及ビ港口ニ突出セル巖角ニ、四箇ノ砲臺ヲ築キ、以テ不虞ニ備フ、本港沿岸ハ、概シテ斷岸屏立シ、突兀タル重巒、其間ニ聳立シテ、天險ノ地タリ、市街ハ宛カモ天爲ノ堅城ニ包裹セララル、ノ形狀ヲ呈シ、守ルニ易ク攻ルニ難キノ地タルモ、清曆光緒九年、清佛釁ヲ啓クニ際シ、本港モ亦一時佛軍ノ封鎖スル所ト爲レリ、

本港ハ、人口一萬餘ヲ有スルモ、其過半ハ漁獵ヲ業トシ、其

澎湖城

澎湖灣

餘ハ農商ノ二業ニシテ、貿易ヲ專ラニスルモノハ、概シテ砂糖商ニ屬シ、工業ニ至テハ、萎靡トシテ振ハズ、而シテ本港ノ輸出入額ハ、亦少額ニアラズトスルモ、從來之ヲ安平港ノ輸出入額ニ合算スルヲ以テ詳カナラズ、澎湖城ハ澎湖列島ノ首市ニシテ、媽宮市ト曰フ、周圍ニ墻壁ヲ繞ラシテ、市街ハ其中ニ包裹セラレ、亦是レ一ノ城郭タリ、市街ハ港灣ニ臨ンデ基礎ヲ起コシ、縱横ニ區劃ス、港灣ハ之ヲ南北ニ區別シ、北ニ在ルモノヲ業哥灣ト曰ヒ、南ニ在ルモノヲ圓頂灣ト曰フ、此列島ハ二十餘ノ島嶼ヨリ成立シ、臺南府ヲ距ル、水路二百清里ノ西南ニ位置ス、澎湖本島ノ西ニ漁翁島アリ、北ニ白沙島アリ、相抱ヘテ一大灣ヲ形成ス、之ヲ總稱シテ澎湖灣ト曰フ、其西南端ト北端

馬公港
馬公城

トノ間ニ、二箇ノ支灣アリ、南ニ在ルモノヲ馬公灣ト曰ヒ、北ニ在ルモノヲ大倉灣ト曰フ、而シテ是等ノ港灣ハ、水底甚ダ深フシテ、皆能ク船舶ヲ碇泊セシムルニ足ル、此レ臺灣島ヲ略セントスルモノハ、皆先ヅ澎湖島ニ據テ、立脚地ト爲ス所以ナリ、往昔鄭成功ノ臺灣島ヲ略スルヤ、先ツ澎湖島ニ據テ、潮候ヲ待テ、佛軍モ亦曾テ本島ニ據リ、我師ノ臺灣ヲ略セントスルヤ、亦之ニ據レリ、馬公港ハ、臺灣附近ノ良港ニ屬シ、澎湖島中ノ一市場トス、港ノ北岸ニ小城郭アリ、馬公城ト曰フ、周圍ニ堅牢ノ墻壁ヲ繞ラシ、廣袤ハ約ソ半哩許ニシテ、市街ハ其中ニ在リ、元是レ島嶼ノ一僻市ニシテ、觀ルニ足ルモノナシト雖モ、澎湖本島ノ物産ハ、此港ヨリ輸出スルモノ多ク、商業モ亦稍ヤ盛シナリ、然レドモ市内住民ノ過半ハ、漁獵ヲ業トス、

澎湖列島ノ守備

守備ハ、圓頂灣、馬公港及ビ漁翁島ニ、數箇ノ砲臺ヲ築キ、以テ不虞ニ備フ、然レドモ以テ纜カニ海寇ノ來襲ヲ防クニ足ルノミ、若シ一朝事アラバ據テ以テ守ルニ足ラズ、

嘉義城

嘉義城ノ位置

嘉義城ノ創建

嘉義ハ臺灣島ノ西岸、首府ヲ距ル百十七清里ノ北ニ位シ、北緯二十三度三十分、東經百二十一度三十五分ニ在リ、清曆康熙四十三年、本柵ヲ創建シテ、城形ヲ成スモノニ係ル、昔日ハ諸羅ト稱シ、後ニ至リ嘉義ト改稱ス、即チ縣廳ノ在ル處ナリ、今ハ周圍ニ丈餘ノ墻壁ヲ繞ラシテ城郭ヲ爲シ、市街ハ長方形ヲ爲シテ、稍ヤ觀ルニ足ルノ建築アリ、此地ハ冬港ニ接近シ、海運ノ便アルヲ以テ、其物産ハ冬港ヨリ船舶ニ搭載シ、水路ヨリ安平港ニ運搬シテ、之ヲ海外ニ輸出ス、故ニ市街ハ甚ダ大ナラザルモ、商業盛シナラザル

嘉義市街ノ風俗

嘉義縣ノ稅額

臺南ノ勝景

臺南府ノ八景

ニアラズ、地モ亦沃野ニシテ、多額ノ米穀ヲ產出シ、亦是レ臺灣屈指ノ市場タリ、
住民ノ風俗ハ、淳朴ニシテ浮薄ナラズ、教育モ亦十七箇ノ學校ヲ設ケテ、兒童ヲ養成ス、住民ノ生業ハ、概シテ農業ヲ專ラトシ、商工ノ業ヲ營ムモノハ甚ダ少シ、一歲ノ稅額ハ、粟四萬七千六百八十六石、雜稅銀二千百四十六兩、倉穀一萬五千零四十二石、養廉銀八百兩トス、
〔勝景〕臺灣地方ハ頗ル勝景ニ富ミ、臺南府、安平縣、鳳山縣、嘉義縣及ビ臺灣府彰化縣ニ各々八景アリテ賞セララル、コト左ノ如シ、
臺南府ハ古ノ荒服地ニシテ、南北ノ曲ニ位シ、大海ノ中ニ處シ、東南ニ坐シテ南面シ、風景頗ル佳絶ニシテ、鹿耳ノ春

安平縣ノ八景

潮、東溟ノ煖日、澄臺ノ觀海、雞籠ノ積雪、西嵌ノ落霞、斐亭ノ聽濤、五層ノ秀塔、四合ノ仙梁ノ八景アリ

安平縣ハ東ハ層巒ニ倚リ、西ハ巨浸ニ迫リ、木岡山ハ高ク聳エ、特拔セル羅漢門ハ、局勢弘敞、外ニ大海ヲ環ラシ、雲漲リ霞平カ、内ハ重山ニ阻アラレ、沙ハ迷ヒ霧ハ列シ、東南ノ奥ヲ極メ、鳳、嘉ノ中ニ扼シ、南粵ヲ控エ、銅山ヲ阻テ、八景アリ、木岡ノ挺秀、鹿耳ノ聽潮、赤嵌ノ觀海、蓮湖ノ飄香、龍潭ノ夜月、金雞ノ曉霞、安平ノ晚渡、沙鯤ノ漁火、是レナリ

鳳山縣ノ八景

鳳山縣ハ故鎮ニ扯因シ、海邊ニ僻處シ、葱鬱弘開、離奇盤結、大岡小岡ハ、嶢峴崔嵬、半ハ崩レ半ハ屏ス、寥窅タル崑崙ハ、沙島ニ磯聳シ、傀儡ノ高峯ハ、近ク天際ニ接シ、琉球ノ孤嶼ハ、遠ク海中ニ映ス、鳳岬ノ春雨、洋水ノ荷香、翠屏ノ夕照、娜

嘉義縣ノ八景

嬌ノ潮聲、岡山ノ樹色、丹渡ノ晴帆、淡溪ノ秋月、球嶼ノ曉霞、之ヲ八景トス

嘉義縣ハ、全臺ノ鎖鑰ニシテ、徑道蜿蜒、南ハ新港ヨリ、北ハ虎尾ニ至ルマデ、皆疊岫參差トシテ、連崗撼憂ス、玉山ハ翠ヲ青霄ニ挿シ、大武ハ隴深フシテ、遽海ニ入ル、其龍嵒ノ廻環スルモノ、紀極スベカラズ、其浩潮ノ奔流スルモノ、朝宗セザルナシ、千里ノ雄圖、上遐ノ要地タリ、玉山ノ雲淨、樣圃ノ風清、北香ノ秋齊、風沙ノ浮嶼、梅坑ノ月霽、龍目ノ甘泉、月嶺ノ曉翠、半溪ノ晚嵐、以テ八景トス

彰化縣ノ八景

彰化縣ハ、疊嶂屏ノ如ク、連峯漢ニ挿ス、山ニハ大猷アリ、姑婆ノ奇溪ニハ虎尾アリ、大甲ノ險、近防ノ三林、鹿仔ハ遠ク淡水雞籠ヲ控エ、圭心ノ石門、蓬山ノ後壠、重洋砥柱、浪ヲ攪

ミ潮ヲ搏ツ、一片ノ平沙ハ皆沃土、諸峯ハ黛蛾ヲ攢集シ、洵ニ要險ヲ扼スルノ區トス、其八景ハ、燄峯ノ朝霞、鎮亭ノ晴雲、虎溪ノ春濤、鹿港ノ夕照、線社ノ煙雨、海豐ノ漁火、眉潭ノ秋月、肚山ノ樵歌トス、

二、臺灣誌

臺灣府
位置

〔位置〕 臺灣府ハ臺灣島中部ノ地ヲ管治シ、即チ臺灣縣ヨリ、苗栗縣ヲ經テ、臺北府ノ新竹縣界ニ至ル一帯ノ地、之ニ隸屬ス、其管轄區域ハ、北緯二十三度四十分ヨリ、二十四度四十分ニ亘リ、東經百二十一度十分ヨリ、百二十一度五十九分ニ至ル、

臺灣府管地ノ
廣袤

〔廣袤〕 臺灣府ノ管轄ハ、甚ダ廣カラズト雖モ、其延長ハ北ハ臺北府ノ新竹縣ニ境シ、南ハ臺南府ノ嘉義縣ニ界シ東

臺灣府管内ノ
人口

ハ他那山脈ヲ背ニシテ蕃地ニ接シ、西ハ斜メニ海岸ヲ有シテ海峽ニ面シ、本島中部ノ地ハ、總テ臺灣府ニ屬ス、故ニ其幅員ハ甚ダ廣ク、彰化縣ノ管地ノ如キハ幅員三四十哩ニ達シ、其最モ狹隘ナル處ト雖モ、二三十哩ニ下ラズ

臺灣府ノ行政
區劃

〔人口〕 臺灣府ハ、其設置日猶ホ淺キヲ以テ、其人口未ダ詳カナラズトスルモ、管内中最モ多數ノ人口ヲ有スルモノハ彰化縣ニシテ、無慮十萬ヲ有シ、雲林、苗栗ノ二縣及ビ埔里社廳等ノ人口ヲ合スレバ、蓋シ二十萬ニ下ラザルベシ、

臺灣縣

臺灣縣

管轄ノ區域ヲ概示スレバ、左ノ如シ、

彰化縣

南ハ嘉義縣ト境シ、北ハ新竹縣ニ隣シ、西ハ彰化縣ニ接シテ、東ハ蕃地ノ苗栗縣ト界ス、首府ニ至ルノ里程ハ未ダ詳カナラズ

此縣ニ屬スル保里庄ハ、未ダ詳カナラザルモ、八斗門、寶斗仔、三塊厝、不知春庄、法華、江和里、水窟等ヲ以テ、其最モ大ナルモノトス、隸屬ノ蕃社ニ至テハ、又未ダ詳カナラズ

彰化縣

東、南北投大山ニ至ル二十里

西、海ニ至ル二十里

南、虎尾溪(嘉義縣界)ニ至ル五十里

北、臺北ノ新竹縣界ニ至ル二百三十里

東西ノ廣サ四十里南北ノ袤二百四十里

雲林縣

苗栗縣

首府ヲ距ル二百里

管内ノ保庄ハ十保、百十庄

隸屬ノ土蕃ハ熟蕃十一社、生蕃二十四社、又内山熟蕃二社、邊海熟蕃六社

雲林縣

西ハ嘉義縣ニ境シ、東ハ蕃地ニ界シ、南ハ恒春縣ニ隣ス、其地山間ニ僻在シテ、廣袤等、未ダ詳カナラズ、

苗栗縣

東ハ蕃地ニ接シ、西ハ臺灣縣ニ境シ、南ハ臺東州ニ界シテ、北ハ臺北府ニ隣ス、其廣袤等ハ未ダ詳カナラズ、

埔里社廳

臺東ノ西部ニ位シ雲林苗栗ノ二縣ニ境シ蕃地ニ在リ

臺灣府管内ノ
海岸

〔海岸〕臺灣府ノ海岸ハ、南ヨリ北ニ走リテ、傾斜形ヲ爲シ、其沿岸屈折スル處甚ダ多ク、隨テ港灣ヲ爲スモノ亦少カラズ、乃チ、土亞摸岬ヲ起點トシテ、其以南ニ三港アリ、其一チ恩太港ト稱シ、伯塞珍河口ニ在リ、其一チ鹿仔港ト稱シ、哥爾泰河唇ニ位シ、燕幕里ニ在リ、其一チ猴樹港ト曰フ、共ニ彰化縣ニ屬ス、土亞摸岬ヨリ以北、新岬ニ至ルノ邊岸ハ、北ニ最モ傾斜シテ、小屈曲ヲ爲シ、尖角ヲ爲ス處甚ダ多シ、故ニ澳灣ヲ爲スモノ、此近岸ニ向テ最モ多シ、其名アルモノチ舉レハ、雙廉港、後瓏港、大洋溪港等トス、雙廉港ハ巴西土河口ニ位シ、後瓏港ハ、加撒土以河唇ニ在リ、大洋溪港ハ典河ノ注入スル處ニ位シテ、倒マニ三角形ヲ爲セリ、土亞摸岬以北ノ近岸ハ、宛然鋸齒形ヲ爲スヲ以テ、小澳ヲ爲ス

臺灣府所管ノ
港灣

臺灣府管内ノ
山脈

モノ枚舉ニ遑マアラス、其稍ヤ大ナルモノハ、八里岳澳、鹹土澳、巴禮亞澳、巴士澳等トス、八里岳澳ハ、一彎形ヲ爲シテ、其北端チ新岬トス、鹹土澳ハ、巴西土河ノ支流ヲ入ル、處ニ位シ、巴禮亞澳ハ、後瓏港ノ南ニ位シ、其澳角ノ突出スルモノチ刺哥岬ト曰フ、此澳ノ南ニ又小灣アリ、那里亞灣ト曰フ、巴士澳ハ、土亞摸岬ノ尖角ヲ下ル處ニ在リ、而シテ是等ノ港灣ハ、纜カニ以テ小船ヲ入ル、ニ足ルノミ、大船ヲ碇泊セシムルニ足ルモノハ、一モ存セス、

〔山脈〕臺灣府ノ管地ハ、他那山脈ノ腹部ヲ以テ蕃地ト經界ヲ劃シ、其東部ハ、總テ山地ヲ以テ充タシ、北部ニ至テ他那山脈ノ二支脈分レテ、西ニ駛走シ、海岸ニ至ルニ隨テ、漸ク平原ヲ爲スモ、東北部ハ概シテ高地ニ屬ス、故ニ高山甚

臺灣府管内ノ高山

タ少カラズシテ、其最モ名アルモノハ、分水峯（一萬零五百呎）大鳥山（二萬零四百呎）内鳥山（二萬零二百八十呎）香仔湖山（五千二百呎）等トス、

臺灣府管内ノ山名

今臺灣、彰化、雲林、苗栗ノ四縣管内ニ於ケル、著名ノ高山ヲ列舉スレバ左ノ如シ、
大武郡山、牛相觸山、南北投山、阿拔泉山、竹脚寮山、筊老山、大吼山、九十九尖峯、水沙連山、挨仔籬山、寮望山、大肚山、沙轆山、牛罵山、蓬山、銀錠山、宛里山、南日山、倒旗山、南山、小鳳山、南嵌山、大平山、加至閣山、荖衢山、陣仔叭山、交眉山、眩々山、小龜崙山、雄武乃山、合歡山、查内山、小雞籠鼻頭山、大脈山、礦山、八里岔山、山朝山等アリ、又彰化縣ニ屬スル鳥山ニハ獅球嶼、桶盤嶼、雞心嶼、石川旗杆嶼等アリ、

臺灣府管内ノ河流

〔河流〕 臺灣府ノ管地ハ、山地少カラズトスルモ、西部ハ概シテ平原ニ屬スルヲ以テ、水源ニ乏シク、隨テ大流ヲ爲スモノナシ、今其稍ヤ名アルモノヲ舉レバ、東螺溪、大肚溪、大甲溪、蓬山溪、大安溪、香霄溪、後瓏溪、中港溪、眩々溪、鳳山溪、大溪、磺溪、山朝溪等トス、而シテ是等ノ河流ハ、水甚ダ淺フシテ、舟楫ヲ通ズルモノハ甚ダ少シ、

臺灣府管内ノ平原

〔平原〕 臺灣全島ノ平原ハ、臺灣府ヲ以テ其最モ多キヲ占ルノ地トス、背部ハ、他那山脈連亘シテ、一帯ノ高地ヲ爲スモ、西南部ハ總テ平原ニ屬シ、海岸ニ近クニ隨ヒ、漸ク低地ト爲リ、耕耘ニ適スル沃野甚ダ多ク、其延袤無處三十哩ニ下ラザル處アリ、然レモ臺灣、彰化ノ二縣ヲ除クノ外、未ダ耕耘ヲ試ミザルノ地、少カラズト爲ス、

臺灣府管内ノ地勢

〔地勢〕 臺灣府ノ管地ハ、本島ノ腹部ニ屬スルヲ以テ、南北ニ延長シ、東西ニ狹隘ナリトスルモ、山地ニ屬スル地ハ、他那山脈ニ接近スル部分ニ止リ、管内ノ大部分ハ、平原ト低地ヲ以テ充タセリ、

臺灣府管内ノ氣候

〔氣候〕 氣候ハ溫熱ニシテ、臺南ト其ノ溫度ヲ同フシ、夏季ニ至レバ、百度以上ヲ昇降スルモ、背部ニ山脈ノ連亘アルヲ以テ、樹林繁茂シ、空氣爽快ニシテ、且ツ氣候ノ激變少ク、人ノ健康ヲ害スルニ至ラズ

臺灣府管内ノ風俗

〔風俗〕 臺灣府ノ管内ニ住スル人民ハ、概シテ農業ヲ專ラトシ、臺灣、彰化ノ二縣ハ、最モ耕耘ニ勤メ、人民ニシテ耒耜ヲ把ラザル者ハ、甚ダ罕レナリ、故ニ一般ノ風俗淳朴ニシテ、其生活モ亦我内地ノ農家ト、稍ヤ相似タリ、然レモ此地

臺灣府管内ノ物産

方ハ、首府及ビ開港場ヲ距ル甚ダ遠キヲ以テ、交通ノ便ヲ得ス、隨テ其風俗モ亦自ラ進化ニ遲々タルノ傾向ヲ免レズ、
〔物産〕 臺灣府ノ管内ハ、農業者ヲ以テ充タシ、耕耘最モ盛シナルヲ以テ、多量ノ穀類ヲ産出シ、甘蔗ノ培養モ、亦幾シト臺南ニ亞クヘキモノトス、其他ノ物産モ亦甚ダ多ク、亦是レ豐饒ノ地ニ屬ス、而シテ其種類ニ至テハ、臺南ノ産物ニ異ナラズ、

臺灣府管内ノ都市

〔都市〕 都市ハ、臺灣府城ト彰化縣市トヲ除クノ外、舉テ記スベキモノナシ、其他ハ概シテ新設ノ小市ニ係リ、僅ニ日用品ノ賣買ヲ爲スニ過ギズ、

臺灣府城

臺灣府 北緯二十四度十分ト、東經百二十一度十五分トノ間ニ位シ、臺南臺北二府ノ管地ヲ割テ、新設スルモノ

ニ係リ、住民ノ數未ダ甚ダ多カラズトスルモ、亦一城郭ヲ爲シテ周圍ニ女牆ヲ繞ラシ、官署及ヒ市街ハ、皆城内ニ在リ、其建築ハ甚ダ闊大ナラザルモ、河岸ニ沿フテ之ヲ築キ、風景甚ダ美ナリ、

彰化縣城

彰化城ノ位置

彰化ハ臺灣島中部ノ一都市ニシテ、首府ヲ距ル二百清里ノ北ニ位シ、北緯二十二度五十分、東經百二十一度三十分、哥爾米河ノ南岸ニ在リ、此都市ハ、清曆雍正十二年ノ始設ニ係リ、其規模甚ダ大ナラザルモ、亦一ノ城郭ヲ爲シ、住民モ亦少カラズ、

彰化市街ノ風俗生業

住民ノ風俗ハ淳朴ナリトスルモ、未ダ陋習ヲ免レス、此地ハ首府ヲ距ルコト遠ク、蕃地ニ稍ヤ接近スルヲ以テ、多少風俗ヲ異ニスル所アリ、然レドモ周圍ハ沃土ニシテ、物産

彰化縣ノ税額

豐饒、住民亦能ク其業ニ努メ、隨テ市場ノ繁盛アリ、貨物ハ河流ニ由テ運送スルノ便アリ、一歲ノ税額ハ、粟四萬二千四百九十二石、雜税銀一千百十九兩、倉穀二千八百十五石、養廉銀ハ未ダ詳カナラズ、此市ニモ亦學校ノ設ケアリテ、教育ヲ布施ス、

三、臺北誌

臺北ノ位置

〔位置〕臺北ハ、臺灣島北部ノ總稱ニシテ臺北府ノ管轄ニ屬ス、即チ新竹縣ヨリ雞籠廳ヲ經テ、宜蘭縣ニ至ル一帯ノ地ヲ以テ、其管轄區劃トス、北緯ハ二十四度四十分ヨリ、二十五度五十分ニ亘リ、東經ハ百十九度五十分ヨリ、百二十一度三十分ニ至ル、

臺北ノ廣袤

〔廣袤〕臺北府ノ管轄ハ、臺南ヨリ稍ヤ狹シトスルモ、其延

長ハ、新竹縣ヨリ北ニ走リ、本島北端ノ雞籠港ヲ廻リテ、南ニ駛セ、本島東部ノ蘇澳灣ニ達シ、此ニ至テ蕃地ト境ヲ接ス、即チ本島ノ肩部ヨリ、頭部ノ全面ヲ包括スルヲ以テ、東岸ヨリ西岸ニ亘リ、其地勢ハ伊那山脈ノ起點ヲ脊骨トシテ、其左右ニ延長ス、故ニ臺北ハ、東北西ノ三面ニ海岸ヲ有シ、其形ハ宛カモ魚頭ヲ横臥セシメタルガ如ク、其幅員最モ廣闊ナル處ハ、六七十哩ニ達シ、其最モ狹隘ナル處ハ、二三哩ニ過ギズ、

臺北ノ人口

〔人口〕人口ハ、未タ實際ノ調査ヲ經ザレバ、又未タ詳カナラズトスルモ、淡水ニハ約ソ十萬ヲ有シ、雞籠ニハ七萬アリ、之ヲ以テ全管内ノ人口ヲ推算シ、熟蕃人口ヲ合スレバ、無慮五十萬ニ下ラザルベシ、

臺北ノ區劃

〔區劃〕臺北府治ハ、之ヲ四縣ニ分割シテ管治セシム、淡水縣、雞籠廳、新竹縣、宜蘭縣是レナリ、今其管轄ノ區域ヲ概示スレバ、左ノ如シ、

縣名及ヒ管地

淡水縣

南ハ新竹縣ト境シ、北ハ雞籠廳ニ隣シ、東ハ山脈ヲ隔テ、蕃地ニ接シ、西ハ福建海峽ニ面ス、

此縣ニ屬スル保、里、庄ハ、三保、三十五庄、土蕃ハ熟蕃九社、生蕃四十餘社

雞籠廳

南ハ淡水縣ニ境シ、北ハ一帶ノ海面ニ臨ミ、北南ハ蘇澳灣南ヲ境トシテ、蕃地ニ接近ス、

此縣ニ屬スル里、庄亦少カラズ、土蕃ニ至リテハ、熟生

二社ヲ合セテ、無慮三十餘社アルモ、未ダ詳ラカナラズ、

新竹縣

南ハ臺灣府ノ管地ト境ヲ接シ、北ハ淡水縣ニ隣シ、東ハ他那山脈ヲ隔テ、蕃地ニ界シ、西ハ福建海峽ニ濱ス、

宜蘭縣

北ハ雞籠廳ノ管地ト隣シテ、南ハ蕃地ニ接シ、東ハ大平洋ニ面シ、西ハ他那山脈ヲ隔テ、遙ニ新竹縣ト界ス、

(新竹、宜蘭ノ二縣ハ、近設ニ係リ、其管轄ノ延袤、隸屬ノ里庄等、未ダ詳カナラズ)

臺北ノ海岸線

臺北管内ノ諸港灣

〔海岸〕 臺北ハ、中央ニ他那山脈ヲ挾ミ、東北南ノ三面ハ海ニ臨ミ、亞加岬及ビ燭臺岬ヲ中心トシテ、左右ニ傾斜的ノ海岸ヲ有ス、而シテ燭臺岬ヨリ、淡水港ニ至ルノ間ハ、邊岸屈曲シテ、凹凸形ヲ爲シ、港灣ヲ爲スモノ甚ダ多シ、其最モ大ナルモノヲ淡水灣トス、淡水灣ハ、本島第二ノ大灣ニシテ、即チ臺灣大灣ニ亞クモノトス、此大灣ハ、淡水港ヲ中心トシテ南北ノ西岸ニ、數箇ノ小港灣ヲ有ス、其稍ヤ名アルモノヲ舉レバ、西南岸ニ螻殼、阿禮亞ノ二港アリ、螻殼港ハ、塞爾河口ニ位シ、又其北ニ八里諸澳アリ、此澳ノ北角ヲ新岬トス、阿禮亞港ハ、螻殼港ヲ距ル數里ノ北ニ在リ、北岸ニハ滬尾、堡爾ノ二澳アリ、滬尾澳ハ、滬尾河ノ口唇ニ屬シ、堡爾澳ハ、堡爾河ノ注入スル處トス、淡水灣口ノ北端、撒刺岬

ヲ廻リテ一灣アリ、刺弗灣ト曰フ、此灣ヨリ以北ニ、峨土、土摸、撒利入江等ノ小港アリ、土摸港ハ、土摸河ノ海ニ入ル處ニ位シ、撒利入江港ハ、刺巴岬ノ南ニ在リ、臺北ノ東岸ニ至テ、又著名ノ大港アリ、之ヲ雞籠港トス、淡水ニ次クノ良港ナリ、然レモ本島ノ最北端、亞加岬ヨリ葉港ニ至レル其間ハ、斷岸屏立シ、潮流急激ニシテ、一雞籠港ヲ除クノ外、一ノ港灣ナシ、本島ノ東岸即チ那利河ノ注入スル處ニ三港アリ、一チ新港ト曰ヒ、一チ觀港ト曰ヒ、他ノ一ハ即チ葉港トス、新港以南ハ、斷岸屈折シ、三谿鼻地名附近ニ至テ小港アルモ、以テ船舶ヲ碇泊セシムルニ足ラズ、三谿鼻頭ヲ廻リ、南走シテ巴摸亞河口ニ至テ、小港ヲ爲スモノヲ龜山沙佛口ト曰フ、此邊岸ハ沙洲ニ屬シ、以テ纜ニ小舟ヲ來往セシム

臺北管内ノ山脈及ヒ山岳

ルニ過ギズ、又坦河ノ口ニ一灣アリ、坦灣ト曰フ、本島北部ノ東岸ニ在リ、而シテ坦灣以南ニ在ルモノヲ、嘉禮遠港及ビ蘇澳灣トス、此二港ハ蕃地ニ接近スルモ、臺北府東岸ノ良港ニ屬ス、之ヲ要スルニ臺北ノ海岸線ハ、甚ダ延長ナルモ、良港ニ乏シク、淡水、雞籠ノ二港ヲ除クノ外、以テ大船巨舶ヲ碇泊セシムルニ足ルモノ甚ダ少シ

〔山脈〕 臺北ノ北部ハ、他那山脈ノ起ル處ニ位シ、高峯秀嶺、參差トシテ蟠結ス、即チ他那山脈ハ、北端ノ中央ニ起リ、斜メニ二線ヲ爲シテ、西南ニ駛走シ、淡水縣ニ至テ、蜿蜒膨脹ス、淡水灣ノ東部ハ、總テ峨々タル疊峰ヲ以テ包裹セラレ、大雞籠山、耶宇峯、巴遠峰、刺希峯、大屯山、觀音山ノ如キハ、著名ノ高峯ニシテ、大雞籠山ハ、高サ四千七百十呎ニ達ス、然

レドモ他那山脈ノ支脈ヲ分派シテ、蜿蜒逶迤スルハ、淡水縣内ニ於テ最モ然リトス、雞籠縣内ハ、概シテ平原ニ屬シ其西南部ニ疊峯ノ錯秀スルヲ觀ルノミ、千呎ニ達スル高峯ハ、甚ダ少シ

淡水縣内ノ山脈ハ、其中央ニ蟠結シ、是レヨリ數線ノ支脈ヲ分派スルモ、其支脈ハ、本島東部ノ蕃地ニ向テ駛走シ、淡水海岸ニ向テ延長スル者甚ダ少ナシ、故ニ淡水縣ノ東南部ニ聳ユル高峯ニシテ、著名ナルモノハ、大屯山、觀音山等アルニ過ギズ、而シテ他那山脈ノ雞籠縣内ニ支脈ヲ分派シ、其最モ名ヲ知ラル、モノハ、珍太拿爾山脈トス、此山脈ハ他那山脈ノ稍ヤ蟠結ヲ爲シ、刺希峯ノ聳立スル處ヨリ分派シテ東駛シ、其中央ヨリ又ニ支脈ヲ起シテ、南北ニ走

臺北管内ノ河流

リ、一ハ平原ニ至テ盡キ、一ハ海岸ニ達シテ、大雞籠山ト爲ル、

臺北著名ノ河流

〔河流〕 臺北ハ山地頗ル多キモ、河流甚ダ少シトス、其最モ大ナルモノハ、東部ニ至テ數流アリ、亞利河、刺奴亞刺河、巴摸亞河、他和汾河等是レナリ、亞利河ハ、源ヲ他那山脈ニ發シ、數箇ノ小河ヲ合シテ、新葉二港ニ注入ス、亞利河ノ一水源ニ著名ノ瀑布アリ、此瀑布ヲ水源トスル一河ヲ普河ト曰フ、又沼地ヨリ源ヲ發スルモノアリ、亦是レ亞利河ニ合シテ海ニ入ル、刺奴亞刺、巴摸亞ノ二河ハ、俱ニ源ヲ沼地ニ發シ、東流シテ海ニ注ギ、他和汾河ハ、其源ヲ古印湖ニ發シテ、加禮遠港ニ入ル、此數河ハ、皆雞籠縣内ニ在リ、西部ノ海岸ニ至テハ、河流ノ大ナルモノナシ、其最モ名ア

ルモノハ淡水河トス、此河流ハ源ヲ碩山ニ發シ、西ニ流レ
テ淡水港ニ注入ス、其他名アルモノハ、土摸河、保亞爾河、刺
順河、西爾河等トス、刺順河ハ、淡水港ニ注ギ、其河口ニ又一
小港アリ、其南岸ハ巴以和岬ニシテ、此河流ハ、稍ヤ淡水河
ニ次クモノトス、

〔沼湖〕沼湖ハ臺北ニ多カラズ、籠雞縣ニ一沼アリ、刺奴亞
刺、巴摸亞、坦河等ノ源ヲ爲スモノ是レナリ、臺北東部ノ平
原中ニ在リ、湖水ハ珍太拿爾山脈蟠結スル間ニ二アリ、其
大ナルモノヲ古印湖ト曰ヒ、其小ナルモノヲ巴和湖ト曰
フ

臺北管内ノ平原

平原 臺北管内ハ山地多キモ、平原モ亦少カラズトス、即
チ他那山脈ノ起點ヲ中心トシテ、左右ノ側面ハ、廣漠タル

平原ニ屬シ、其東北ニ在ルモノハ最モ廣大ナリトス、此大
平原ハ雞籠縣内ヨリ蕃地ニ連リ、其廣袤ハ無慮數十哩ニ
下ラザルベシ、而シテ其西部ニ在ルモノモ亦甚タ廣ク、一
望濶然トシテ海ニ達シ、皆是レ雞籠縣ノ管轄ニ屬ス、
淡水地方ニモ、亦平原ナキニアラズ、然レトモ他那山脈ヲ
下リ、漸次海岸ニ近クニ及ンデ、平地ヲ爲スニ過ギズシテ、
其廣袤ハ甚タ狹隘ナリ、之ヲ概言スレバ、海ニ沿フテ一帯
ノ平原ヲ有スルニ過ギズシテ、南北ニ長ク東西ニ狹シ、只
ダ耕地ノ廣狹ニ至テハ、雞籠地方ハ、却テ淡水地方ニ如カ
ズ、淡水地方ハ、迅トニ開墾ノ業ヲ起スヲ以テ、苟クモ平原
ニ屬スル部分ハ、皆豐饒ノ沃野メラザルハナシ、之ニ反シ
テ雞籠地方ハ平原ニ富ムモ、開墾日猶淺ク、千里ノ沃野モ、

臺北ノ地勢

空シク草蕪ニ附シ、田園ヲ爲スモノハ、僅少ノ部分ナリトス、

〔地勢〕 臺北ノ地タル、魚頭形ヲ爲シテ、北ハ東海ニ突出シ、東ハ大平洋ニ濱シ、西ハ福建海峽ニ面シ、其頸部ニ當レル處ハ稍ヤ狹ク、即チ其西部ニハ淡水灣アリ、其東部ニハ加禮遠灣アリ、頸部ヨリ漸次ニ膨脹シテ、幅員廣弘シ、頭部ニ至ルニ隨ヒ、亦漸クニ縮小シテ、亞加燭臺ノ二岬ト爲ル、之ヲ要スルニ西部ノ海岸ハ、山地甚タ多キモ、東部ハ概シテ平原ニ屬ス、

臺北ノ屬島

〔屬島〕 台北ニハ屬島甚タ少ク、雞籠縣ノ東北ニ雞籠島アリ、海路ヲ隔テ、雞籠港ト對向ス、島内ニハ住民少ナカラスシテ、物産亦多ク、雞籠港ニ入ル船舶ハ、此島ヲ以テ指南

臺北ノ氣候

トス、此島ヨリ長崎ニ至ル航路、六百七十九里、福建ニ至ル百五十里、廈門ニ至ル二百十五里、上海ニ至ル二百九十六里トス、其他最北端ノ西南ニ一嶼アリ、花瓶嶼ト曰フ、又淡水灣口ノ西ニ數箇ノ沙洲アルモ、島嶼ト稱スヘキモノナシ、

雞籠島ニ次クモノハ、西樓島ニシテ、雞籠島ヲ距ル西南二里許ノ地位ニ在リ、

〔氣候〕 臺北ノ氣候ハ亦溫熱ニシテ、之ヲ臺南ニ比スレハ、其溫度少シク低シトスルモ、最高溫度ハ、夏季ニ際スレハ、華氏九十五六度ヨリ百度ノ間ヲ昇降シ、最低溫度ハ、四十六度ヲ下ラス、東部ノ平原ニ至テハ、溫度一層高シ、雨量ハ甚タ少量ニシテ、平原ノ地ハ最モ少シトス、

臺北ノ風俗

〔風俗〕 臺北ニハ、熟蕃社ノ雜居スルモノ甚タ多キヲ以テ、一般ノ風俗自ラ野鄙タルヲ免レス、住民ノ多數ハ、農業ニ従事シ、其餘ハ海邊ニ漁獵シ、若クハ炭山ニ勞役スルモノ多シ、然レトモ淡水、雞籠ノ二港ニ住スルモノハ、概シテ商業ヲ營ミ、隨テ其風俗モ亦野鄙ナラス、

〔物産〕 臺北ノ物産ハ、臺南ト其種類ヲ同フシ、植物其他ノ産出ニ乏シカラス、而シテ之ヲ臺南ニ比スレハ、最モ多額ノ産出アルモノハ、樟腦、茶及ヒ石炭トス、樟腦及ヒ茶ハ、淡水地方ヨリ多額ノ産出アリ、茶ハ高地到ル處ニ栽培シ、其産出ハ年ヲ逐フテ増加スルノ傾向アリ、樟腦ハ曾テ多額ノ産出アラシメタルモ、漸次ニ却歩シ、年々ニ減少ス、蓋シ樟樹ヲ濫伐シ、其元料ヲ減殺シタルノ結果ニ係レリ、然レ

臺北ノ物産

臺北ノ礦物

トモ深く蕃地ニ入ルニ迫ンテハ、今猶元料ニ乏シカラス、石炭ハ雞籠地方ヨリ多額ヲ産出シ、雞籠港ノ輸出品ハ、石炭ヲ以テ其大宗トス、殊ニ港内ノ炭坑ハ、歐洲機械ヲ用テ採掘スルモ、未ダ多額ヲ産出スルニ至ラス、然レトモ直ナニ之ヲ輸出スルノ便アルヲ以テ、其收益ハ甚タ多シトス、

臺北礦物ハ、石炭ニ次クニ砂金ノ産出アリ、此砂金ハ雞籠附近ノ暖々地方ヨリ産出ス、清曆光緒十七年、偶マ之ヲ發見スルモノアリ、土人醫集シテ、其採取陶冶ニ従事シ、大ニ利益ヲ得タリ、是レヨリ衆皆爭フテ之ヲ採取スルニ至レリ、今ハ廣東ノ豪商等、首唱者ト爲リ、廣ク株金ヲ募集シテ、盛ニ採取スルノ計畫アリ、砂金ノ價額ハ、臺北府ノ市場

ニ於テ、砂金一兩ヲ銀十八兩ニ交換ス、今ヨリ益ス其採取
 ナ盛大ニセハ、由テ以テ臺北ノ富ヲ増殖スルニ至ルヘシ、
 臺北礦物トシテ沙金ニ次クモノハ硫黃トシ、雞籠附近ノ
 湖谷ヨリ産出ス、從來島廳ニ於テ、其採取ヲ禁シタルヲ以
 テ、其産額ハ未タ知ルヘカラサルモ、盛ンニ之ヲ採取スル
 ニ至ラハ、亦臺北有益ノ物産トシテ、一ノ輸出品タラシム
 ルコトヲ得ヘシ、

臺北ノ礦泉

礦泉ハ、亦是レ臺北ノ一物産タリ、淡水河ノ沿岸ヨリ、多量
 ノ溫泉ヲ湧出ス、其礦質及ヒ効用ニ至テハ、未タ詳カナラ
 サルモ、病痾ニ効驗アルハ、疑ヒテ容レサルヘシ、

臺北ノ貿易

〔貿易〕貿易ハ、淡水、雞籠ノ二港ヲ以テ互市場トシ、其輸出
 品ノ主タルモノハ、淡水港ヨリハ茶及ヒ樟腦ヲ輸出シ、雞

淡水雞籠ノ輸出入

籠港ヨリハ唯一ノ石炭ヲ輸出スルニ過キス、然レトモ其
 輸出額ハ、皆多量ニシテ、利益ヲ得ルコト頗ル多シ、而シテ
 茶ハ專ラ北米合衆國ニ向テ輸出シ、樟腦ハ香港ヲ經テ歐
 洲ニ輸出シ、石炭ハ澳洲、泉州及ヒ福州等ニ向テ盛ンニ輸
 出ス、之ヲ要スルニ雞籠港ハ、支那内地トノ貿易最モ盛ン
 トシ、淡水ハ歐米トノ貿易ヲ專ラトス、此二港ニ輸入スル品
 類ハ、臺南ノ輸入品ト大差ナシ、今清曆光緒十七年ニ於ケ
 ル淡水、雞籠、二港ノ輸出入額ヲ示セハ、左ノ如シ

外國輸入	二六一、四五六、七三四
支那輸入	七七、二三六、六九八
輸出總額	四七七、六一〇、三六四
輸入總額	八一六、三〇三、七九六

淡水雞籠ノ各
國領事館

現今淡水及ヒ雞籠ニ領事ヲ派遣セル通商國ハ、左ノ如シ

吉 吉 利

日 耳 曼

和 蘭

澳地利匈牙利

西 班 牙

瑞 典 及 諾 威

北米合衆國

近港ノ航路

〔航路〕 航路ハ、世界何レノ港灣ニモ通セサル所ナシ、今淡水及ヒ雞籠ヨリ、近邇ノ諸灣ニ至ルノ里程ヲ示セハ、左ノ如シ

淡水ヨリ福州ニ至ル

海路百三十七哩

淡水ヨリ廈門ニ至ル

海路二百三哩

雞籠ヨリ上海ニ至ル

海路三百七十六哩

雞籠ヨリ福州ニ至ル

海路百五十哩

臺北ノ電線

雞籠ヨリ廈門ニ至ル

海路二百三十五哩

雞籠ヨリ長崎ニ至ル

海路六百三十七哩

〔電線〕 電線ハ、福州閩江外ノ芭蕉島ヨリ、淡水港ニ至ル海底電線アリ、此レ臺灣島ニ電線ヲ設クルノ嚆矢トス、是レヨリ漸次ニ延長シ、北ハ臺北府及ヒ雞籠港ニ至リ、南ハ彰化、嘉義等ノ諸縣ヲ經テ、臺南府ニ至リ、是レヨリ又延長シテ、鳳山、打狗ニ及ホスニ至レリ、

臺北ノ鐵道

〔鐵道〕 鐵道ハ、淡水港ヨリ雞籠港ニ至ルノ一線アリ、其線路ハ僅ニ二十餘哩ニ過キサルモ、一日三回往來シ、臺北ハ由テ以テ交通ノ便ヲ得ルコト多シ、此線路ハ漸次南部ニ延長シテ、臺南府ニ達セシムルノ計畫アリ、淡水、雞籠間ノ既設鐵道ハ、清佛交戦ノ後、專ラ軍事上ノ必要ニ迫ラレテ、

臺北ノ都市

築造シタルモノニ係リ、其線路粗造ニシテ、瀛車ノ動搖甚シク、隨テ其進行緩慢ナリ、此線路ハ要スルニ改築セサルヘカラス、

〔都市〕臺北地方ハ、其開始甚々晩キヲ以テ、都市ノ名アルモノ亦甚々少シ、其著名ナルモノハ、淡水、雞籠ノ二市ニシテ、之ニ次クモノハ西部ニ孟甲、滬尾、大稻埕等アリ、東部ニ加禮遠、蘇澳等アルニ過キス、

淡水港

淡水 ハ臺北第一ノ開港場ニシテ、臺北府淡水縣ノ管轄ニ屬シ、淡水河口ヲ溯ル、八哩許ノ右岸ニ位シ、北緯二十五度十分、東經百二十一度二十六分ニ在リ、此地ニ貿易市場ヲ開キタルハ、清曆咸豐八年ニシテ、當時ハ貿易未々盛ンナラズ、同十四年ノ調査ニ據レバ、其輸出入額ハ、五百六十

淡水ノ開始

淡水ノ市街

六萬六千四百兩ニ過ギザリシモ、漸次ニ隆盛ヲ致スニ至レリ、

市街ハ、淡水河ニ臨ンデ基礎ヲ起シ、縱横ニ店鋪ヲ列テ、商業頗ル繁昌ニシテ、人口約ソ十萬ヲ有シ、港内ノ居留地ニハ、各國ノ領事館アリ、居留スル外國人亦隨テ少カラズ、市内ノ建築ハ、甚々闊大ナラザルモ、保險會社、



淡水ノ碇泊所

瀛船會社等アリテ、家屋ハ概シテ清潔ナリ、船舶ノ碇泊所ハ、淡水河口ノ右岸トス、淡水河ハ北部著名ノ河流ニシテ、源ヲ淡水縣城ノ東北、碩山ニ發シ、其上流ハ兩岸斷崖ニシテ、崖上ニ梅樹多ク、風景頗ル美ナリ、此河流ハ北折スル處ニ至テ、巴浪河ヲ合セ、北流シテ海ニ入り、其右岸ハ即チ淡水港トス、港内ハ沙洲多キヲ以テ、船舶ノ碇泊ニ便ナラザルモ、之ヲ浚渫スルニ至ラハ、船舶ハ直ニ埠頭ニ接著シテ、繫留スルコトヲ得、隨テ益々貿易ノ隆盛ヲ致スベシ、

淡水ノ輸出品

本港ヨリ輸出スル品類ハ、茶ヲ主眼トシテ、樟腦之ニ亞ク、茶ノ輸出ハ、年々ニ増加シ、清曆同治十一年ノ輸出額ハ、僅ニ一萬九千五百十三擔ニ過ギサリシモ、光緒十四年ニハ、

淡水ノ燈臺

十三萬五千七百四十一擔ヲ輸出スルニ至リ、前途尙倍ス盛シナラントス、燈臺ハ、本港最北ノ尖角、撒刺岬ニ在リ、此岬ハ淡水灣口ノ北岸ニ突出ス、

淡水ノ風俗

風俗ハ、住民專ラ商業ニ從事シ、氣風淳厚ニシテ、富豪亦多シ、港内ニ五箇ノ學校ヲ設置シ、教育亦漸クニ行ハル、守備ハ、本港ニ八營ノ陸兵ヲ駐屯セシメ、淡水灣北岸ノ尖角、恩奴ト稱スル地、及ヒ其北岸ノ燈臺ヲ距ル遠カラザル、峨土ト名クル處ニ砲臺ヲ築設シ、以テ不虞ニ備フ、

孟甲

孟甲ハ淡水河ヲ溯ル、約ソ十三哩ニ在リ、此地ハ臺北府廳ノ在ル處ニシテ、人口約ソ四萬ヲ有シ、府城ハ方四丁許ニシテ、結構甚ダ大ナラザルモ、東西南北ノ四大門ヲ設ケ

テ、繞ラスニ墻壁ヲ以テシ、城内ニハ官署アリ、兵營アリ、北門外ニ鐵路局アリ、西門外ニ軍機局アリ、軍機局ハ、周圍ニ土壁ヲ繞ラシ内ニ工廠數棟ヲ設ケ、即チ槍子工廠、滾車工廠、火藥廠、伐木廠等アリ、又造船廠ヲ新設シ、淡水河岸ニ一ノ船渠アリ、

大稻埕

大稻埕 ハ孟甲ノ附近ニ在リ、亦一小市ヲ爲シ、臺灣各地ヨリ産出スル茶葉ハ、先ツ此地ニ輸送シテ、精製荷造ヲ爲シ、而シテ淡水港ニ轉送スルヲ常トシ、市内ハ殆ント茶商ヲ以テ充タシ、外國人ノ居留スルモノ亦少カラズ、

滬尾

滬尾 ハ淡水河ノ北岸ニ位シ、淡水港ノ沙洲ヲ距ル、約ソ一里許ノ地ニ在リ、此地ハ淡水港ノ北方ニ開カレ、同港ノ鎖鑰ニ屬ス、地勢頗ル要害ニシテ、清曆光緒十年、清佛釁ヲ

雞籠港

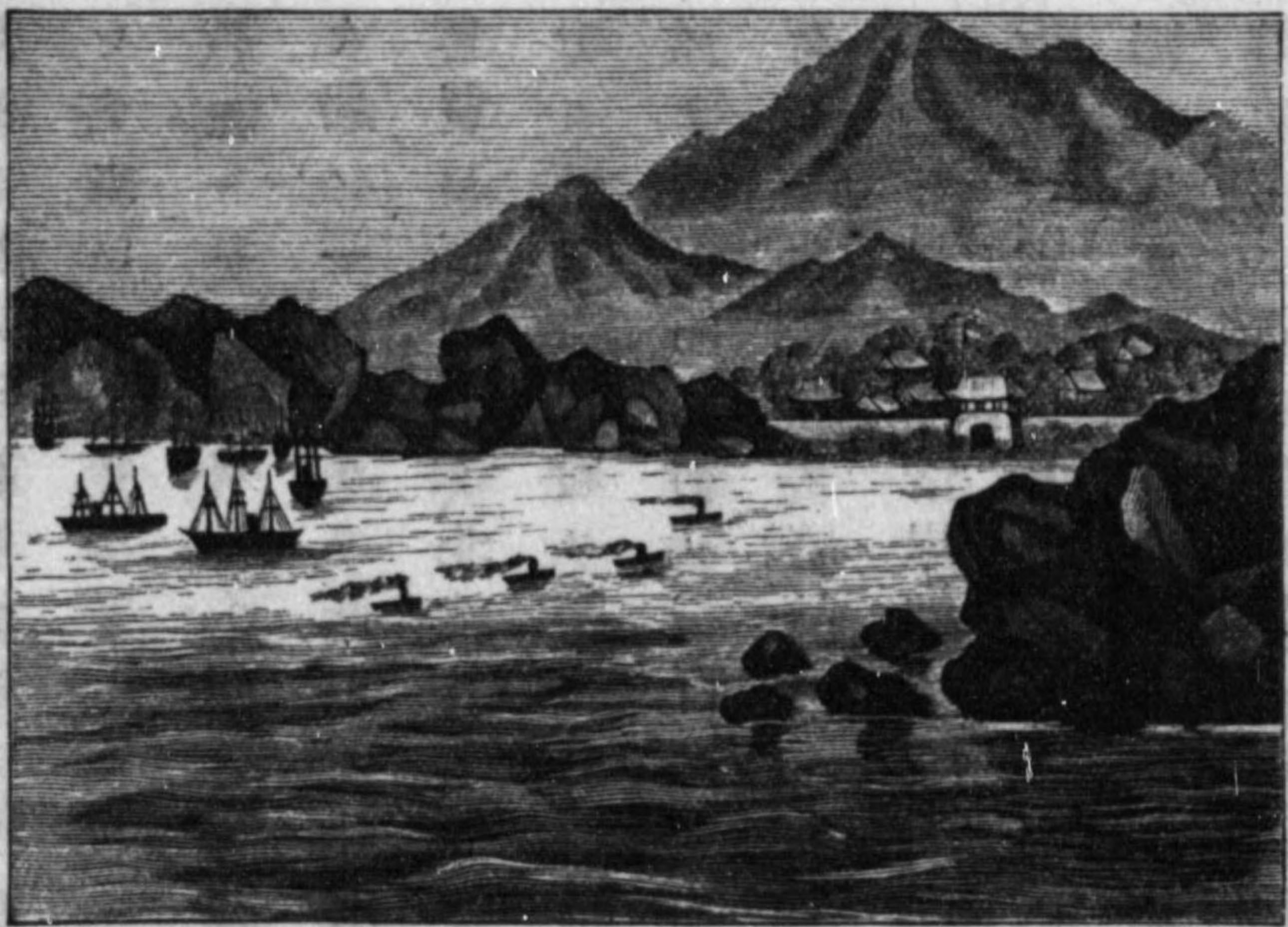
啓クニ際シ、佛軍來テ之ヲ攻撃シタルモ、竟ニ拔ク能ハズシテ去レリ、

雞籠 ハ一ニ基隆ト稱シ、雞籠縣治ノ在ル處ニシテ、臺北々端ノ一良港タリ、此地ハ清曆同治二年ノ開設ニ係リ、一ノ貿易市場タリ、北緯二十五度五分、東經百二十一度四分ニ位シ、臺南府ヲ距ル、二百七十五清里、琉球ノ八重山列島ヲ距ル、西北約ソ三百二十餘哩トス、人口ハ約ソ七萬ヲ有シ、臺北々端ノ繁昌市タリ、

雞籠ノ地勢

本港ノ地勢ハ、沿岸總テ斷崖ニ屬シ、背後ニハ重嶂疊巒ヲ環ラシ、峨々トシテ雲漢ニ聳ユ、其最モ高峻ニシテ、海濱ニ屹立スルモノハ、著名ナル大雞籠山トス、此山ハ一ニ雞籠鼻頭山ト稱ス、臺灣ノ山脈ハ、此レヨリ源ヲ發シ、凡ソ日本

雞籠ノ沿革



ヨリ往來スル船舶ハ、皆此山ヲ以テ指南トス、故ニ其名ヲ知ラル、雞籠港ハ即チ此山下ニ在リ、港内ハ廣濶ニシテ、方一海里アリ、以テ巨船大舶ヲ安全ニ碇泊セシムルニ足ル、海水モ亦清澄ニシテ、風景頗ル美ナリトス、此地往昔ハ、土蕃ノ偶マ出沒シテ、漁獵ヲ爲スノ地タルニ過キサリシモ、海外殖民ニ熱心ナル、西班牙人ニ

雞籠ノ市街

著跡セラレ、土蕃ヲ驅逐シテ、其移住スル所ト爲リ、一村落ヲ創設スルニ至レリ、後和蘭人臺灣ニ漂著シテ、安平鎮、赤嵌城ヲ臺南ニ築クニ迫ンデ、此地モ亦和蘭人ノ爲メニ占領セラレ、西班牙人ハ逐ハレテ、竟ニ此地ヲ去リ、久シク和蘭人ノ一殖民地ニ屬セリ、明ノ鄭芝龍、來テ臺灣島ヲ占領スルニ至テ、和蘭人モ亦驅逐セラレ、是レヨリ鄭氏ノ曾孫挾ニ至ルマデ、此地ハ殆ント獨立ノ形姿ヲ爲シ、克挾清ニ降ルニ迫ンデ、始メテ支那ノ版圖ニ專屬ス、港内ニハ、城郭ヲ設ケ、市街ハ其内ニ在リ、雞籠縣治ノ官署ハ、即チ此城内ニ設ケテ、三營ノ陸兵ヲ駐在セシメ、以テ本港ノ不虞ニ備フ、此地ノ開始ハ、既ニ久シト雖モ、市街ハ陋巷タルヲ免レスシテ、觀ルニ足ルヘキモノナシ、然レドモ

雞籠ノ物産

住民ハ、能ク其業ニ勉メ、風俗モ亦淳厚ナリ、物産ハ、石炭硫黄及ビ砂金ノ産出アリ、本港ノ附近ハ、炭礦ニ富ムヲ以テ、其産出ハ極メテ多額ナリ、故ニ住民ハ礦業ニ從事スルモノ甚ダ多シ、硫黄砂金ノ産額ハ、未ダ多カラザルモ、硫黄ノ如キハ、從來其採取ヲ許サマリシヲ以テ、空シク天産ヲ埋没セシメタリ、今ヨリ其採取ヲ計畫セハ、數年ナラズシテ、多額ヲ産出スルニ至ルベシ、

雞籠ノ貿易

貿易ハ、澳州、泉州及ビ福州等ト專ラ之ヲ行ヒ、外國ニ對スル輸出品トシテハ、唯一ノ石炭アルニ過ギズ、故ニ其貿易ハ、未ダ盛大ナラシムルニ至ラズ、

雞籠ノ教育

教育ハ、港内ニ數校ノ設ケアリテ、迅トニ薰陶ヲ施スモ、僅ニ舊式ノ學科ヲ講習セシムルニ過ギザレバ、萎靡トシテ

加禮遠港

振ハズ、

加禮遠ハ雞籠ヲ距ル、南約ソ四十哩ノ地ニ在リ、此地ハ蘭嗎嘯、加阿、哈那等ノ村落ヲ爲ス處ニシテ、加禮遠港ハ、普摸河ノ亞尼河ヲ合セテ、注入スル處ニ在リ、其市街ハ微々タルモノニ過ギザルモ、土人ハ此港ニ於テ、物品ヲ交換シ、亦臺北府南部ノ一都市タリ、

蘇澳灣

蘇澳灣ハ亦臺北府南部ノ一港ニシテ、後來ノ望ミヲ屬スベキノ良港タリ、市街ハ蘇澳ト蘭屯ノ二ニ區劃シ、蘇澳灣ノ北岸ニ在リ、蘇澳灣ハ一大灣ニシテ、灣内ニ二小灣ヲ有ス、其南ニ在ルモノヲ蘭匭保ト曰ヒ、北東ニ在ルモノヲ巴哥匭保ト曰フ、蘇澳村ハ灣内ノ西岸ニ在リ、此地ハ蕃地ト境ヲ接シ、未ダ開港場タルニ至ラザルヲ以テ、寂寥ノ一

寒市タルニ過ギズ、然レドモ臺北ノ南部ニ至テ、此上ニ出ルノ良港ナシ、今ヨリ一貿易場トシテ之ヲ開カバ、雞籠ニ亞グノ繁昌市タルニ至ルベシ、

四、臺東誌

臺東誌

臺東ノ位置

〔位置〕 臺東ハ、臺灣島東部ノ總稱ニシテ、北緯二十二度ヨリ、二十五度ニ亘リ、東經ハ百二十度ヨリ、百二十一度二分ニ至リ、臺灣島二分ノ一強ヲ占ムルノ大土タリ、

臺東ノ廣袤人口

〔廣袤人口〕 廣袤ハ、未ダ實測ヲ經ザルヲ以テ詳カナラズトスルモ、殆ソド臺灣全島ヲ半斷シ、南北ノ延長ハ、無慮二百哩許ニシテ、東西ノ幅員、最モ廣キ處ハ、三十哩強ニ下ラズ、此廣大ナル地ニ住スル人民ハ、總テ蕃族ニシテ、其人口ハ未ダ詳カナラザルモ、約ソ十萬ヲ以テ稱セララル、今之ヲ

臺東ノ境界

臺東ノ廣土ニ配置スレバ、疎々タルモノニシテ、荒蕪ノ原野甚ダ多キハ、推シテ以テ知ルベシ、

〔境界〕 臺東ハ、西ニ一帶ノ他那山脈ヲ中心トシテ、臺南、臺灣及ビ臺北ニ境シ、北ハ蘇澳灣ヲ界トシテ、臺北ノ雞籠縣ニ接シ、南ハ臺南ノ鳳山縣ニ隣シ、他那山脈ノ盡クル處ヲ趨エテ、遠ク本島ノ最南端ニ至リ、東ハ舉ゲテ海ニ面ス、

臺東ノ區劃

〔區劃〕 臺東ハ、總テ蕃地ニ屬シ、治化未ダ及バザルヲ以テ、其區劃モ亦未ダ定ラズ、唯ダーノ臺東州廳ヲ置テ、之ヲ統轄セシムルニ過ギズ、而シテ州廳ノ設置ハ、以テ土蕃ヲ治化セシムルノ計畫ニ出ルモ、其設置日猶淺フシテ、未ダ其治ヲ實地ニ施スニ至ラズ、今ハ殆ソド有名無實ニ屬セリ、然レドモ臺東ノ治化ハ、最モ急要ニシテ、土蕃ヲ感化セシ

臺東ノ海岸

ムルニアラザレバ、臺東ノ廣土ハ、永ク未開ノ地タルヲ免レズ、蓋シ我新治ヲ施クノ日ニ値ハ、臺東ノ區劃始メテ定リ、土蕃ノ治化モ、亦著々其功ヲ奏シ、竟ニ廣土ヲシテ豊饒ノ沃野タラシムルニ至ルベシ、

臺東ノ諸港

〔海岸〕 臺東ハ、他那山脈ヲ以テ、熟地ト境界ヲ劃シ、其東面ハ渺茫タル大平洋ニ濱シ、一帶千里ノ海岸ヲ有ス、臺東所管ノ近海ハ、概シテ沙質ニ屬シ、船舶ノ往來ニ便ナラズトスルモ、港灣ヲ爲スモノ亦甚ダ多シ、本島南部ノ港灣トシテ、其名ヲ知ラル、風港、斯區港、娜嬌港、南澳、猪的東港、拔搖港等ハ、皆臺東ニ屬セリ、其東部ニ至テモ加阿、土和、撒拿爾ノ三岬ヲ中心トシテ、其南北ハ大彎形ヲ爲スヲ以テ、船舶ヲ容ルベキノ澳灣亦少カラズ、加阿岬ヨリ以南、加斯岬ニ

臺東ノ山脈及山岳

至ル、其間ノ沿岸ハ、斷崖ニシテ絕壁屹立シ、加斯岬ノ南岸ニ一澳アリ、巴亞澳ト曰フ、又加阿岬ト土和岬ノ間、刺伯河ノ注入スル處ニ二小灣アリ、撒拿爾岬ノ以北ニハ、青濤、繡坡蘭ノ二港アリ、俱ニ以テ普通ノ船舶ヲ碇泊セシムルニ足ル、其間ニ又一灣アリ、蘭阿爾岬ノ北岸ニ位シ、伯尼斯河ハ東流シテ此灣ニ注入ス、臺東所管ノ葛仔蘭廳ハ、即テ此地ニ在リ、繡坡蘭港以北ハ、小澳灣ヲ爲スモノ少カラズトスルモ、其沿岸ハ斷崖又ハ淺灘ニ屬シテ、舟路ノ便ヲ爲サス、

〔山脈〕 臺東ノ西南部ハ、他那山脈ノ最モ蟠結スル處ニ屬シ、高峯峻嶺ノ錯秀聳立スルモノ甚ダ多シ、其最モ著名ナルモノハ、西々方ニ雄武乃山アリ、摸亞山脈ト恩加山脈ノ

分岐スル處ニ分水山アリ、一萬零九百七十呎(分水山ノ南ニ魁斗山アリ、五千零六十呎)哥利密山脈ノ西南ニハ、南馬山アリ、其南ニ内優山アリ、是等ノ高山ハ、一望巍然トシテ雲霄ニ聳ユ、之ヲ要スルニ臺灣山脈ノ蟠結ハ、臺東ノ西南部ニ至テ極ルト謂フベシ、其最モ大ナルモノヲ示セバ、臺東北部ノ平原ヲ抱擁スル、細印山脈、馬細山脈、馬亞山脈、伯比山脈、刺密山脈、馬頓山脈ノ以テ臺東ノ中部ニ蟠結スルアリ、其以南ニハ、摸亞山脈、恩加山脈、斯摸爾山脈ノ大匣形ヲ爲シテ蜿蜒タルアリ、馬以亞山脈、加阿以爾山脈ノ二山脈ハ、臺東南部ノ平原ヲ圍ンデ、海岸ニ延長シ、哥利密山脈、蘭伯山脈ハ、南ニ長足ノ駛走ヲ爲シテ海ニ入ル、又最南端ニ至テ、他加字、刺英二山脈ノ海岸ニ蟠結スルアリ、

臺東ノ河流

臺東ノ大河

〔河流〕 河流ハ、之ヲ臺南、臺北ニ比スレバ、其數多カラズトスルモ、稍ヤ大河ト稱スベキモノ亦少カラズ、源ヲ他那山脈ニ發シテ、數箇ノ小河ヲ合セ、屈曲縈紆シテ、臺東北部ノ平原ヲ串通シ、分レテ二河ト爲リ、東流シテ、海ニ入ルモノアリ、其北ニ分レテ流ル、モノヲ耶拿爾河ト曰ヒ、其河口ハ之ヲ蘇澳灣トス、其東ニ直流スルモノヲ坦以伊河ト曰フ、臺東ノ中部ニ至リ、源ヲ刺耶湖ト刺某沼トニ發シ、曲折東流シテ、西比河ヲ合セ、無名沼ニ注入シテ、又斜メニ北流シテ海ニ入ルモノアリ、此河流ノ注入スル處ヲ繡坡蘭港トス、此河ニ亞グモノハ、伯尼入江ナリ、源ヲ摸亞山脈ノ尾端ニ發シテ、南北ニ分流シ、其北流スルモノハ、噶仔蘭地方ヲ抱ヘテ海ニ入ル、其南流スルモノハ、蘭阿爾岬ノ突出ス

ル一灣ニ入テ小港ヲ爲ス、又臺東ノ南部ニ至テ、大河ヲ爲スモノヲ刺普河トス、此河ハ源ヲ巴和亞摸湖ニ發シテ、加土河ヲ合セ、臺東南部ノ平原ヲ串通シテ、南北ニ分流ス、其南ニ流ル、モノハ、斜メニ東南ニ奔流シテ海ニ入り、其河口ノ南岸ニ屬スル尖角ヲ加阿岬トス、其北ニ流ル、モノハ、又二條ニ分流シ、東ヨリ北ニ向テ海ニ入ル、其最北ニ流ル、モノヲ撒爾河ト稱シ、其河口ヲ濤灣トス、刺普河ヨリ臺東ノ南部ニ至ル、其間ニハ河流ト稱スベキモノハ、拔搖港ニ注入スル一河アルニ過ギズ、此河ハ遠ク源ヲ米以、巴耶及ヒ希塞ノ三湖ニ發ス、臺東ノ南々部ニ於ケル西海岸ニ、一河ノ海ニ注入スルモノアリ、娜嬌河ト曰フ、其河口ハ即テ娜嬌灣トス、

臺東ノ平原

〔平原〕臺東ハ、臺灣平原ノ大部分ヲ占メ、其最モ廣大ナルモノハ、臺東ノ南部ト北部トニ在リ、其北部ニ在ルモノハ、細印山脈ト馬細山脈トノ漸ク低地ヲ爲セル處ヨリ起リテ、北ハ臺北ノ原野ニ連リ、東ハ海岸ニ達シ、其幅員ハ未ダ詳カナラザルモ、三十哩ニ下ラザルベシ、此レ臺東平原ノ最モ廣大ナルモノトシ、草蕪千里、入テ出ル所ヲ知ラズ、而シテ臺東ノ南部ニ在ルモノハ、三角形ヲ爲シ、茫漠タル原野タリ、此平原ハ、北ハ斯摸爾山脈ヲ境トシ、西南ハ馬以亞山脈及ヒ加阿以爾山脈ヲ界トシ、東北ハ一望濶然タル曠原ニシテ、海岸ニ達ス、唯タ纔ニ其南ハ海岸ニ至テ山地ニ屬ス、又臺東ノ最南部ニ至テ平原アリ、一山脈ヲ挾ミ、左右ノ側面ハ、即テ曠原トス、其他山脈ヲ背ニスル處ト雖モ、海

臺東ノ沼湖

岸ニ至レバ、概チ平原ニ屬ス、之ヲ要スルニ臺東ハ、平原ニ富メルノ地タリ、

〔沼湖〕 沼湖ハ、其數甚ダ多カラザルモ、臺灣最大ノ湖ハ、臺東ノ西南、斯摸爾山脈ノ抱擁スル處ニ在リ、巴和亞摸湖ト曰フ、其形臥牛ノ如ク、水甚ダ深フシテ、巨船ヲ泛フルニ足ル、刺普河ノ源ヲ發スルモノハ、即チ此大湖トス、之ニ亞グモノハ刺耶湖トス、馬細山脈ト馬頓山脈ノ分派スル處ノ西南ニ在リ、亦是レ著名ノ大湖タリ、其他ハ最南部ニ至テ巴耶、拿伊、希塞及ビ米伊以ノ四湖アリ、巴耶、拿伊、希塞ノ三湖ハ、相對向シテ鼎立形ヲ爲シ、且ツ一條ノ河流ニ由テ、三湖聯絡シ、一河ノ西ニ流レテ海ニ入ルモノヲ巴耶河ト曰フ、米伊以湖ハ、南部ノ森林中ニ在リ、此レヨリ源ヲ發シテ、

臺東ノ森林

西流海ニ入ルモノハ、即チ淡水溪トス、沼池ハ、臺東中部ノ西ニ在ルモノヲ以テ最大トシ、刺摸沼ト稱ス、此沼池ハ、刺耶湖ト水絡ヲ通シ、一河源ヲ爲シテ東流セシメ、又一ノ無名沼ニ注入ス、此沼池ノ大サハ、刺摸沼ト伯仲ノ間ニ在リ、其他ハ甚小ナルモノニシテ、舉ルニ足ラズ、

〔森林〕 森林ハ、臺東到ル處ノ山地ニ蒼蔚タリ、其最モ大ナルモノハ、摸亞山脈恩加山脈及ビ斯摸爾山脈ノ三山脈ニ包裹セラレテ、匣形ヲ爲スモノヲ以テ無比トス、此森林地ハ、臺東ノ中部ニ位置スルモ、摸亞山脈ハ迂迴シテ、森林ノ東面ヲ包ムヲ以テ、之ヲ伐採スルモ運搬ノ便ナク、數抱ノ大木ヲシテ、徒ラニ其壽ヲ延長セシムルノミ、此森林ニ亞グヘキモノハ、臺東ノ最南部ニ在リ、此森林ハ其中ニ米伊

以湖ヲ有シ、淡水溪源ヲ爲スヲ以テ、之ヲ伐採セハ、蓋シ溪
水ニ由テ西海岸ニ運搬スルコトヲ得ベシ、

【窪地】窪地ハ、臺東ノ北部ト最南端トニ在ルモノヲ以テ
最大トス、

臺東ノ礦物

【礦物】臺東ハ、他那山脈ノ蟠結スル處ニ向テ、礦山ニ富ミ、
貴金屬礦ヲ出スト曰フト雖モ、地ハ皆蕃地ニ屬シ、古來未
ダ曾テ採掘ヲ試ミザルヲ以テ、又未ダ詳カナラズ、又北部
ニ至テ、石炭礦アルモ、空シク放棄シテ、未ダ採掘セズ、北部
ハ又沙金ヲ産出シ、土人之ヲ採取シテ、利益ヲ得ル少カラ
ズ、

臺東ノ氣候

【氣候】臺東ハ、溫度最モ高ク、之ヲ臺南臺北ノ溫度ニ比ス
レバ、一層酷熱ナリ、最南部ニ至テハ、華氏百十度ヲ超過ス

臺東ノ物産

ト云フ、雨量ハ、臺南臺北ト同シク、常ニ少量トス、

【物産】臺東ハ曠濶ナル沃土ニ富ムモ、土蕃ノ巢窟ニ屬ス
ルヲ以テ、耕作セラル、地ハ僅々タルモノニシテ、平原ノ
一小部分ヲ充タスニ足ラズ、故ニ人爲ノ植物ニ至テハ、一
モ舉テ論ズルニ足ルベキモノナク、僅ニ甘薯、麻苧、蔬菜及
ビ煙草等ヲ産出スルニ過ギズ、然レモ天然ノ物産ニ至テ
ハ、臺南、臺北ト其種類ヲ同フスルノミナラズ、寧ロ一層之
ニ富メリトス、山野ノ鳥獸、河海ノ魚介ニ至テハ、最モ豐饒
ニシテ、粗製ノ獵具ヲ以テ之ヲ獲取スルモ、以テ土蕃十萬
ノ口ヲ糊スルニ餘リアリ、製造物ニ至テハ、臺東廣シト雖
モ、一モ取ルニ足ルモノナク、僅カニ土蕃ノ製スル卓戈紋、
鹿毛被樹皮ヲ以テ織ル、達戈紋苧ヲ以テ織ル、蕃毯ト稱スルモノ等アル

臺東ノ風俗

ニ過ギズ、其他土蕃ハ、粗製ノ陶器ヲ製シテ、自用品トス、
 【風俗】 臺東ハ、土蕃ノ巢窟タルヲ以テ、治化未ダ及バズ、其
 風俗ハ、南洋諸島ノ土人ト異ナル所ナク、文字ナク、宗教ナ
 ク、髮ヲ被ムリ身ニ文シ、常ニ木皮製ノ短衣ヲ纏ヒ、山地ニ
 住スルモノハ、野獸ヲ獵リ、海岸ニ居ルモノハ、水屬ヲ漁ス
 ルヲ以テ其業トシ、曾テ人類生活ノ何タルヲ知ラズ、其性
 暴戾ニシテ、鬪爭ヲ好ミ、掠奪ヲ縱マニス、

蕃社ノ名稱及
ヒ社數

【蕃社】 土蕃ニハ、生蕃熟蕃ノ二種アリ、熟蕃ハ稍ヤ感化セ
 ラレ、臺南臺北ノ熟地ニ結社シテ、部落ヲ爲スモノアリ、拔
 搖社、牛馬社、牡丹社、竹山社、金包社ト稱スルモノ、如キ是
 ナリ、此五社ハ其最モ大ナルモノニシテ、其小ナルモノニ
 至テハ甚ダ多ク、其稍ヤ名ヲ知ラル、モノ、五十餘社アリ、

是等ノ熟蕃ハ、酋長ヲ置クト否トヲ問ハズ、島廳治化ノ下
 ニ生息シテ、稍ヤ暴戾ヲ避ケ、少ク文字ヲ解スルモノアリ、
 然レドモ鬪爭相抗スルハ、其頑癖ニシテ、今猶治化ニ心服
 スルモノハ甚ダ少ク、動ヤモスレバ島治ニ抵抗ス、

生蕃ハ、純乎タル蕃族ニシテ、臺東各處ノ山地、又ハ海岸ニ
 部落ヲ爲シ、矮陋ナル茅舍ヲ結ンテ之ニ住ス、各部落ニ一
 ノ尊長アリテ、其部落ヲ統御シ、且ツ部落ノ經界ヲ定メテ、
 互ニ相侵サ、ラシム、若シ之ヲ侵スニ遇ヒハ、忽チ相鬪爭
 シ、常ニ虐殺ヲ憚ラス、此生蕃ハ、臺東中部ノ地ヲ以テ、其巢
 窟トシ、其結社ノ實數ハ、未ダ詳カナラサルモ、名ヲ知ラル
 、者ノミチ舉ルモ、一百九十六社アリ、是等ノ生蕃ハ、多キ
 ハ一千以上、寡キモ一百乃至數十ノ人口ヲ有シ、蠶々蚩々

臺東ノ都市

トシテ、山野ノ間ニ生息ス、
【都市】臺東ニハ、一モ都市ト稱スヘキモノナシ、僅ニ土蕃
部落ノ大ナルモノ相集リテ、陋里ヲ爲スニ過キス、其最モ
大ニシテ稍ヤ名ヲ知ラル、モノヲ舉レハ、噶仔蘭、繡坡蘭、
拔援、新都普、加合手、還、貴禮普、蘭亞、瑪弗、瑪利、控普及、ヒ阿加
度等トス、然レトモ皆微々タルモノニシテ以テ市トスル
ニ足ラス、

噶仔蘭

噶仔蘭 ハ、臺東州署ヲ設置スル處ニシテ、伯尼入江ヲ距
ル數哩ノ南ニ位シ、北緯二十四度五十九分、東經百二十度
二十分ニ在リ、此地ハ臺東ノ都市トシテ、人戸併列シ、稍ヤ
市形ヲ成スモ、土人ノ集合所タルニ過ギズシテ、一モ觀ル
ヘキモノナシ

繡坡蘭港

繡坡蘭 ハ、繡坡蘭港ニ在リ、此地ハ臺東ノ中央ニ位シ、且
ツ船舶碇泊ノ便アルヲ以テ、小市形ヲ成シ、其附近ニ堡武、
羅番等ノ村落アリ、此レヨリ西南ニハ、數多ノ部落アリテ、
運送ヲ要スルモノハ、概シテ此港ヨリ舟路ニ由テ運送ス
ルヲ常トス、故ニ港内ハ陋里タルモ、亦土人醫集ノ地タリ、
【附誌】 臺灣島ニ我新治ヲ施クノ日ハ、先ツ行政區劃ヲ
改定セラルヘシ、其果シテ緒ニ就クノ日ハ、未タ知ルベ
カラズトスルモ、從來ノ府縣ヲ廢シ、更ニ臺南、臺灣、臺北
ノ三縣、恒春、宜蘭、鳳山、嘉義ノ四支廳ヲ置カルベシト云
フ、

日本
新領 臺灣地誌 終

明治廿八年八月一日印刷
明治廿八年八月四日發行



著 者
發 行 者
印 刷 者
印 刷 所
發 賣 者
發 賣 者

定價金五拾錢

服部誠一
日本橋區下二番町五十六番地

中村與右衛門
日本橋區橋町四丁目十六番地

橘磯吉
京橋區弓町廿三番地

三協合資會社
京橋區弓町廿四番地

東生龜次郎
日本橋區櫻町二丁目十一番地

水野慶次郎
日本橋區通油町十八番地

本 說 明

臺灣島ハ帝國戰勝ノ結果トシテ清國ヨリ讓與セララル、所ニ係リ國威ヲ宣揚シ國權ヲ擴張スル此新領地ヲシテ速ニ我版圖タルノ實益ヲ舉ケシムルニ在リ實ニ臺灣島ハ帝國三十萬ノ貔貅カ數斛ノ鮮血ヲ流シテ獲取シタルモノトセバ苟クモ帝國臣民タルモノハ此新領地ハ内外ノ史上ニ記載セラレテ萬世ニ傳フル帝國ノ大光榮ヲ耀輝スルモノタルコトヲ知悉シ上下協同シテ俱ニ之ヲ進化ニ誘導スルニ努メザルベカラズ而シテ之ヲ進化セシムルニハ先ヅ其地理ヲ知ラザルベカラズ此レ本書ノ速成ヲ期シタル所以ニシテ其編纂ハ廣ク内外ノ書ヲ參觀シ苟クモ臺灣ニ關聯シテ事實ノ明確ナルモノハ悉ク之ヲ網羅シテ一モ漏ラスナク且ツ臺灣全圖ト數葉ノ都府圖ヲ挿入シテ對照ニ供シタリ故ニ臺灣地理書トシテハ完璧ノ良書ニシテ此右ニ出ルモノナキハ一讀シテ自ラ晰然タリ若シ夫レ我新治ヲ施キ行政區劃ヲ改定スルノ日ハ訂正増補スベキハ今ヨリ讀者ヲシテ豫期スル所トス

民國廿八年八月一日發行